

令和2年度
栗原市男女共同参画に関する市民意識調査

調査結果概要とまとめ

栗原市

目 次

I 調査の概要

1 調査の目的	1
2 調査項目	1
3 調査方法	1
4 回収状況	1
5 報告書の見方	1

II 調査結果概要とまとめ

1 回答者の属性について	8
2 男女共同の考え方について	13
3 仕事について	15
4 家庭生活について	33
5 地域活動について	40
6 教育について	45
7 少子化について	52
8 介護について	58
9 男女の人権について	60
10 男女共同参画社会の実現について	63
11 その他（自由意見）	66

I 調査概要

1 調査の目的

平成29年3月に策定した「第2次栗原市男女共同参画推進プラン」（平成29年度～令和8年度）に対する市民の男女共同参画に関する意識や、市民の家庭・職場・地域社会など日常生活のさまざまな場面における行動実態について調査・分析し、推進状況を確認するとともに、今後の事業や令和3年度のプラン中間見直しのための基礎資料とする。

2 調査項目

- (1) 回答者の属性について
- (2) 男女共同の考え方について
- (3) 仕事について
- (4) 家庭生活について
- (5) 地域活動について
- (6) 教育について
- (7) 少子化について
- (8) 介護について
- (9) 男女の人権について
- (10) 男女共同参画社会の実現について
- (11) その他、自由意見

3 調査方法

- (1) 調査期間 令和2年7月31日（金）～8月21日（金）
- (2) 調査対象者 20歳以上の市民2,000人
女性、男性各1,000人
※無作為抽出（令和2年7月1日現在）
- (3) 調査方法 行政区長による配布、返信用封筒（切手不要）による回収

4 回収状況

- (1) 回収数 942人
(女性471人, 男性453人, 回答しない6人, その他0人, 無回答12人)
- (2) 回収率 47.1パーセント

5 報告書の見方

- (1) 回答の比率（すべて百分率（％）で表示）は、その設問の回答者数を基数（件数）として算出しているため、複数回答の設問の場合、すべての比率を合計すると100%を超える場合がある。
- (2) 回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合がある。

II 調査結果概要とまとめ

1. 回答者の属性のことについて（問1～問5）

【問1】性別について

- ・ 女性50.0%（前回55.3%）、男性48.1%（前回44.3%）、回答しない0.6%、無回答1.3%

【問2】年代について

- ・ 20歳代 4.8%（女性 5.5%、男性 4.0%）、30歳代 8.7%（女性 6.6%、男性11.3%）、40歳代 12.3%（女性13.0%、男性11.7%）、50歳代 14.3%（女性14.2%、男性14.8%）、60歳代 25.4%（女性25.9%、男性25.4%）、70歳代以上 33.3%（女性34.6%、男性32.9%）

【問3】家族構成について

- ・ 全体では「2世代世帯」（43.0%）が最も多く、年代別にみても70代以上男性を除く、全年代で「2世代世帯」が最も多い。

【問4】結婚について

- ・ 「結婚している」（69.7%）、「結婚していない」（14.4%）、「離別・死別」（14.6%）

【問4付問1】結婚している人の労働形態について

- ・ 結婚している人のうち、60代・70代以上を除く年代で「ふたりとも働いている」が最も多い。

【問5・新規】LGBTという言葉の認知度について

- ・ 全体で6割以上（66.1%）の人が「LGBT」という言葉を知っている。

○まとめ

回答者の半数以上が60歳代以上である。（58.7%）

「LGBT」という言葉の認知度は、全体の6割以上となった。

2. 男女共同の考え方について（問6～問7）

【問6】男女共同参画という言葉の認知度について

- ・ 全体の7割以上（76.4%）の人が「男女共同参画社会」という言葉を知っている。（前回：58.6%）

【問7】「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という固定的性別役割分担意識について

- ・ 固定的性別役割分担意識に「反対」47.8%となり、「賛成」（29.6%）を上回った。

○まとめ

「男女共同参画社会」という言葉自体は多く認知されていることが分かる。

「くりはら男女共同参画推進プラン」において、「男女共同参画社会」という言葉の認知度の目標70%は達成できた。

しかし、固定的性別役割分担意識での男女平等の目標値は「60%以上」であるため、さらに理解を深めてもらうため、引き続き情報提供や啓発活動が必要である。

3. 仕事について（問7～問16）

【問8】職業について

- ・ 職業の状況は、女性では5割以上(55.2%)、男性では7割以上(70.9%)が職業についている。

【問8付問1】職場における男女の平等について

- ・ 職場において、53.0%が「男女平等」だと感じており、「男性優遇」（7.9%）、「どちらかといえば男性優遇」（25.2%）の合計33.1%を上回っている。
（前回：「男女平等」51.1%、「男性優遇」12.4%、「男性やや優遇」22.0%）

【問9-①】「育児休業」の取得について

- ・ 「育児休業」を取得について、女性では56.1%、男性では61.4%が「取得したことがない」と答えている。「取得したことがある」は、女性20.1%、男性1.8%だった。

【問9-②】男性の「育児休業」の取得について

- ・ 男女ともに6割以上の人「取ったほうがよい」と思っている。（女性66.3%、男性

【問9-③】男性が「育児休業」を取得できない（取得しない）理由について

- ・ 男性が「育児休業」を取得できない（取得しない）理由は、「職場の理解が得られない」（21.9%）、「男性の取得の例がない、少ない」（21.5%）、「仕事に支障がある」（20.7%）となっている。

【問10・新規】第1子出産後の仕事について

- ・ 男女別、全体的でみても「出産後まもなく仕事に復帰した」と答えた人が多かった。

【問11-①】「介護休業」の取得について

- ・ 「介護休業」を取得したことがある人は、全体で5.0%（前回3.2%）であった。

【問11-②】男性の「介護休業」の取得について

- ・ 男性の介護休業取得について、「積極的にとった方がよい」（32.8%）、「どちらかといえば取った方がよい」（39.6%）が多かった。

【問11-③】男性が介護休業を取得できない（取得しない）理由について

- ・ 男性が「介護休業」を取得できない（取得しない）理由は、「職場の理解が得られない」（22.6%）、「仕事に支障がある」（21.4%）、「男性の取得の例がない、少ない」（19.9%）となっている

【問12】女性が職業につくことについて

- ・ 女性が職業に就くことに関しては「結婚して子供ができて、職業を持ち続けた方がよい」（48.9%）、「子供が生まれたら職業を離れるが、子どもに手がかからなくなったら再び職業についた方がよい」（32.5%）となっている。

【問13】女性が働き続けるために必要なことについて

- ・ 女性が働き続けるために必要なことは、「育児・介護休業の充実」（47.2%）、「保育・介護施設等の整備」（45.3%）であった。

【問14】マタニティ・ハラスメントの認知度について

- ・ マタニティ・ハラスメントの認知度は、「言葉も内容も知っている」（67.3%）、「言葉を見聞きしたことがあるが、内容は知らない」（20.2%）となり、言葉としての認知度は87.5%となっている。

【問15】ワーク・ライフ・バランスの認知度について

- ・ ワークライフ・バランスの認知度は、「言葉も内容も知っている」(29.6%)、「言葉を見聞きしたことがあるが、内容は知らない」(29.9%)、「知らない」(37.3%)となっている。

【問16】ワーク・ライフ・バランスの実際(現状)と理想について

- ・ 仕事とプライベートの時間について、実際(現状)は、「プライベートよりも仕事優先」(44.8%)が「両立している(してきた)」(40.6%)を少し上回っている。

○まとめ

男性の育児・介護休業の取得については、活用した男性が少なく、「取った方がよい」、「どちらかと言えば取った方がよい」の割合が多いものの、「職場の理解が得られない」、「仕事に支障がある」という理由で取得できない状況である。夫婦共働き世帯が増加傾向にあることから、男性の育児・介護休業の取得に関する企業向けの啓発や、男性の立場・視点から理解を深めるための啓発が必要である。

仕事について、女性は5割以上が職業についており、第1子出産後の仕事については、「出産後まもなく仕事に復帰した」割合が高くなっている。

女性が職業につくことに対して「結婚して子供ができて、職業を持ち続けた方がよい」と答える方の割合が高く、女性が働くことに対する意識や理解がより高まっていることが伺える。

マタニティ・ハラスメントについては、全年代で言葉も内容も認知されている割合が高いが、ワーク・ライフ・バランスについては、全体的に認知されていない。

また、理想では、多くの方が「プライベートと仕事を両立したい」と思っているが、実際(現状)は、全体の44.8%が「プライベートよりも、仕事優先」と回答しているため、引き続き、仕事と生活の調和に関する意識啓発が必要である。

4. 家庭生活について(問17~問18)

【問17】家庭生活の役割について

- ・ 家庭生活では、前回と同様、全体的に女性が担っている割合が高い。特に、女性の回答で「主に女性」の割合が高い。

【問18】家庭における男女の平等について

- ・ 家庭において、「男女平等」と答えた方が全体で43.0%(前回27.8%)となっており、「男性優遇」(11.7%)、「どちらかといえば男性優遇」(30.8%)の合計42.5%を上回っている(前回:「男女平等」27.8%、「男性優遇」35.9%、「男性やや優遇」23.6%)。家庭での男女平等の意識が、男性優遇から男女平等へ変化してきている。

○まとめ

全体的に女性が担っている割合が高いが、男性の分担が、わずかだが増加していることが分かる。

家庭での固定的性別役割分担意識の平等の目標値は「60%以上」であるため、引き続き家庭での「男女共同参画」の意義について理解を深めてもらうよう、情報提供や啓発が必要である。

5. 地域活動について（問19～問21）

【問19】地域活動への参加について

- ・ 地域活動では、前回同様、全体的に参加しない人の割合が高い。

【問20】防災・災害復興対策で必要な対応について

- ・ 防災・災害復興対策で必要な対応は、「衛生用品等の供給体制」（60.2%）、「避難所の設置・運営体制」（58.3%）、「災害時の救援医療体制」（51.0%）となっている。

【問21】地域のリーダーが少ない理由について

- ・ 地域の女性リーダーが少ない理由は、「女性は補助的役職につく慣習がある」（30.3%）、「女性は責任のある役を引き受けたがらないから」（18.4%）「女性は家事・育児・介護などで忙しいから」（17.3%）となっている。

○まとめ

地域活動は、全体的に参加しない人の割合が多い。

防災・災害復興対策で必要だと思う対応として「衛生用品等の供給体制」「避難所の設置・運営体制」の割合が高い。

地域の女性リーダーが少ない理由は、「補助的役職につく慣習」や「引き受けたがらない」という意見があり、地域の活性化や少子高齢化の問題解決のためには、男女が共に参画し、男女共同参画の視点を取り入れた地域活動の推進が必要であるため、情報提供や普及・啓発等を行う必要がある。

6. 教育について（問22～問24）

【問22】自分の子供の教育について

- ・ 前回との大きな差はなく、「大学」程度の教育を受けさせたい人が最も多い。
（女の子49.8%、男の子63.5%）

【問23】学校教育の場で望むことについて

- ・ 学校教育では、「男女の別によらず能力を生かせるように配慮する」（68.2%）、「男女にかかわりなく、働くことの意義を教える」（54.7%）、「男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実させる」（51.6%）が多い。

【問24】社会教育・生涯学習の場で望むことについて

- ・ 社会教育・生涯学習では、「男女問わず生涯にわたる学習やスポーツ活動の機会を充実させる」（48.8%）「社会通念や慣習を改めるための啓発活動を実施する」（41.1%）が多い。

○まとめ

教育については、男女とも「大学程度」までを望んでいる

男女共同参画推進のために、学校教育や社会教育・生涯学習に求められていることの多くは、男性女性とも「男女にかかわらない平等な教育・指導」や、「幅広い年代での推進」が求められている。

7. 少子化について（問25～問26）

【問25】少子化の要因について

- ・ 少子化の要因として、前回同様「結婚しない人や晩婚の人が増えた」（63.2%）（※前回63.6%）、「教育費など経済的負担が大きいから」（51.6%）（※前回55.1%）が多い。

【問26】子育てをしやすい環境整備について

- ・ 子育てをしやすい環境整備は、「児童手当などの充実」（56.5%）、「保育制度の充実」（46.6%）が多かった。

○まとめ

男女共同参画推進の課題の一つである少子化について、その要因を「未婚晩婚化」と思う人が多い一方、やはり「経済的負担」と答える方も多い。

また、子育てのしやすい環境は、「児童手当などの充実」が多く、20～40代では「子育て中のフレックスタイム勤務や父親の育児休業を取得しやすい職場環境」が多く、夫婦共働き世帯が増えていることから、子育てを支援するサービスや施設、男性の家事・育児への啓発が必要である。

8. 介護について（問27）

【問27】自分に介護が必要になった場合について

- ・ 介護が必要となった場合、「施設（老人ホームなど）に入る」が全体的に多い。（※前は「家族、親族に中心となって世話をしてもらい、その足りない部分を在宅福祉サービスでおぎなってもらう」が多かった）

【問27付問1】家族に介護を望む場合について

- ・ 家族に介護してもらう場合、「配偶者」を介護者に望む人が男女とも多く（女性：39.7%、男性：64.9%）、次いで、「娘」が男女とも多い（女性25.0%、男性11.7%）となってい

○まとめ

前は、男性では、介護の担い手を「家族や親族中心」へ望む声が多かったが、今回は全体的に「施設（老人ホームなど）に入る」声が多かった。

「在宅福祉サービス」を含んださまざまな介護パターンがあることから、生涯にわたり自立した生活が送れるよう、健康づくりの支援が必要である。

また、家族に介護してもらう場合、ほとんどの年代で「配偶者」を望む割合が高いが、「娘」を望む声も多く、女性に介護を期待する傾向があるため、男性も介護に携わることができるよう、サービスや啓発などが必要である。

9. 男女の人権について（問28～問29）

【問28】DVの経験について

- ・ 女性では12.5%（前回14.1%）、男性では2.4%（前回2.2%）が、配偶者やパートナーから暴力をふるわれた経験があると回答している。

【問28付問1】暴力の相談先について

- ・ 暴力の相談先は、「家族・親族」（37.4%）、「知人・友人」（15.4%）が多いが、「誰にも相談しなかった」が28.6%となっている。

【問29】暴力の相談をされた時の対応について

- ・ まわりの方から相談された場合、「行政等の相談窓口を紹介する」（46.7%）「自分のできる範囲で相談にのる」（38.5%）の割合が多い。

○まとめ

暴力をふるわれた時の相談先は、「家族・親族」、「知人・友人」が多いが、DVだとの認識が低かったり、相談窓口を知らなかったなどの理由で、「誰にも相談していない」人が男性では54.5%、女性では25.0%となっており、DV予防のための啓発活動はもちろんのこと、被害の相談窓口の広報等を強化する必要がある。

10. 男女共同参画社会の実現について（問30）

【問30】男女共同参画社会の推進のために、市がすべきことについて

- ・ 市に望むことは、「職場における男女の均等な取り扱いの周知徹底」（19.9%）「保育や介護施設、サービスの充実」（19.9%）となっており、前回とほぼ同様である。

○まとめ

少子高齢化が進み、夫婦共働きが増えているなかで、仕事と子育てや介護の両立で問題を抱える人も増えており、全年代で「職場における男女の均等な取扱いについての周知徹底」や「保育や介護施設、サービスの充実」の割合が高く、子育てや介護を支援する施設・サービスの充実が求められている。

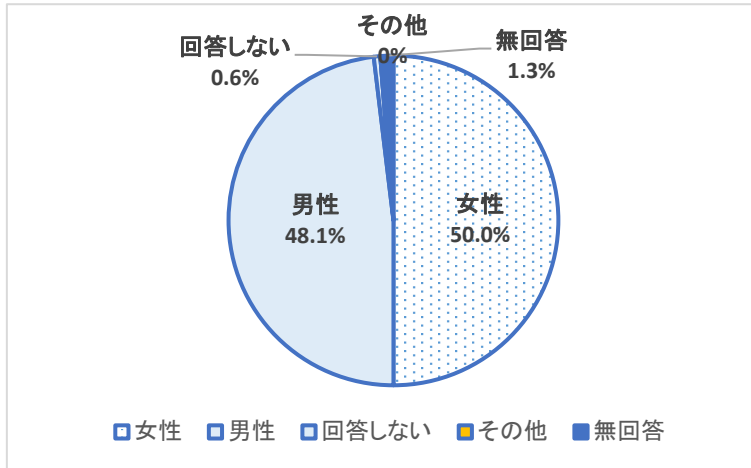
Ⅲ 調査結果

回答者の属性について

○性別

問1 あなたの性別について、教えてください。

(女性471人 男性453人 回答しない6人 その他0人 無回答12人 合計942人)



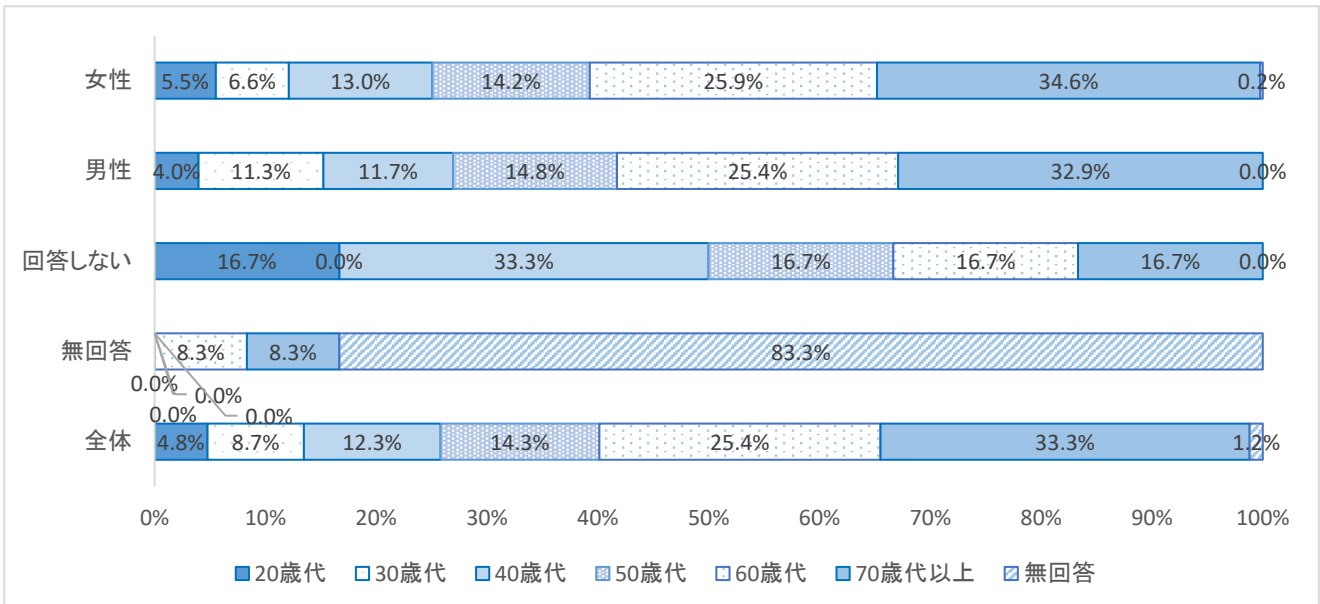
□前回の調査（平成27年）との比較

	今回		前回
	回答数	割合	割合
女性	471	50.0%	55.3%
男性	453	48.1%	44.3%
回答しない	6	0.6%	-
その他	0	0.0%	-
不明	-	-	0.4%
無回答	12	1.3%	-
計	942	100.0%	100.0%

○年齢

問2 あなたの年齢は、どの年代にあてはまりますか？

(女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人)



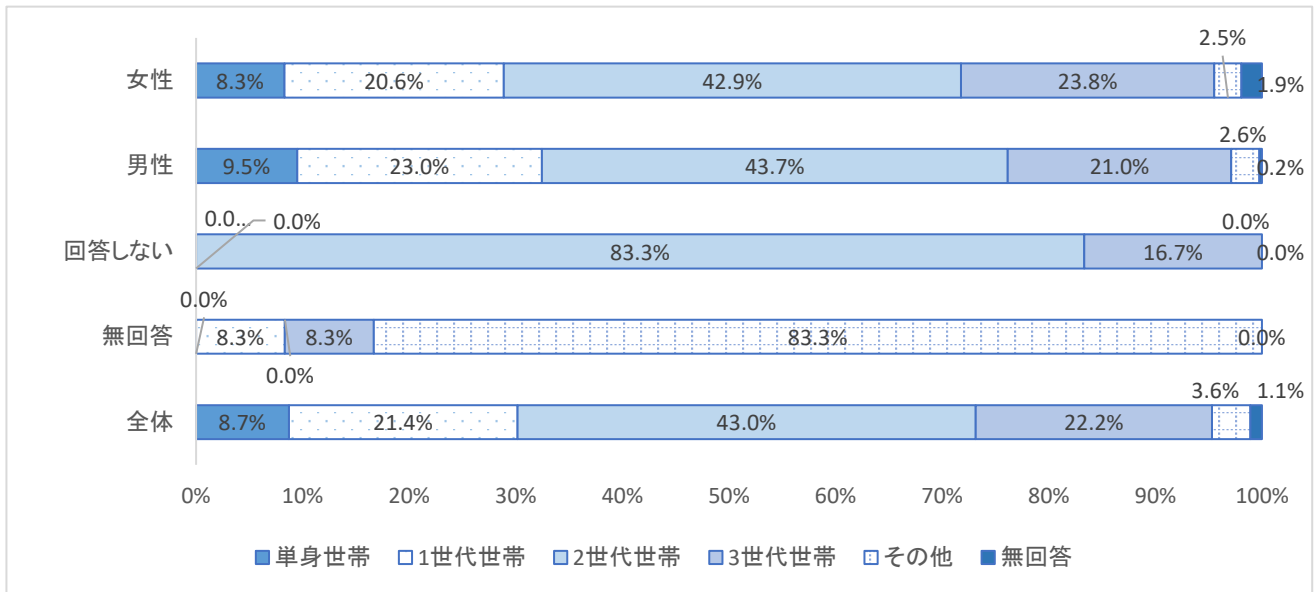
□前回の調査（平成27年）との比較

	女性			男性			今回		合計		
	今回		前回	今回		前回	回答しない	無回答	今回		前回
	回答数	割合	割合	回答数	割合	割合			回答数	割合	割合
20歳代	26	5.5%	12.8%	18	4.0%	12.4%	1	0	45	4.8%	12.6%
30歳代	31	6.6%	17.4%	51	11.3%	13.8%	0	0	82	8.7%	15.9%
40歳代	61	13.0%	19.2%	53	11.7%	16.5%	2	0	116	12.3%	17.9%
50歳代	67	14.2%	23.0%	67	14.8%	25.9%	1	0	135	14.3%	24.2%
60歳代	122	25.9%	15.2%	115	25.4%	16.3%	1	1	239	25.4%	15.6%
70歳代以上	163	34.6%	12.1%	149	32.9%	15.2%	1	1	314	33.3%	13.4%
無回答	1	0.2%	0.2%	0	0.0%	0.0%	0	10	11	1.2%	0.4%
計	471	100.0%	100.0%	453	100.0%	100.0%	6	12	942	100.0%	100.0%

○家族構成

問3 あなたの家族構成はどれにあてはまりますか？

(女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人)

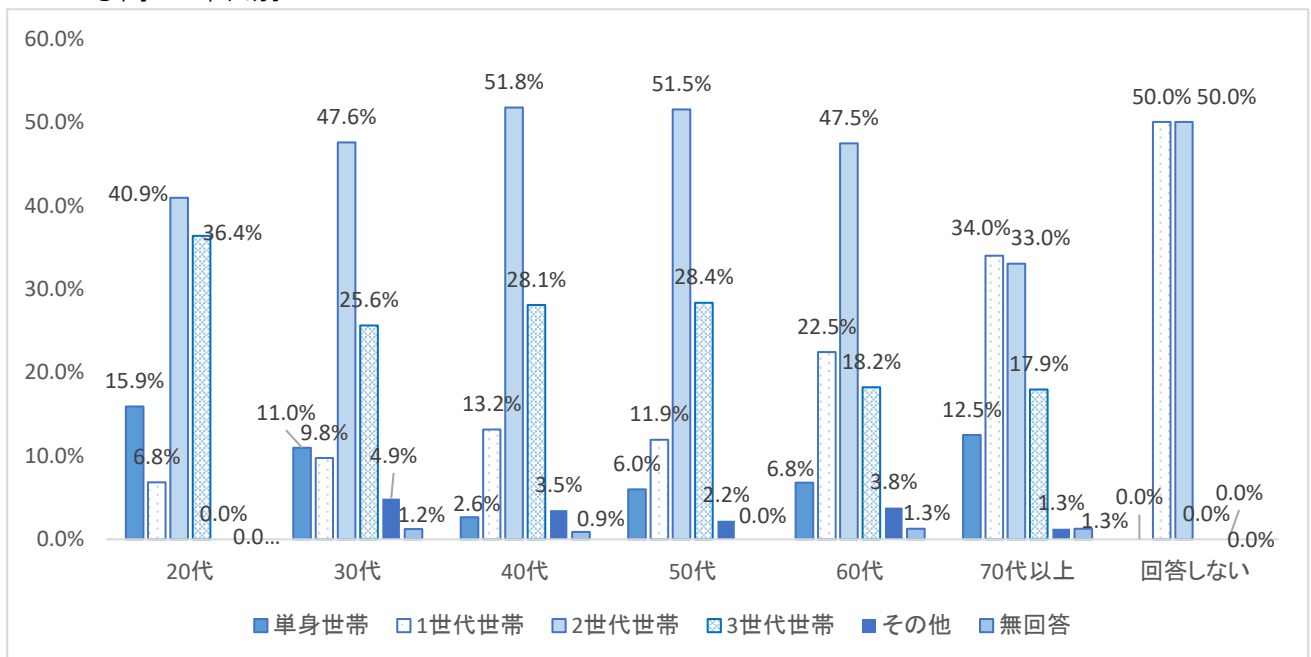


※「その他」の家族構成は、「4世代世帯」など。

□前回の調査（平成27年）との比較

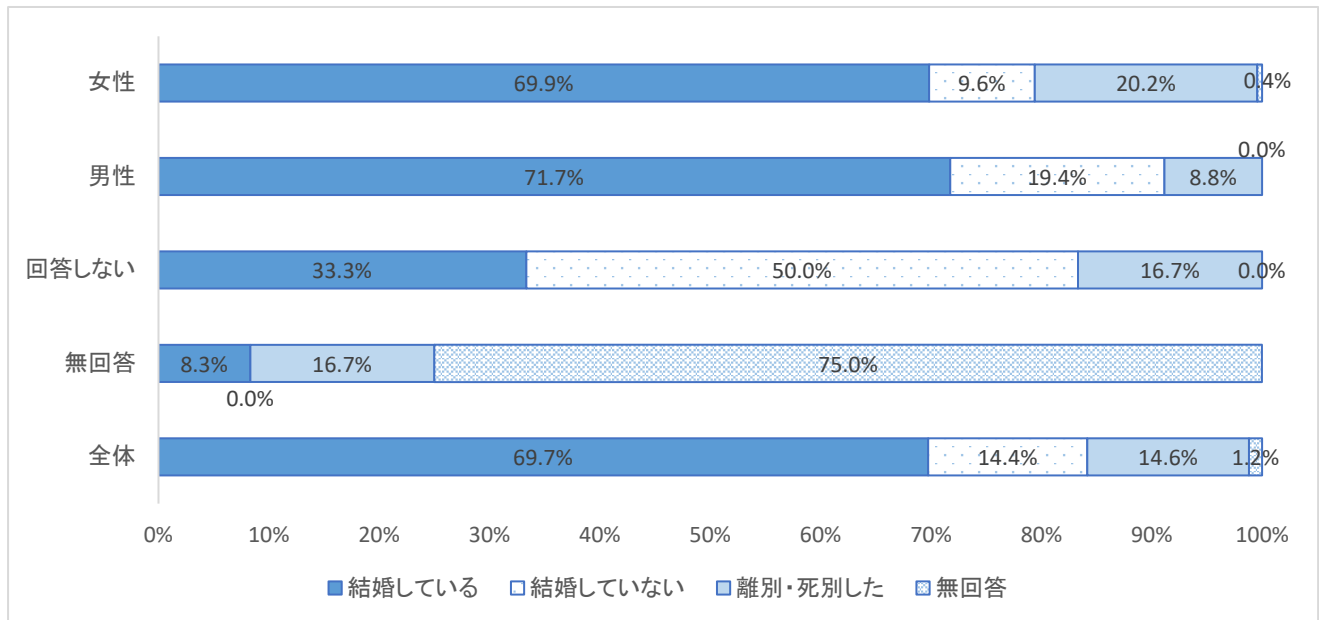
	女性			男性			今回		合計		
	今回		前回	今回		前回	回答しない	無回答	今回		前回
	回答数	割合	割合	回答数	割合	割合			回答数	割合	割合
ひとり暮らし	39	8.3%	7.5%	43	9.5%	6.1%	0	0	82	8.7%	6.8%
夫婦ふたり暮らし	97	20.6%	15.7%	104	23.0%	18.2%	0	1	202	21.4%	16.7%
2世代同居	202	42.9%	37.3%	198	43.7%	47.7%	5	0	405	43.0%	41.8%
3世代同居	112	23.8%	35.8%	95	21.0%	26.7%	1	1	209	22.2%	31.7%
その他の世帯	12	2.5%	2.9%	12	2.6%	0.8%	0	10	34	3.6%	2.0%
無回答	9	1.9%	0.9%	1	0.2%	0.6%	0	0	10	1.1%	1.0%
計	471	100.0%	100.0%	453	100.0%	100.0%	6	12	942	100.0%	100.0%

○問3 年代別



○配偶関係

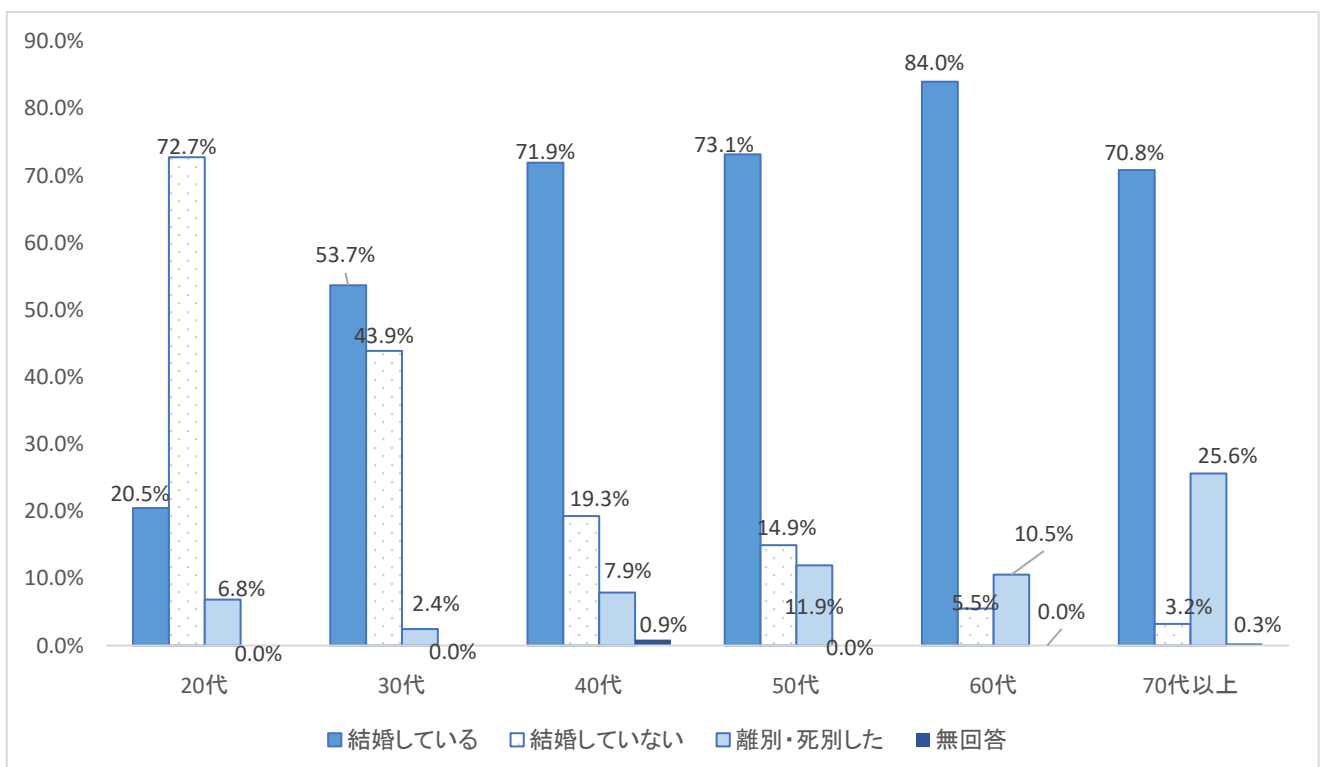
問4 あなたは現在、結婚していますか？（事実婚を含みます）。
（女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人）



□前回の調査（平成27年）との比較

	女性			男性			今回		合計		
	今回		前回	今回		前回	回答しない	無回答	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比			回答数	構成比	構成比
結婚している	329	69.9%	68.9%	325	71.7%	65.3%	2	1	657	69.7%	67.0%
結婚していない	45	9.6%	18.5%	88	19.4%	27.0%	3	0	136	14.4%	22.3%
離別・死別した	95	20.2%	12.4%	40	8.8%	7.4%	1	2	138	14.6%	10.1%
無回答	2	0.4%	0.2%	0	0.0%	0.3%	0	9	11	1.2%	0.5%
計	471	100.0%	100.0%	453	100.0%	100.0%	6	12	942	100.0%	100.0%

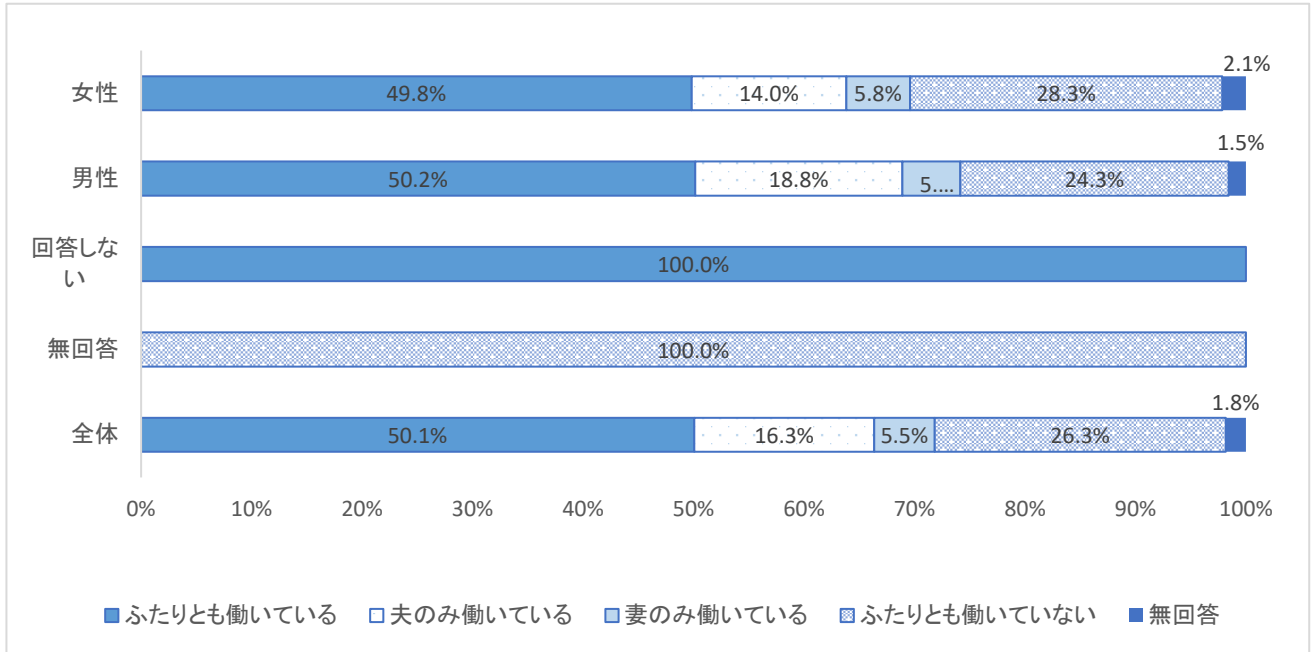
○問4 年代別



【問4で「1. 結婚している（配偶者・パートナーがいる）」と回答した方に伺います。】

○付問1 あなたと配偶者等の労働形態はどれにあたりますか。

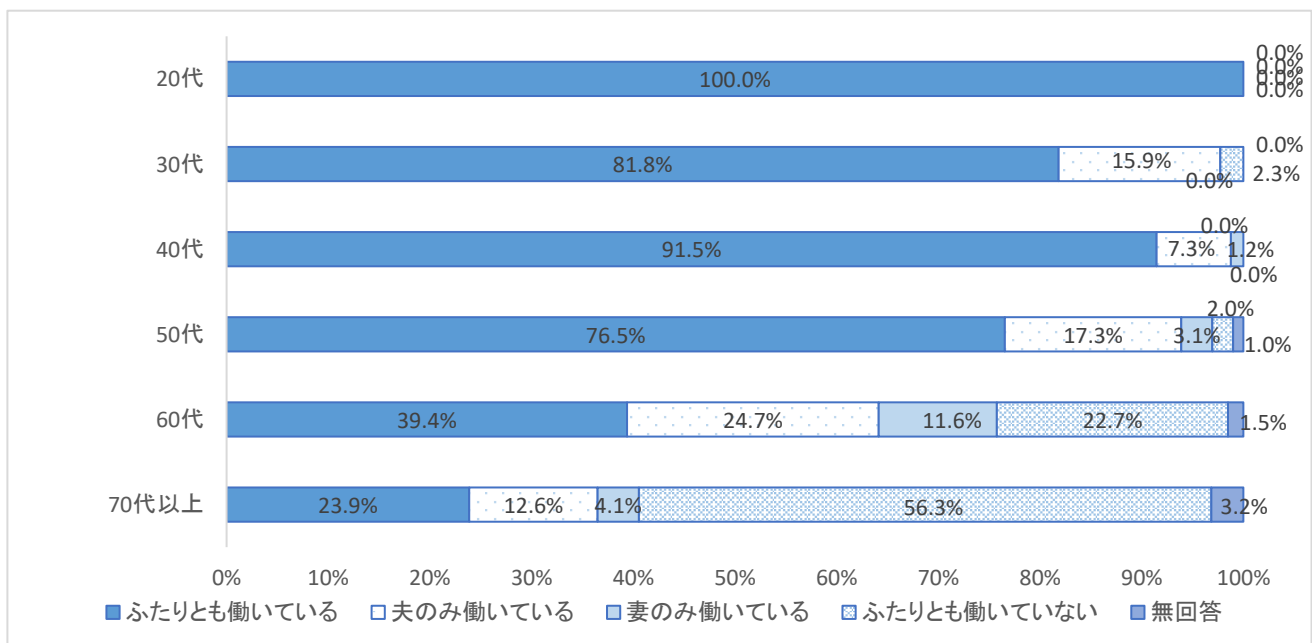
（女性329人 男性325人 合計654人）



□前回の調査（平成27年）との比較

	女性			男性			今回		総数		
	今回		前回	今回		前回	回答しない	無回答	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比			回答数	構成比	構成比
夫婦共働き	164	49.8%	61.5%	163	50.2%	62.0%	2	0	329	50.1%	61.7%
夫のみ働いている	46	14.0%	16.0%	61	18.8%	19.0%	0	0	107	16.3%	17.3%
妻のみ働いている	19	5.8%	5.1%	17	5.2%	3.8%	0	0	36	5.5%	4.6%
ふたりとも働いていない	93	28.3%	14.7%	79	24.3%	13.9%	0	1	173	26.3%	14.4%
無回答	7	2.1%	2.6%	5	1.5%	1.3%	0	0	12	1.8%	2.0%
計	329	100.0%	100.0%	325	100.0%	100.0%	2	1	657	100.0%	100.0%

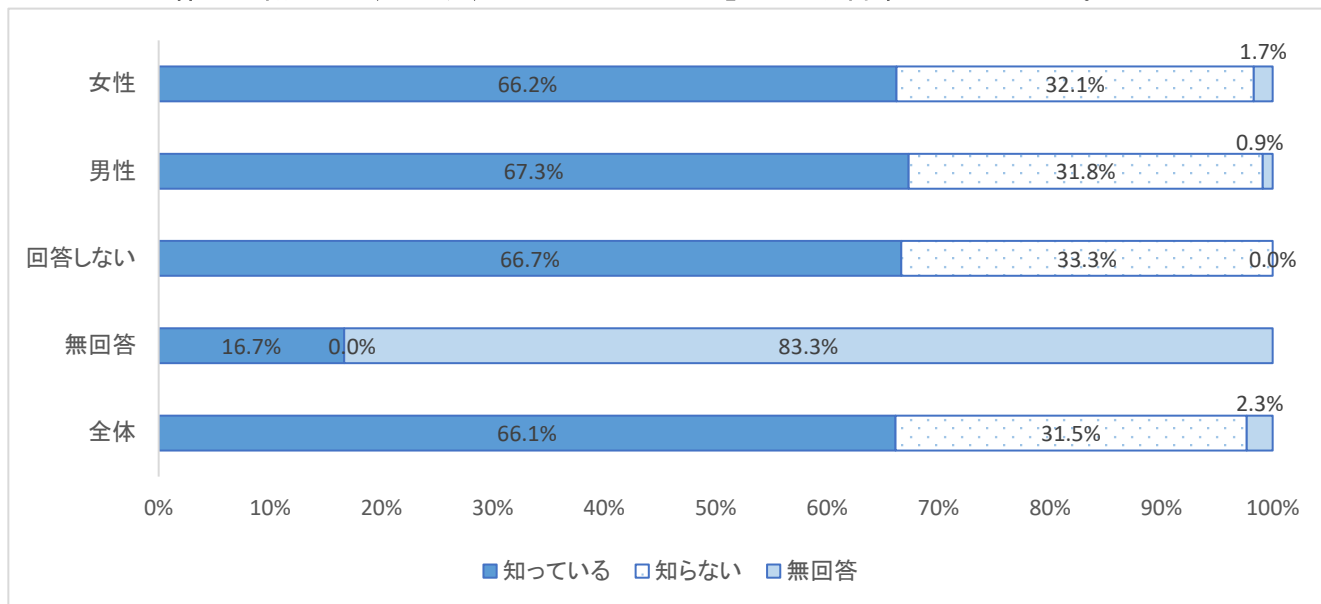
○付問1 年代別



問5 あなたは「LGBT」という言葉を知っていますか。

(女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人)

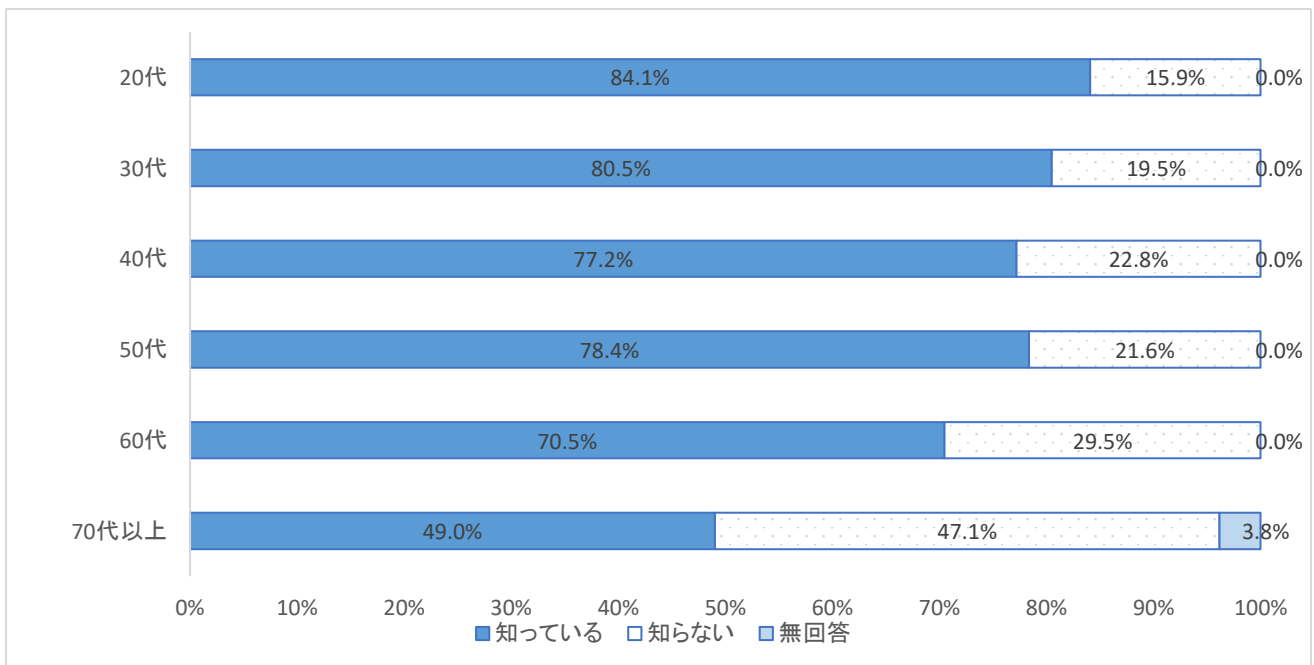
● 全体で6割以上(66.1%)の人が「LGBT」という言葉を知っている。



「LGBT」という言葉を「知っている」人の割合が66.1%で、「知らない」人の割合31.5%を上回っている。

男女別にみると、「知っている」は女性が66.2%、男性が67.3%、「知らない」は女性32.1%、男性31.8%で、男女の認知度は、ほぼ同じである。

○問5 年代別



□調査結果

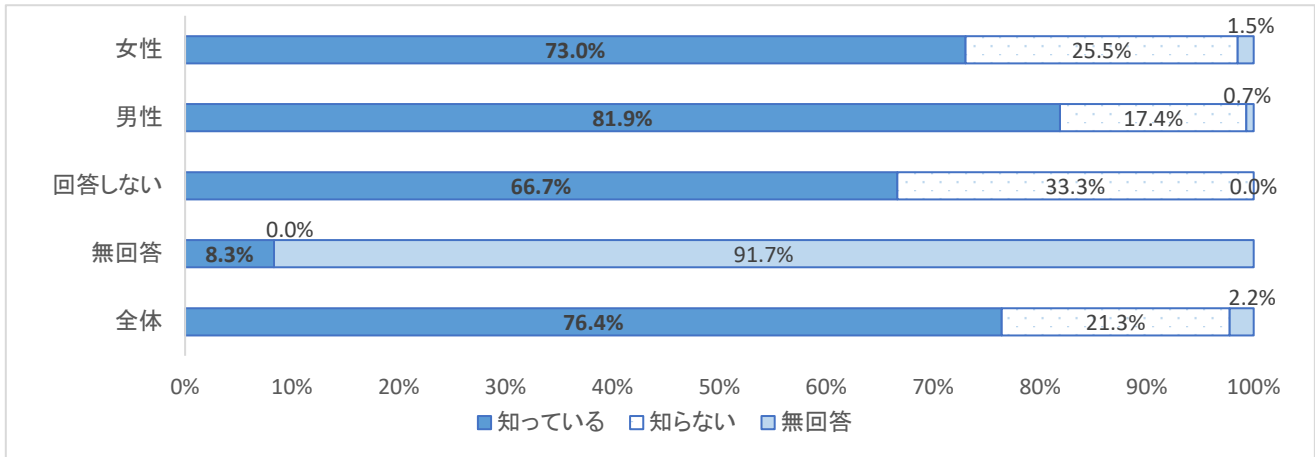
	女性			男性			今回		合計		
	今回		前回	今回		前回	回答しない	無回答	今回		前回
	回答数	割合	割合	回答数	割合	割合			回答数	割合	
知っている	312	66.2%	-	305	67.3%	-	4	2	623	66.1%	-
知らない	151	32.1%	-	144	31.8%	-	2	0	297	31.5%	-
無回答	8	1.7%	-	4	0.9%	-	0	10	22	2.3%	-
計	471	100.0%	-	453	100.0%	-	6	12	942	100.0%	-

男女共同の考え方についておたずねします

問6 あなたは「男女共同参画社会」という言葉を知っていますか。

(女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人)

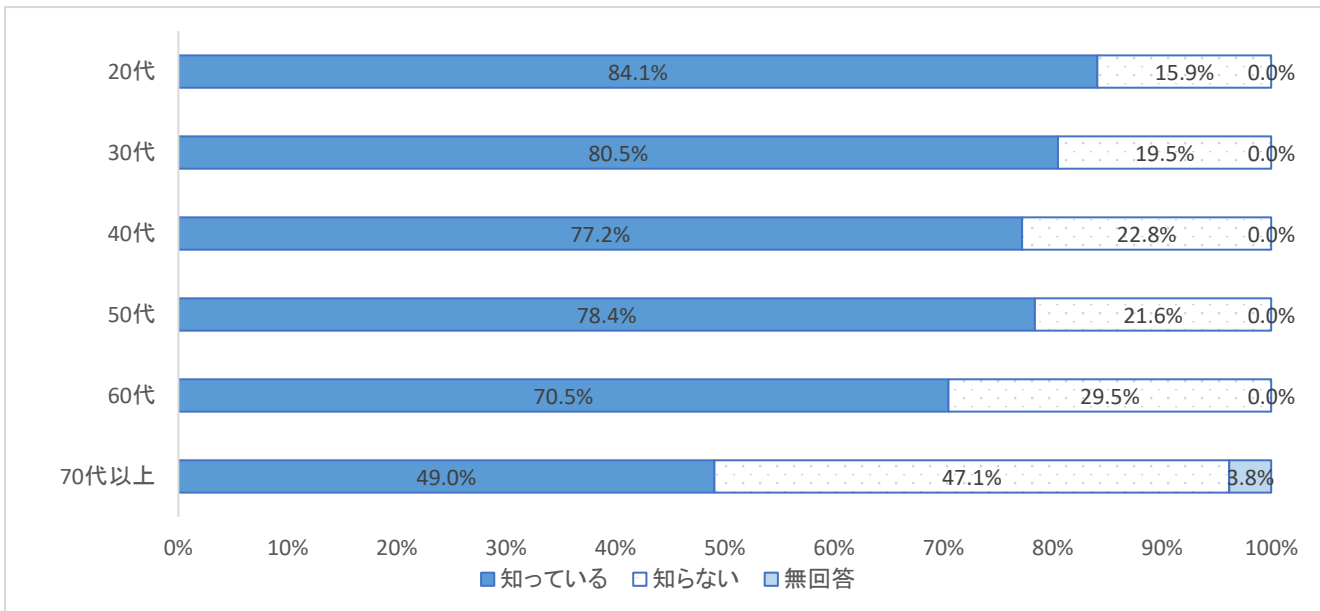
● 全体の7割以上 (76.4%) の人が「男女共同参画社会」という言葉を知っている。



「男女共同参画社会」という言葉を「知っている」人の割合が76.4%で、「知らない」人の割合21.3%を大幅に上回っている。

男女別にみると、「知っている」は女性が73.0%、男性が81.9%であり、男性の割合が少し高い。

問6 年代別



前回の調査（平成27年）との比較

	女性			男性			今回		合計		
	今回		前回	今回		前回	回答しない	無回答	今回		前回
	回答数	割合	割合	回答数	割合	割合			回答数	割合	割合
知っている	344	73.0%	57.8%	371	81.9%	59.8%	4	1	720	76.4%	58.6%
知らない	120	25.5%	41.3%	79	17.4%	39.4%	2	0	201	21.3%	40.3%
無回答	7	1.5%	0.9%	3	0.7%	0.8%	0	11	21	2.2%	1.1%
計	471	100.0%	100.0%	453	100.0%	100.0%	6	12	942	100.0%	100.0%

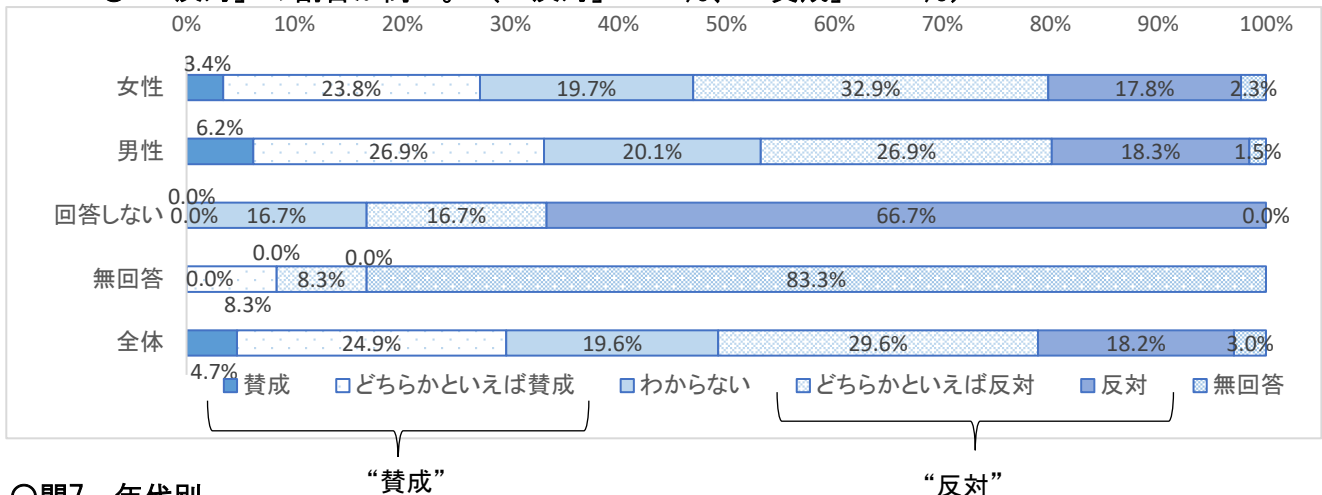
男女の合計でみると、前回までは「知っている」と答えた人の割合は平成22年は53.0%、平成28年は58.6%でしたが、今回は76.4%と大幅に上がっている。

男女共同参画の意識が市民に広がっていることがわかる。

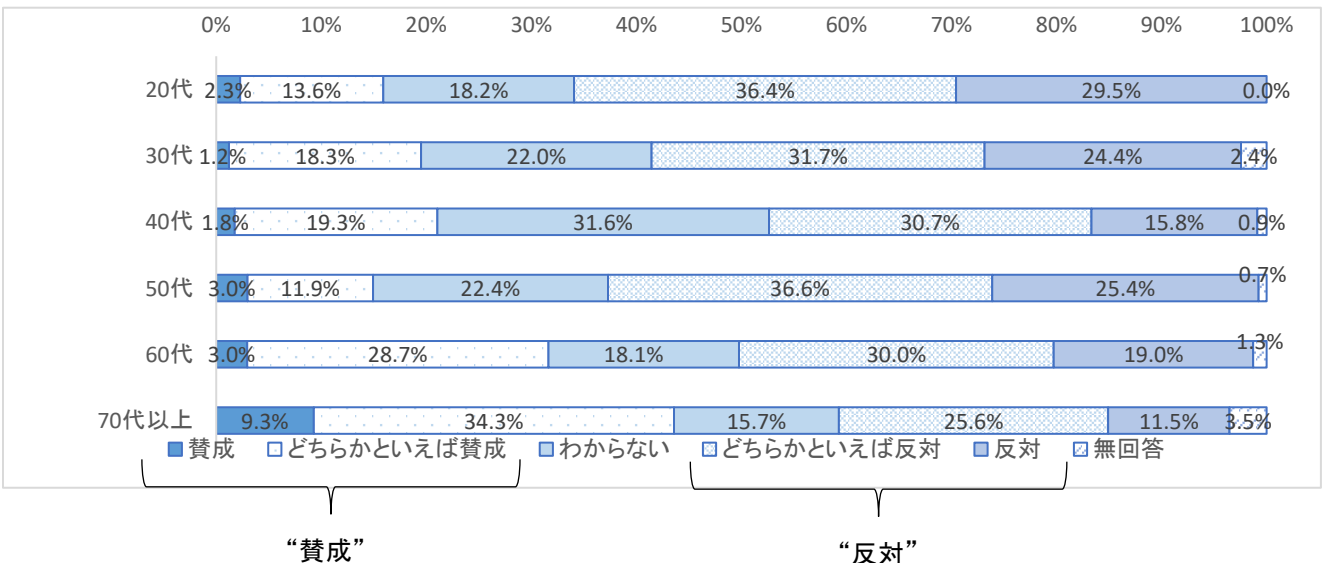
問7 あなたは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どのように思いますか。

(女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人)

● 「反対」の割合が高い。(「反対」47.8%、「賛成」29.6%)



○問7 年代別



□前回調査(平成27年)との比較

	女性			男性			今回		合計		
	今回		前回	今回		前回	回答しない	無回答	今回		前回
	回答数	割合	割合	回答数	割合	割合			回答数	割合	割合
賛成	16	3.4%	4.4%	28	6.2%	9.1%	0	0	44	4.7%	6.5%
どちらかといえば賛成	112	23.8%		122	26.9%		0	1	235	24.9%	
わからない	93	19.7%	37.7%	91	20.1%	37.2%	1	0	185	19.6%	37.4%
どちらかといえば反対	155	32.9%	56.5%	122	26.9%	53.2%	1	1	279	29.6%	54.9%
反対	84	17.8%		83	18.3%		4	0	171	18.2%	
無回答	11	2.3%	1.3%	7	1.5%	0.6%	0	10	28	3.0%	1.2%
計	471	100.0%	100.0%	453	100.0%	100.0%	6	12	942	100.0%	100.0%

今回は、「賛成(賛成・どちらかといえば賛成)」と答えた人の割合は、前回は6.5%であったのに比べて、今回は29.6%に増加し、「反対」と答えた人の割合は54.9%から47.8%に減少している。

また、「反対」と答えた人の割合は、女性が56.5%から50.7%に減少し、男性も53.2%から45.2%に減少している。前回に比べ「賛成」と答えた人の割合が高くなったことの要因として、回答者の高齢世代の割合が高いことが要因の一つと言える。

全年代の女性が「反対」と答えた割合も高く、女性が活躍する場へ出ていくことへの意欲が見受けられる。

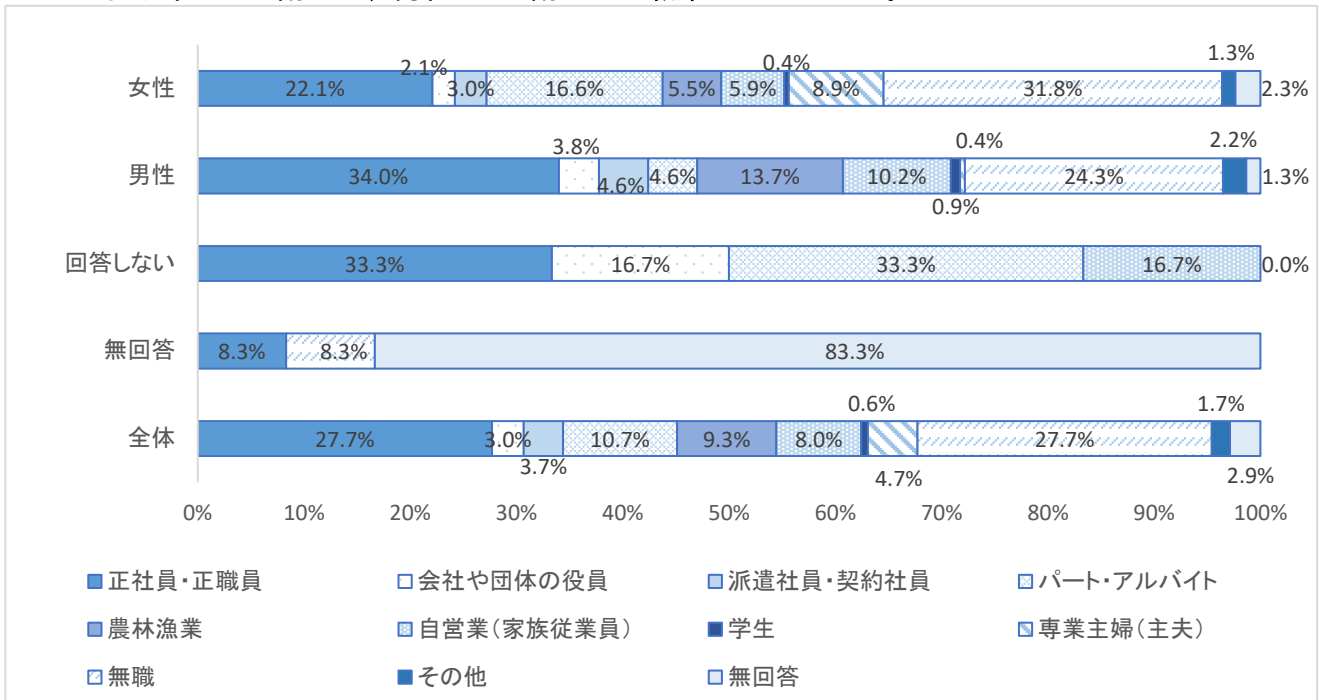
仕事についておたずねします

問8 あなたの職業は何ですか。

※複数の仕事がある場合は、主なものを1つお答えください。

(女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人)

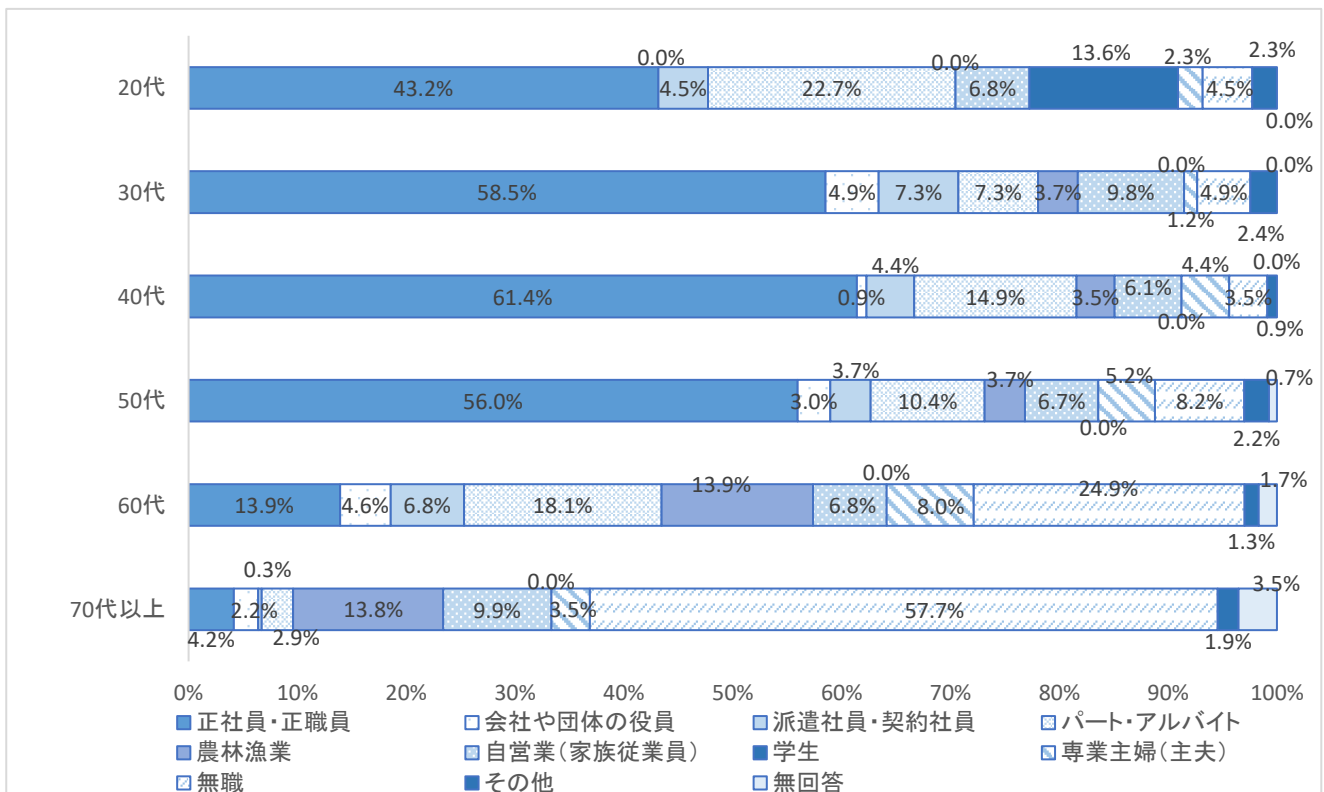
● 女性では5割以上、男性では7割以上が職業についている。



「正社員・正職員」、「会社や団体の役員」、「派遣社員・契約社員」、「パート・アルバイト」、「農林漁業」、「自営業(家族従業員)」についている人を合計すると、女性は55.2%、男性は70.9%となっている。

「パート・アルバイト」の割合は、男性よりも女性の割合の方が高い。

問8 年代別

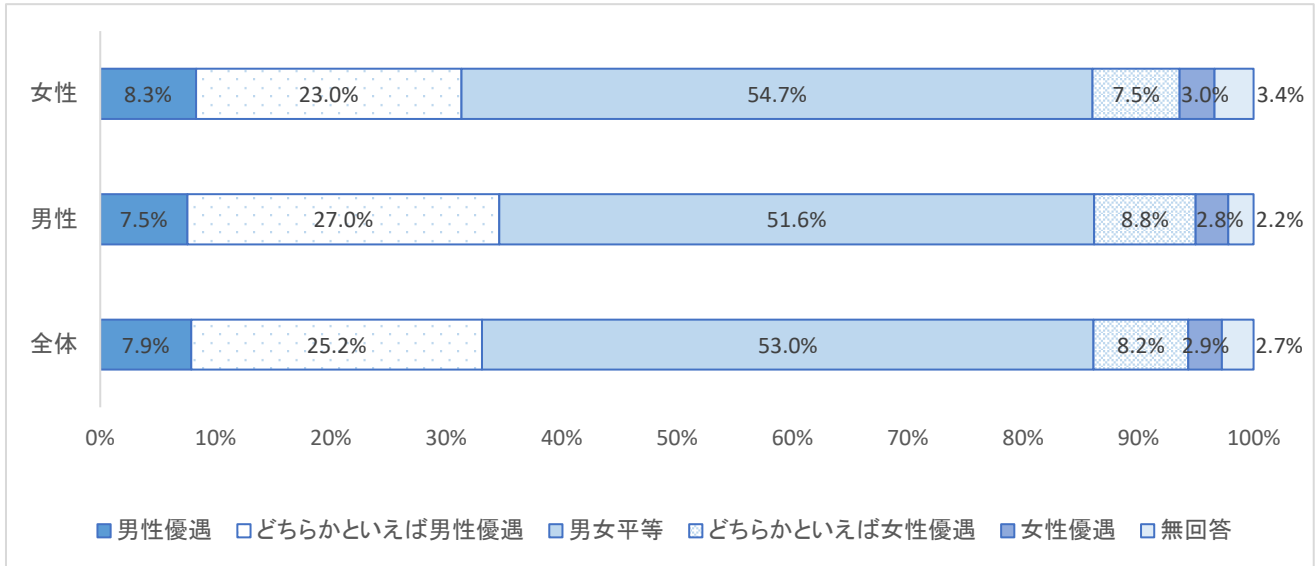


【問8で「1」～「6」に回答した方に伺います。】

○付問1 あなたの職場では、男女平等であると思いますか。1つお選びください。

(女性265人 男性318人 合計583人)

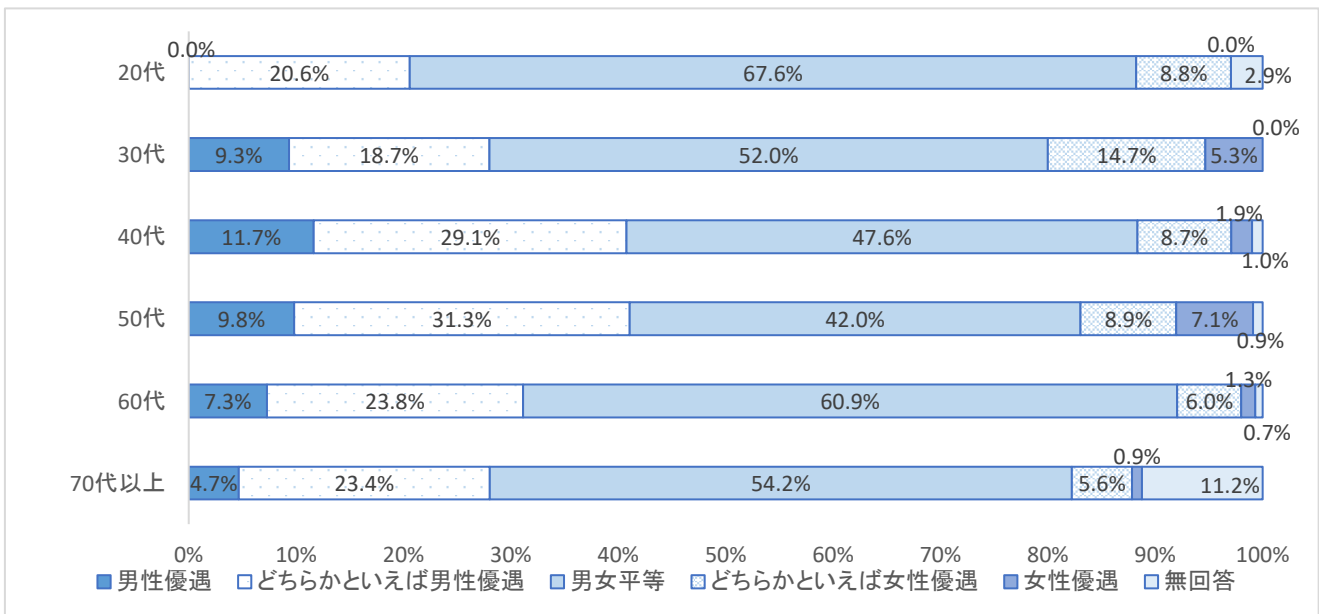
● 全体の5割以上の人々が「男女平等である」と思っている。



男女の合計でみると、「男性優遇」と「どちらかといえば男性優遇」の合計が33.1%であり、前回の34.4%より割合が低くなっている。

男女別、全体とも「男女平等」と答えた人は50%以上となっており、働く場での男女平等が進んできたと思われる。

○付問1 年代別



□前回調査（平成27年）との比較

	女性			男性			合計		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	割合	割合	回答数	割合	割合	回答数	割合	割合
男性優遇	22	8.3%	14.3%	24	7.5%	10.4%	46	7.9%	12.4%
どちらかといえば男性優遇	61	23.0%	24.8%	86	27.0%	19.2%	147	25.2%	22.0%
男女平等	145	54.7%	46.3%	164	51.6%	55.9%	309	53.0%	51.1%
どちらかといえば女性優遇	20	7.5%	6.0%	28	8.8%	6.1%	48	8.2%	6.0%
女性優遇	8	3.0%	2.9%	9	2.8%	4.0%	17	2.9%	3.4%
無回答	9	3.4%	5.7%	7	2.2%	4.4%	16	2.7%	5.1%
計	265	100.0%	100.0%	318	100.0%	100.0%	583	100.0%	100.0%

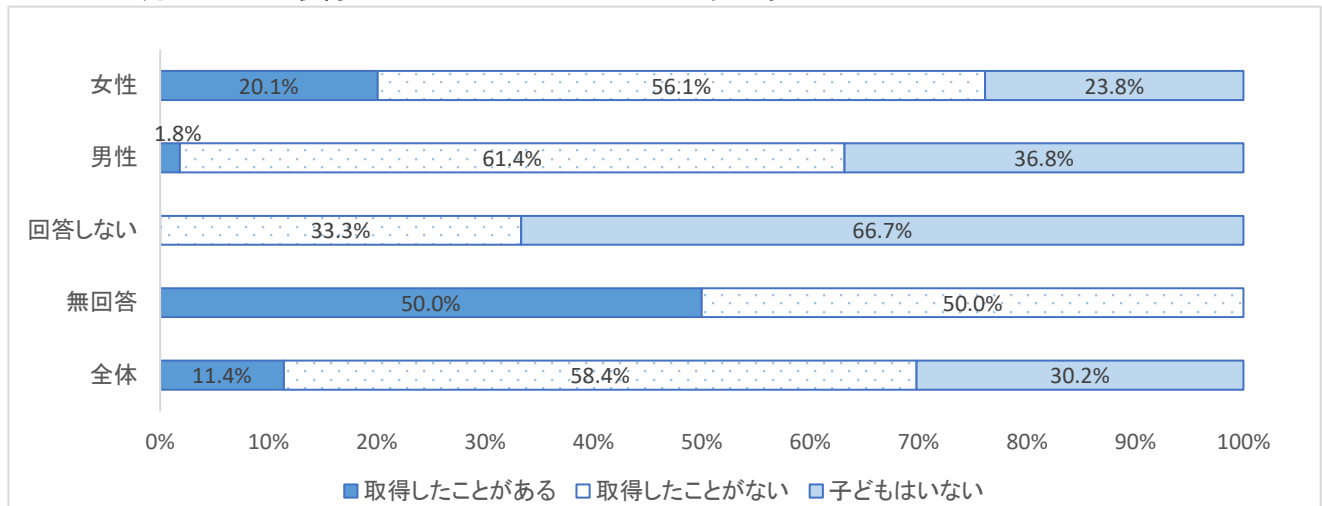
問9 育児をしながら働き続けるため、育児・介護休業法に基づき「育児休業」の制度がありますが、それぞれの間についてお答えください。

【職場に、育児休業の制度がある方に伺います。職場に制度がない方は問9-②へ】

問9-① あなたは「育児休業」を取得したことがありますか。

(女性239人 男性220人 回答しない3人 無回答2人 合計464人)

● 男女ともに取得したことがない人のほうが多い。



職場に、育児休業の制度がある方464人に、取得状況について質問したものを。

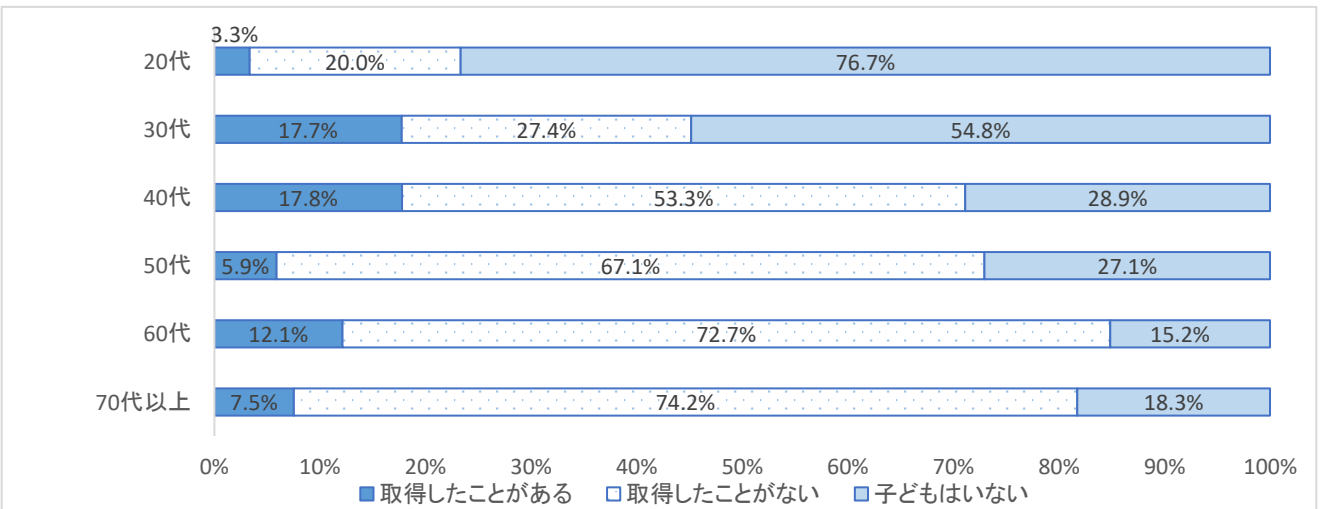
女性では56.1%、男性では61.4%の人が「取得したことがない」と答えている。

一方、「取得したことがある」と答えた人は、女性では20.1%、男性では1.8%であり、女性の方が取得した割合が圧倒的に高いことが分かる。

「取得したことがない」理由としては、女性から「家族が（子供の面倒を）みてくれた」、「取得をする人がほとんどいなかった」、「仕事を辞めた」という回答があった。

男性からの意見は「妻が専業主婦だった」、「妻が育児休業を取得した」という回答が多かったが、「収入減になる」「環境的に休めない」「職場の理解を得られない」という回答もあった。

○問9-① 年代別



□前回調査（平成27年）との比較

	女性			男性			今回		合計		
	今回		前回	今回		前回	回答しない	無回答	今回		前回
	回答数	割合	割合	回答数	割合	割合			回答数	割合	割合
取得したことがある	48	20.1%	26.1%	4	1.8%	5.1%	0	1	53	11.4%	16.5%
取得したことがない	134	56.1%	37.4%	135	61.4%	55.4%	1	1	271	58.4%	45.5%
子どもはいない	57	23.8%	36.5%	81	36.8%	39.4%	2	0	140	30.2%	38.0%
計	239	100.0%	100.0%	220	100.0%	100.0%	3	2	464	100.0%	100.0%

【全員の方に伺います。】

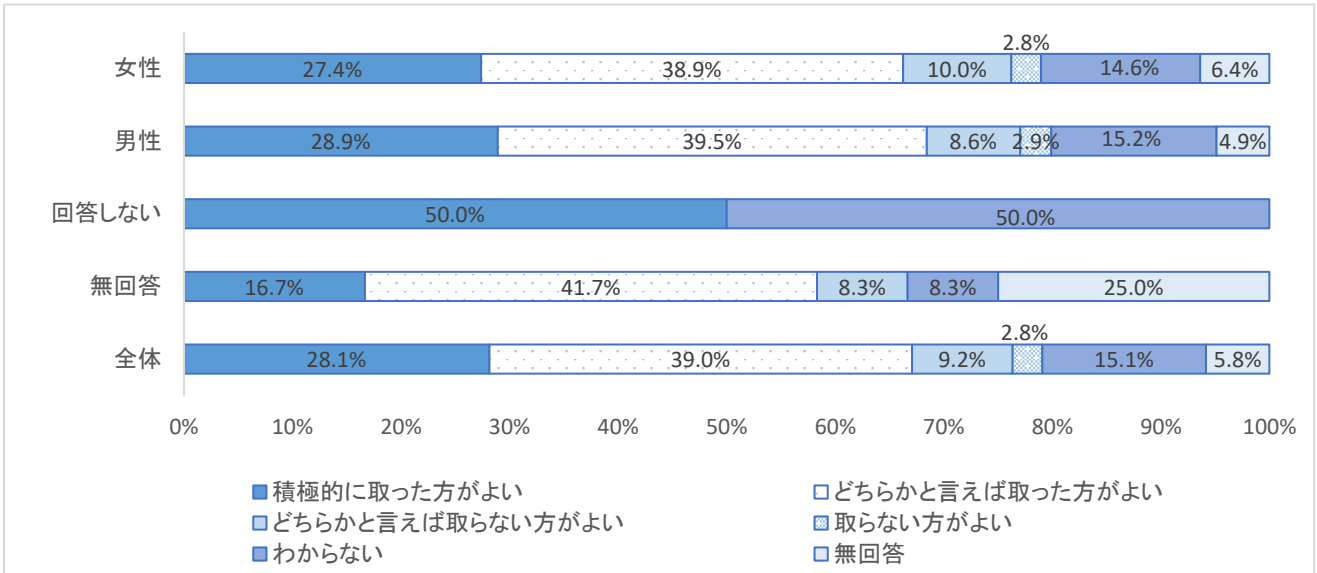
問9-② あなたは男性が「育児休業」を取得することについてどう思いますか。

1つお選びください。

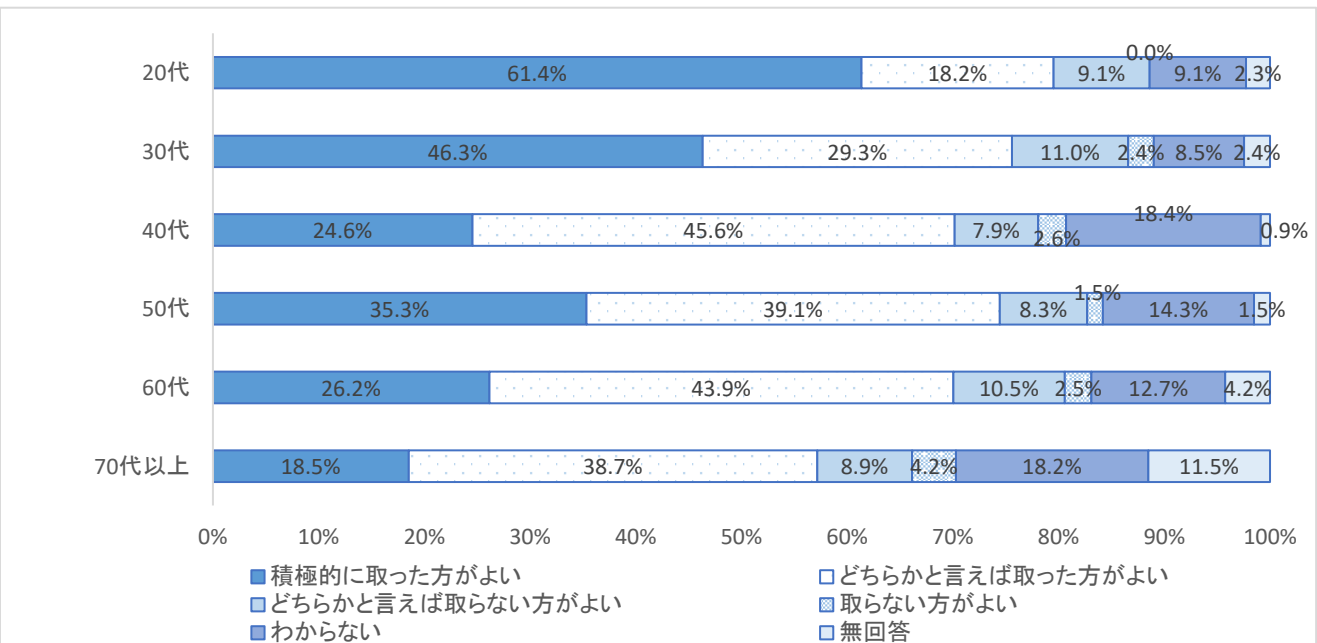
(女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人)

● 男女ともに6割以上の方が「取ったほうがよい」と思っている。

(女性66.3%、男性68.4%)



○問9-② 年代別



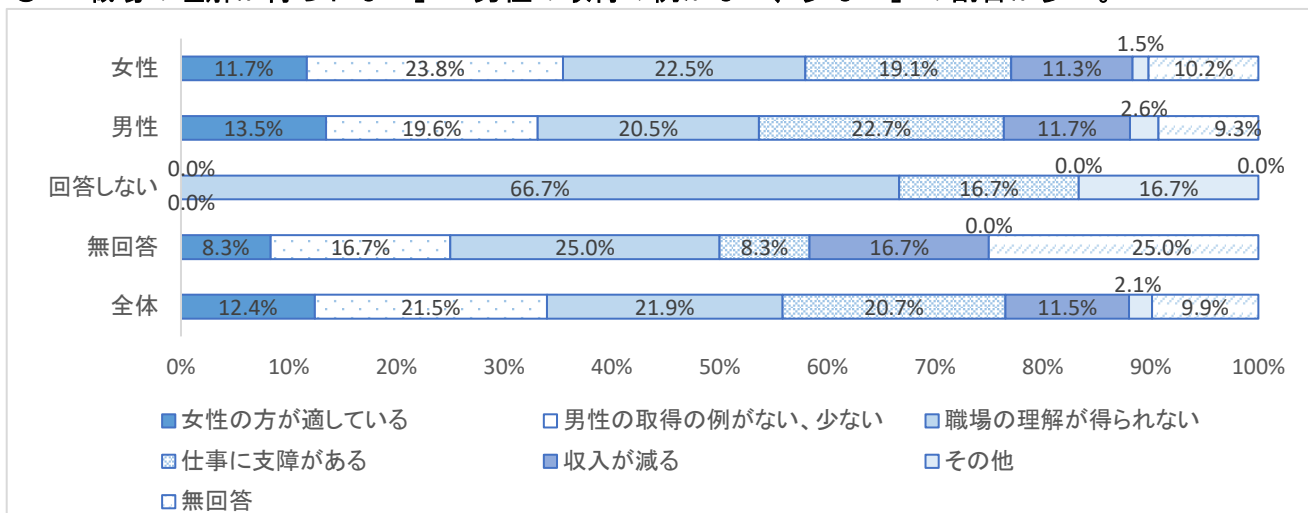
□前回調査（平成27年）との比較

	女性			男性			今回		合計		
	今回		前回	今回		前回	回答しない	無回答	今回		前回
	回答数	割合	割合	回答数	割合	割合			回答数	割合	割合
積極的に取った方がよい	129	27.4%	27.8%	131	28.9%	26.4%	3	2	265	28.1%	27.2%
どちらかといえば取った方がよい	183	38.9%	38.4%	179	39.5%	32.8%	0	5	367	39.0%	35.9%
どちらかと言えば取らない方がよい	47	10.0%	11.5%	39	8.6%	12.4%	0	1	87	9.2%	12.0%
取らない方がよい	13	2.8%	4.0%	13	2.9%	6.1%	0	0	26	2.8%	4.9%
分からない	69	14.6%	15.7%	69	15.2%	19.6%	3	1	142	15.1%	17.3%
無回答	30	6.4%	2.6%	22	4.9%	2.8%	0	3	55	5.8%	2.7%
計	471	100.0%	100.0%	453	100.0%	100.0%	6	12	942	100.0%	100.0%

問9-③ あなたは男性が「育児休業」を取得できない、または取得しない理由はなぜだと思いますか。1つお選びください。

(女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人)

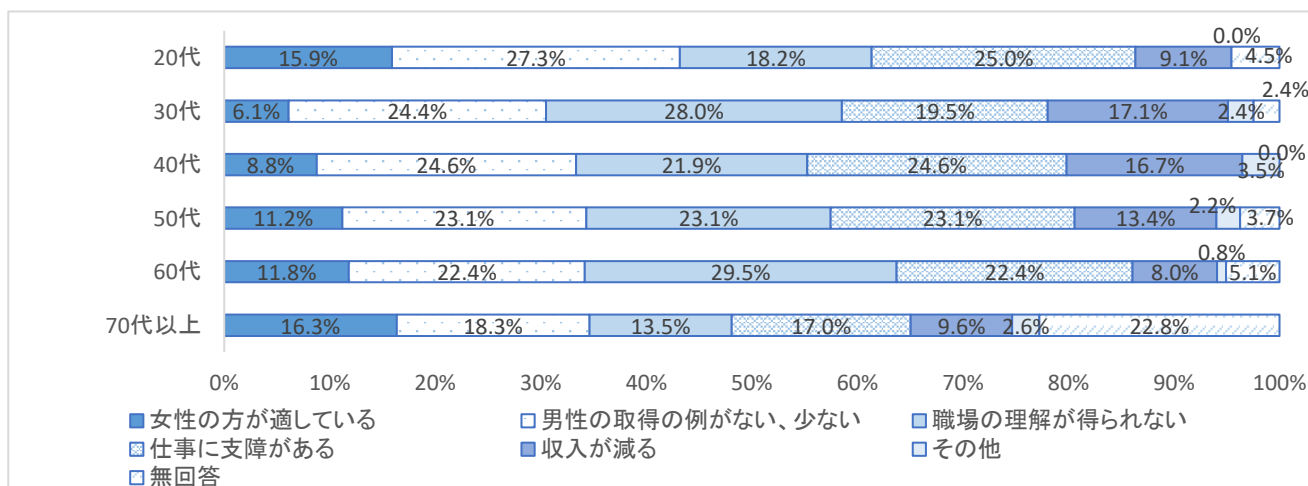
● 「職場の理解が得られない」「男性の取得の例がない、少ない」の割合が多い。



男女の合計でみると、「職場の理解が得られない」と答えた人が21.9%と最も割合が高い。次いで、「男性の取得の例がない、少ない」21.5%、「仕事に支障がある」20.7%となっている。男女別にみると、「男性の取得の例がない、少ない」が女性23.8%、「仕事に支障がある」が男性22.7%で一番高い割合であり、なかなか取得できない状況である。

「その他」の回答として、男性から「職場環境が整備されていない」、「育児や家事において役に立たず、余計に女性の手間が増えるから」「取る度胸がない」、女性から「男性に子供を育てるという意思がないから」、「親以外にみてくれる人がいるから」という回答があった。

○問9-③ 年代別



□前回調査（平成27年）との比較

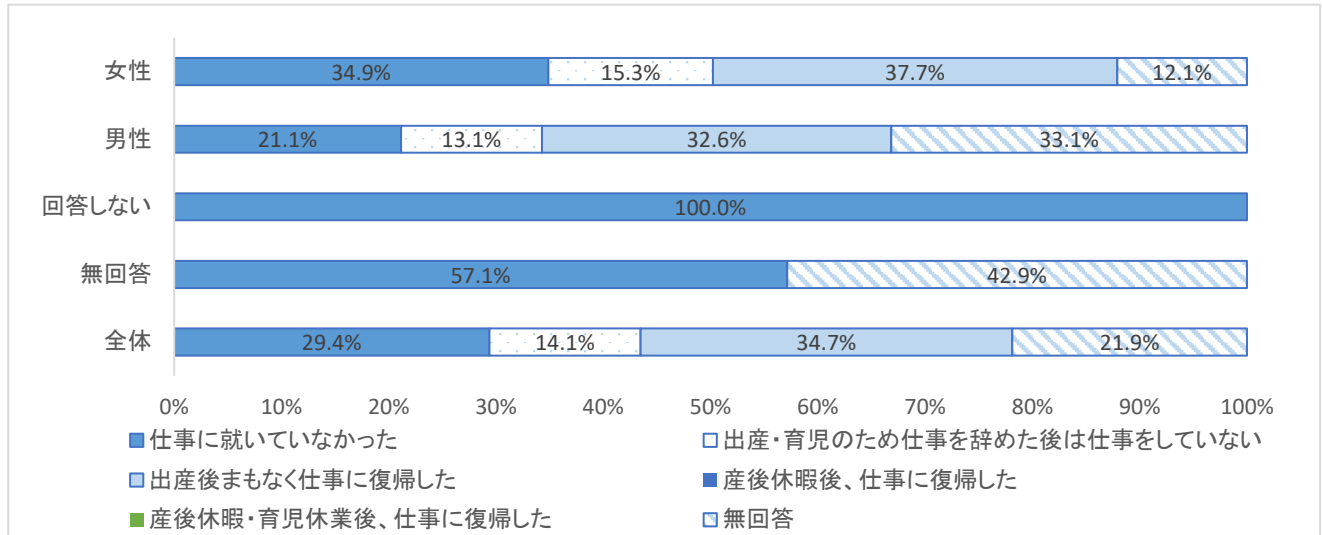
	女性			男性			今回		合計		
	今回		前回	今回		前回	回答しない	無回答	今回		前回
	回答数	割合	割合	回答数	割合	割合			回答数	割合	割合
女性の方が適している	55	11.7%	13.9%	61	13.5%	17.9%	0	1	117	12.4%	15.6%
男性の取得の例がない、少ない	112	23.8%	19.4%	89	19.6%	18.5%	0	2	203	21.5%	18.9%
職場の理解が得られない	106	22.5%	28.3%	93	20.5%	22.3%	4	3	206	21.9%	25.6%
仕事に支障がある	90	19.1%	17.0%	103	22.7%	21.5%	1	1	195	20.7%	19.0%
収入が減る	53	11.3%	19.2%	53	11.7%	12.9%	0	2	108	11.5%	16.4%
その他	7	1.5%	0.9%	12	2.6%	3.9%	1	0	20	2.1%	2.3%
無回答	48	10.2%	1.3%	42	9.3%	3.0%	0	3	93	9.9%	2.1%
計	471	100.0%	100.0%	453	100.0%	100.0%	6	12	942	100.0%	100.0%

【出産経験のある方（出産経験のある配偶者（パートナー）がいる方）に伺います。】

問10 あなた（あなたの配偶者（パートナー））は、第1子出産前に仕事に就いていましたか。出産後、仕事はどうしましたか。

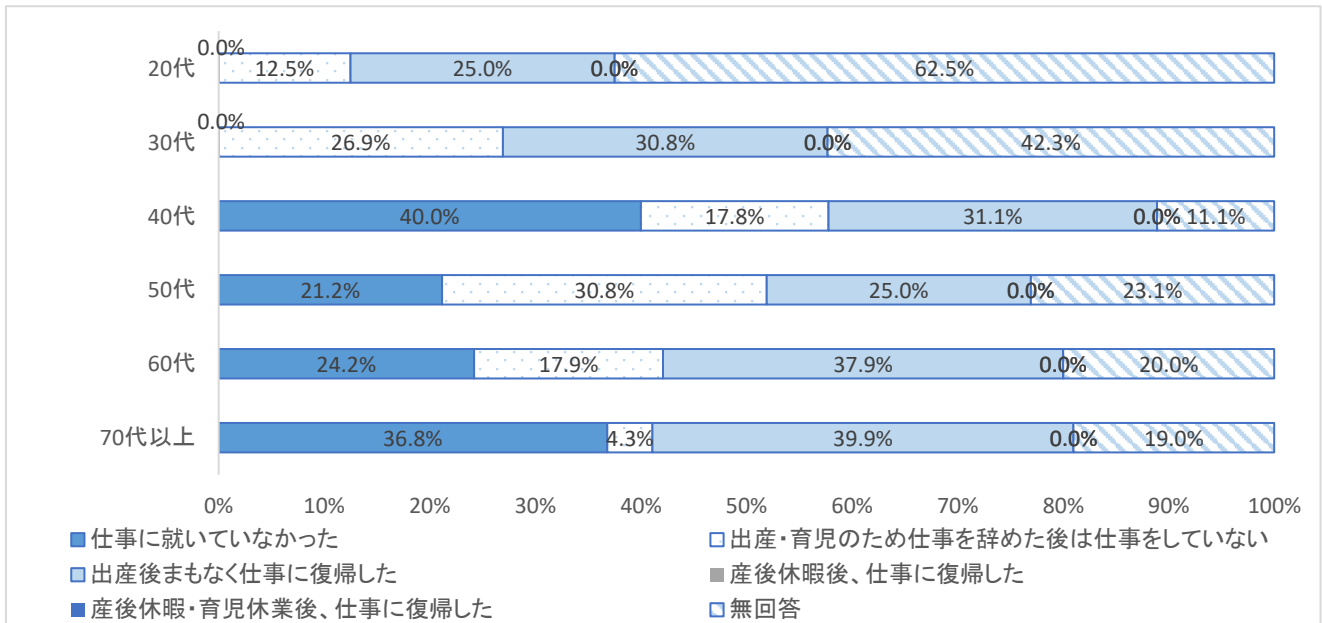
（女性215人 男性175人 回答しない1人 無回答7人 合計398人）

● 男女ともに「出産後まもなく仕事に復帰した」の割合が多い。



男女別、全体でみても、「出産後まもなく仕事に復帰した」と答えた人の割合が高い。次いで、「仕事に就いていなかった」が女性34.9%、男性21.1%で割合が高かった。

○問10 年代別



□調査結果

	女性		男性			今回		合計			
	今回	前回	今回	前回	今回	今回	今回	前回	今回	前回	
	回答数	割合	回答数	割合	割合	回答しない	無回答	回答数	割合	割合	
仕事に就いていなかった	75	34.9%	-	37	21.1%	-	1	4	117	29.4%	-
出産・育児のため仕事を辞めた後は仕事していない	33	15.3%	-	23	13.1%	-	0	0	56	14.1%	-
出産後まもなく仕事に復帰した	81	37.7%	-	57	32.6%	-	0	0	138	34.7%	-
産後休暇後、仕事に復帰した	0	0.0%	-	0	0.0%	-	0	0	0	0.0%	-
産後休暇・育児休業後、仕事に復帰した	0	0.0%	-	0	0.0%	-	0	0	0	0.0%	-
無回答	26	12.1%	-	58	33.1%	-	0	3	87	21.9%	-
計	215	100.0%	-	175	100.0%	-	1	7	398	100.0%	-

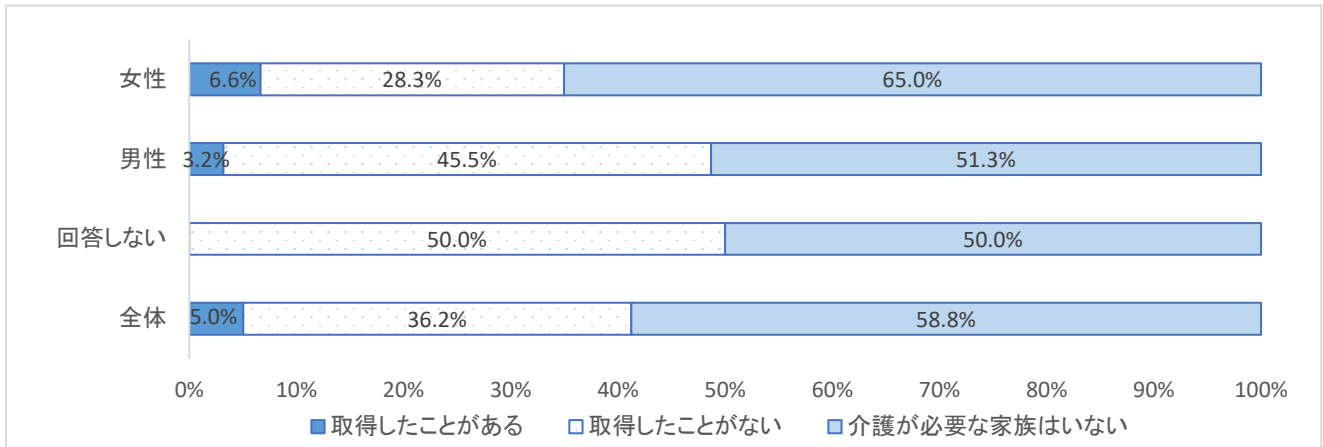
問11 家族の介護をしながら働き続けるため、育児・介護休業法に基づき「介護休業」の制度がありますが、それぞれの問についてお答えください。

【職場に、介護休業の制度がある方に伺います。職場に制度がない方は問11-②へ】

問11-① あなたは「介護休業」を取得したことがありますか。

(女性226人 男性189人 回答しない2人 合計417人)

● 「取得したことがない」人が多い。



職場に、介護休業の制度がある方417人（女性226人、男性189人、回答しない2人）に、取得状況について質問したものを。

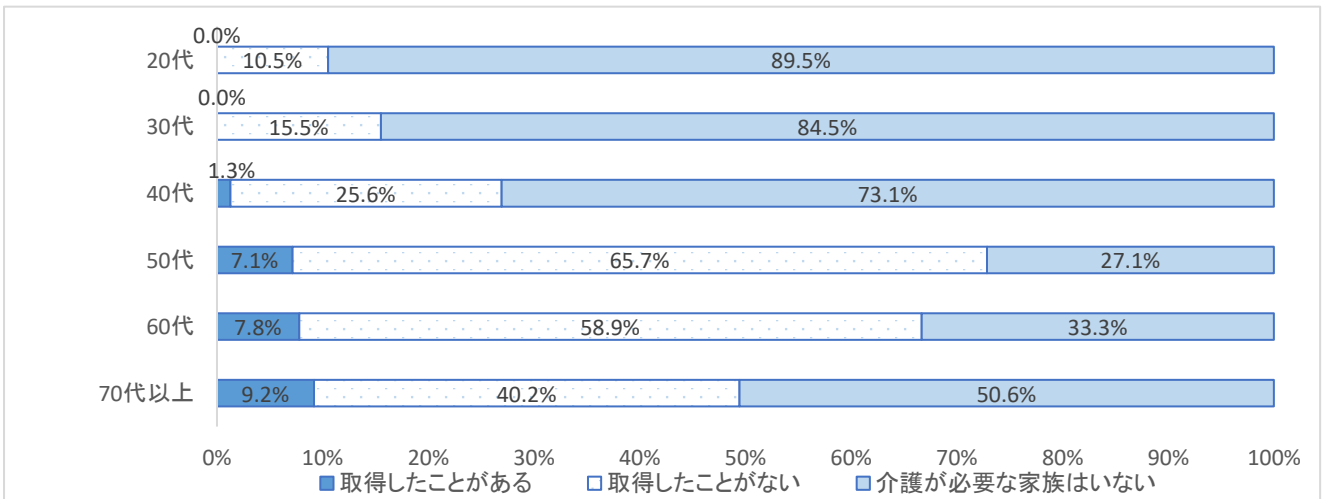
女性では28.3%、男性では45.5%の人が「取得したことがない」と答えている。

一方、「取得したことがある」と答えた人は、女性では6.6%、男性では3.2%であり、女性の方が活用した割合が高いことが分かる。

「活用したことがない」理由は、女性から「施設入所のため」「家族が介護していた」、「働きながら介護をした」「有給休暇を利用した」という回答があった。

男性から「有給休暇を利用した」「家族が他に介護者がいた」、「介護をしたことがない」、「取得しづらい」という回答があった。

○問11-① 年代別



□前回調査（平成27年）との比較

	女性		男性			今回		合計		
	今回		今回		今回	今回		今回		
	回答数	割合	回答数	割合		割合	回答数	割合	割合	
取得したことがある	15	6.6%	6	3.2%	1.7%	0	0	21	5.0%	3.2%
取得したことがない	64	28.3%	86	45.5%	29.0%	1	0	151	36.2%	24.5%
介護が必要な家族はいない	147	65.0%	97	51.3%	69.3%	1	0	245	58.8%	72.3%
計	226	100.0%	189	100.0%	100.0%	2	0	417	100.0%	100.0%

【全員の方に伺います。】

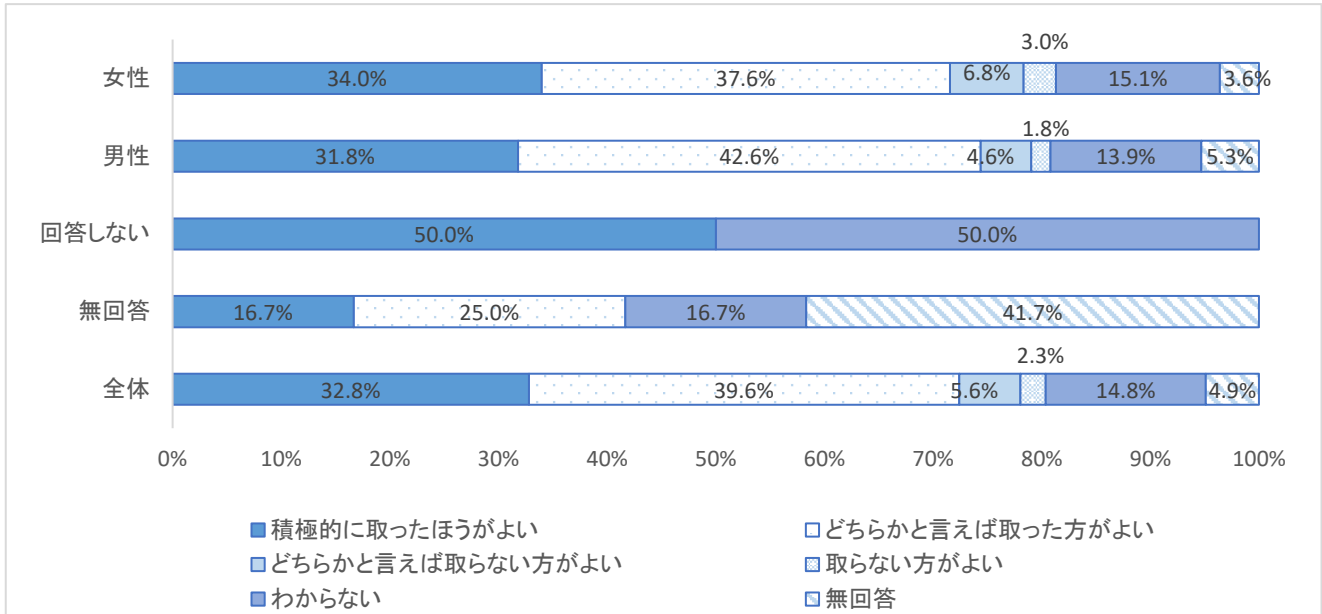
問11-② あなたは男性が「介護休業」を取得することについてどう思いますか。

1つお選びください。

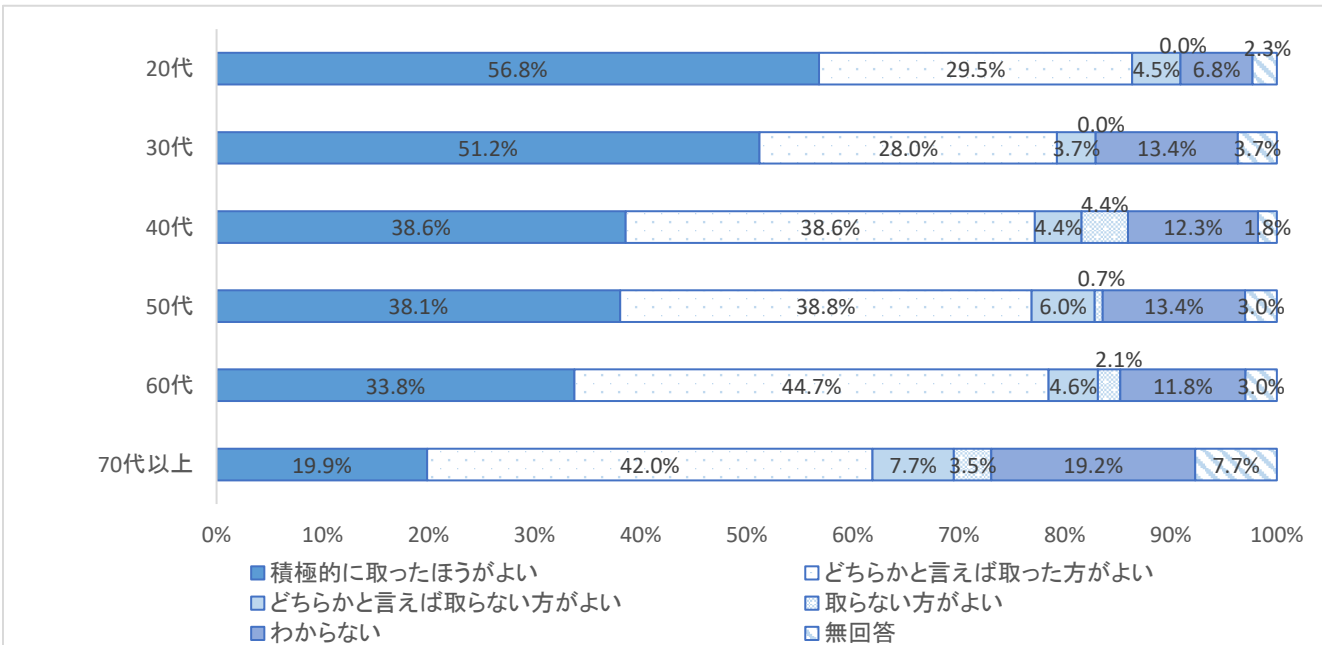
(女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人)

● 男女ともに7割以上の方が「取ったほうがよい」と思っている。

(女性71.6%、男性74.4%)



○問11-② 年代別



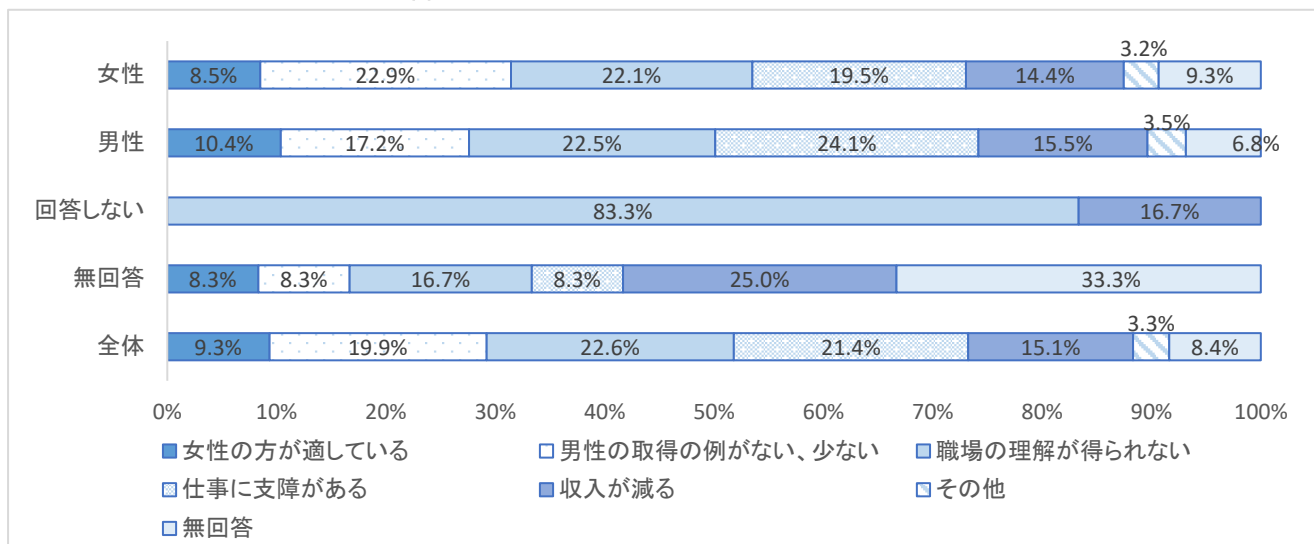
□前回調査（平成27年）との比較

	女性			男性			今回		合計		
	今回		前回	今回		前回	回答しない	無回答	今回		前回
	回答数	割合	割合	回答数	割合	割合			回答数	割合	割合
積極的にとった方がよい	160	34.0%	28.5%	144	31.8%	26.2%	3	2	309	32.8%	27.5%
どちらかといえば取った方がよい	177	37.6%	42.6%	193	42.6%	38.8%	0	3	373	39.6%	41.0%
どちらかと言えば取らない方がよい	32	6.8%	6.6%	21	4.6%	8.5%	0	0	53	5.6%	7.4%
取らない方がよい	14	3.0%	1.5%	8	1.8%	2.2%	0	0	22	2.3%	1.8%
分からない	71	15.1%	18.5%	63	13.9%	22.0%	3	2	139	14.8%	20.0%
無回答	17	3.6%	2.2%	24	5.3%	2.2%	0	5	46	4.9%	2.2%
計	471	100.0%	100.0%	453	100.0%	100.0%	6	12	942	100.0%	100.0%

問11-③ あなたは男性が「介護休業」を取得できない、または取得しない理由はなぜだと思いますか。1つお選びください。

(女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人)

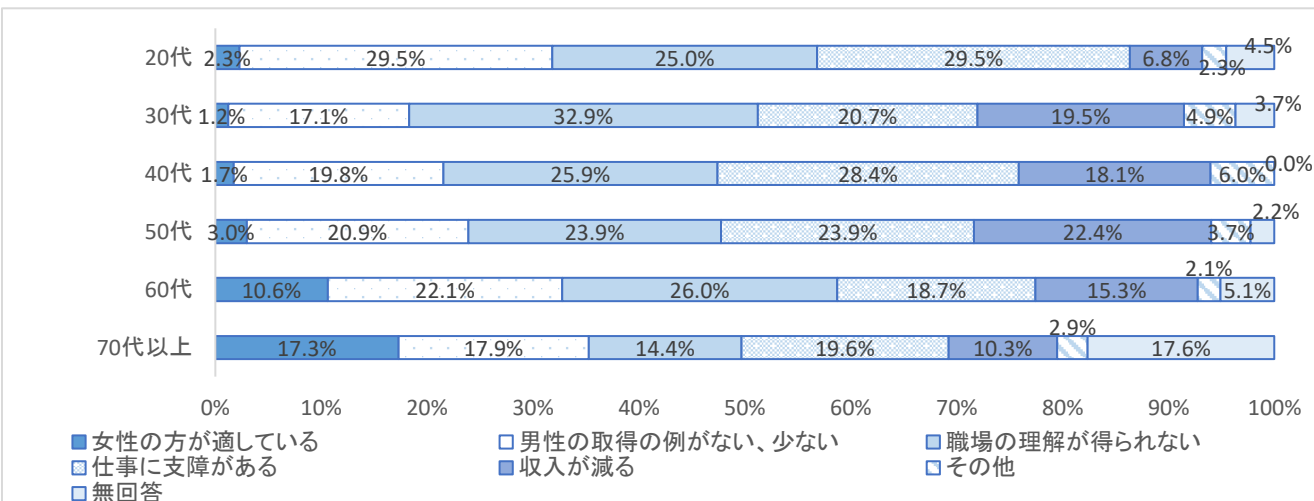
● 全体では「仕事に支障がある」の割合が高い。



男女の合計でみると、「職場の理解が得られない」と答えた人が22.6%と最も多い割合となっている。次いで、「仕事に支障がある」21.4%、「男性の取得の例がない、少ない」19.9%、「収入が減る」15.1%、「女性の方が適している」9.3%となっている。

「その他」の回答として、男性から「介護には期限がないので死ぬまで復職出来ない」、「理由の一つではない。家庭や職場環境は複雑」、「職場環境が整備されていない」、女性から「実親なのに(夫が)介護に理解を示さない」、「介護も女性や嫁がすべきという概念を男女とも社会も持っているから」という回答があった。

○問11-③ 年代別



□前回調査(平成27年)との比較

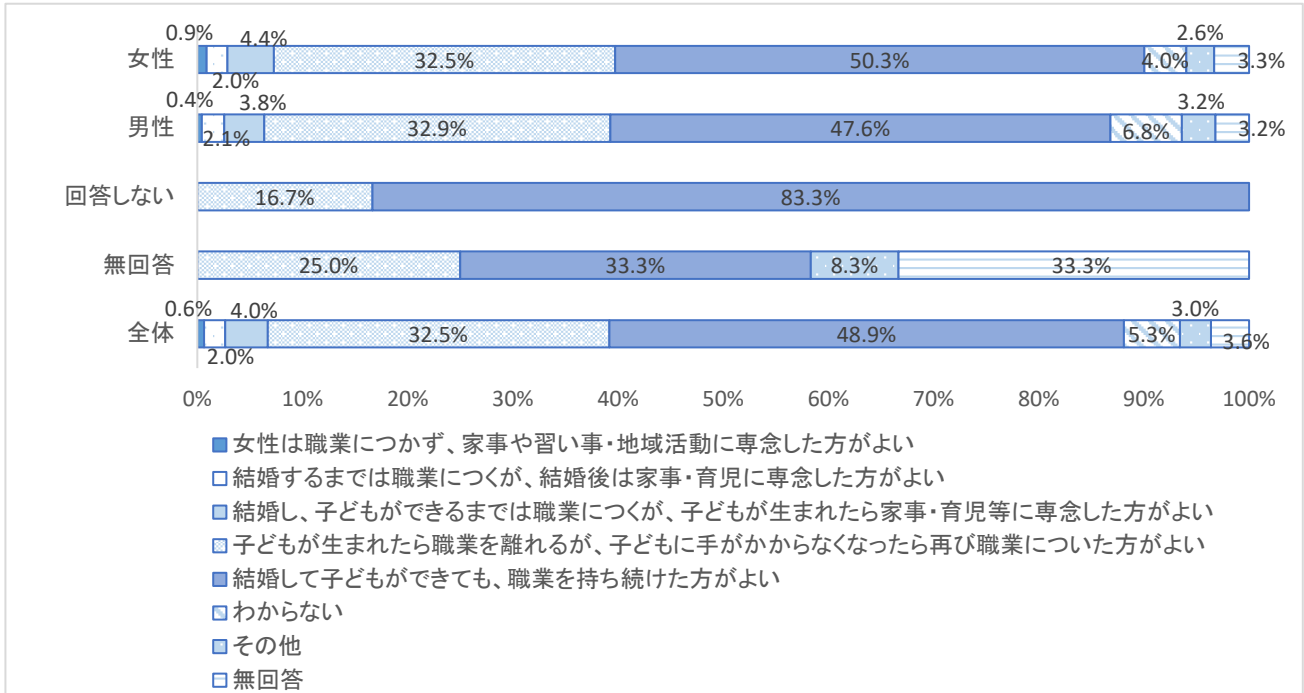
	女性			男性			今回		合計		
	今回		前回	今回		前回	回答しない	無回答	今回		前回
	回答数	割合	割合	回答数	割合	割合			回答数	割合	割合
女性の方が適している	40	8.5%	6.6%	47	10.4%	8.8%	0	1	88	9.3%	7.6%
男性の取得の例がない、少ない	108	22.9%	22.1%	78	17.2%	19.3%	0	1	187	19.9%	20.8%
職場の理解が得られない	104	22.1%	24.5%	102	22.5%	20.1%	5	2	213	22.6%	22.6%
仕事に支障がある	92	19.5%	21.6%	109	24.1%	27.8%	0	1	202	21.4%	24.4%
収入が減る	68	14.4%	21.2%	70	15.5%	16.8%	1	3	142	15.1%	19.3%
その他	15	3.2%	2.6%	16	3.5%	4.4%	0	0	31	3.3%	3.4%
無回答	44	9.3%	1.3%	31	6.8%	2.8%	0	4	79	8.4%	2.0%
計	471	100.0%	100.0%	453	100.0%	100.0%	6	12	942	100.0%	100.0%

問12 あなたは一般的に女性が職業につくことに対してどう思いますか。

1つだけお選びください。

(女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人)

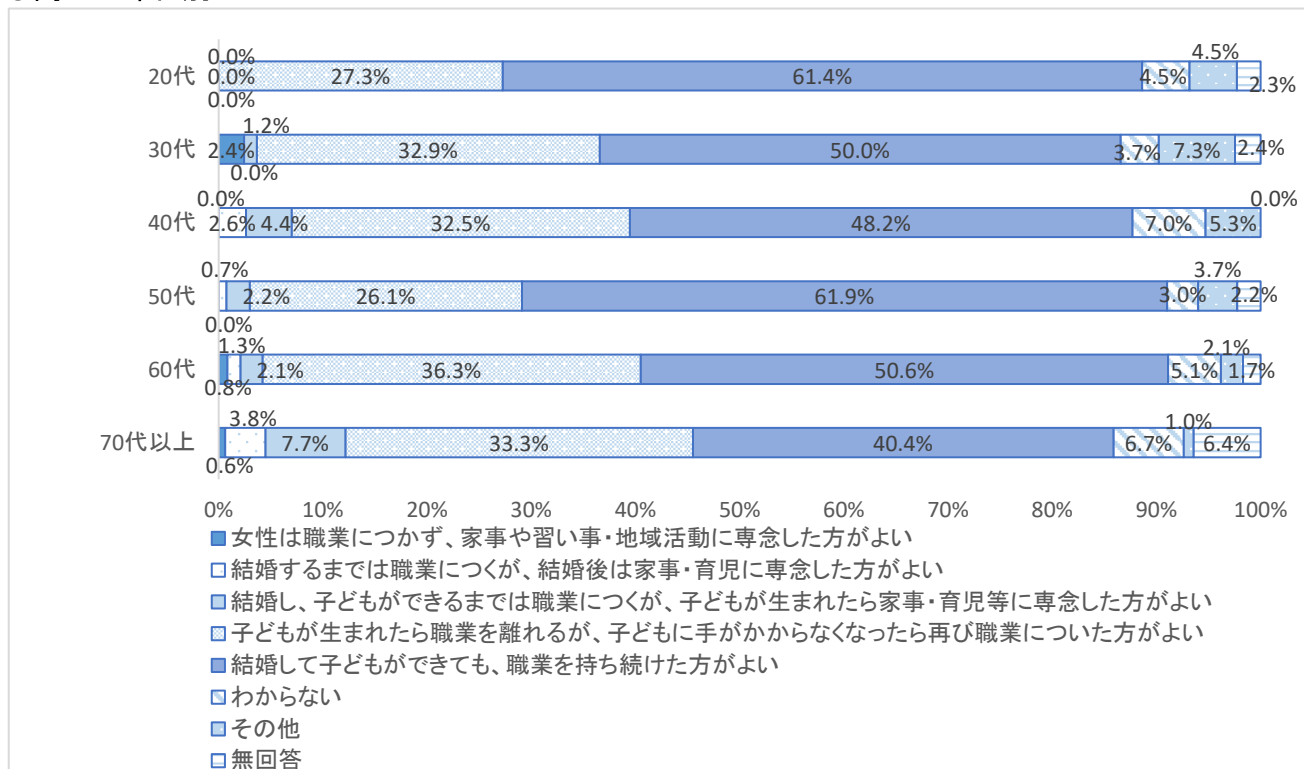
● 女性が職業につくことに対する意識が高いことがわかる。



全体で、「結婚して子どもができて、職業を持ち続けた方がよい」が48.9%と最も高く、次いで、「子どもが生まれたら職業から離れるが、子どもに手がかからなくなったら再び職業についた方がよい」が32.5%となっている。

「その他」の回答として、男性から「本人の自由に選択すべき」「収入の面、子どもの心の健康面、いろいろ課題はある」、女性から「理想は育児に専念したいが、夫だけの収入では生活できない為」「一人ひとりの意志を尊重しつつ女性の社会進出を進めるのがよい」という回答があった。

○問12 年代別



問12 あなたは一般的に女性が職業につくことに対してどう思いますか。
1つだけお選びください。

□前回調査（平成27年）との比較

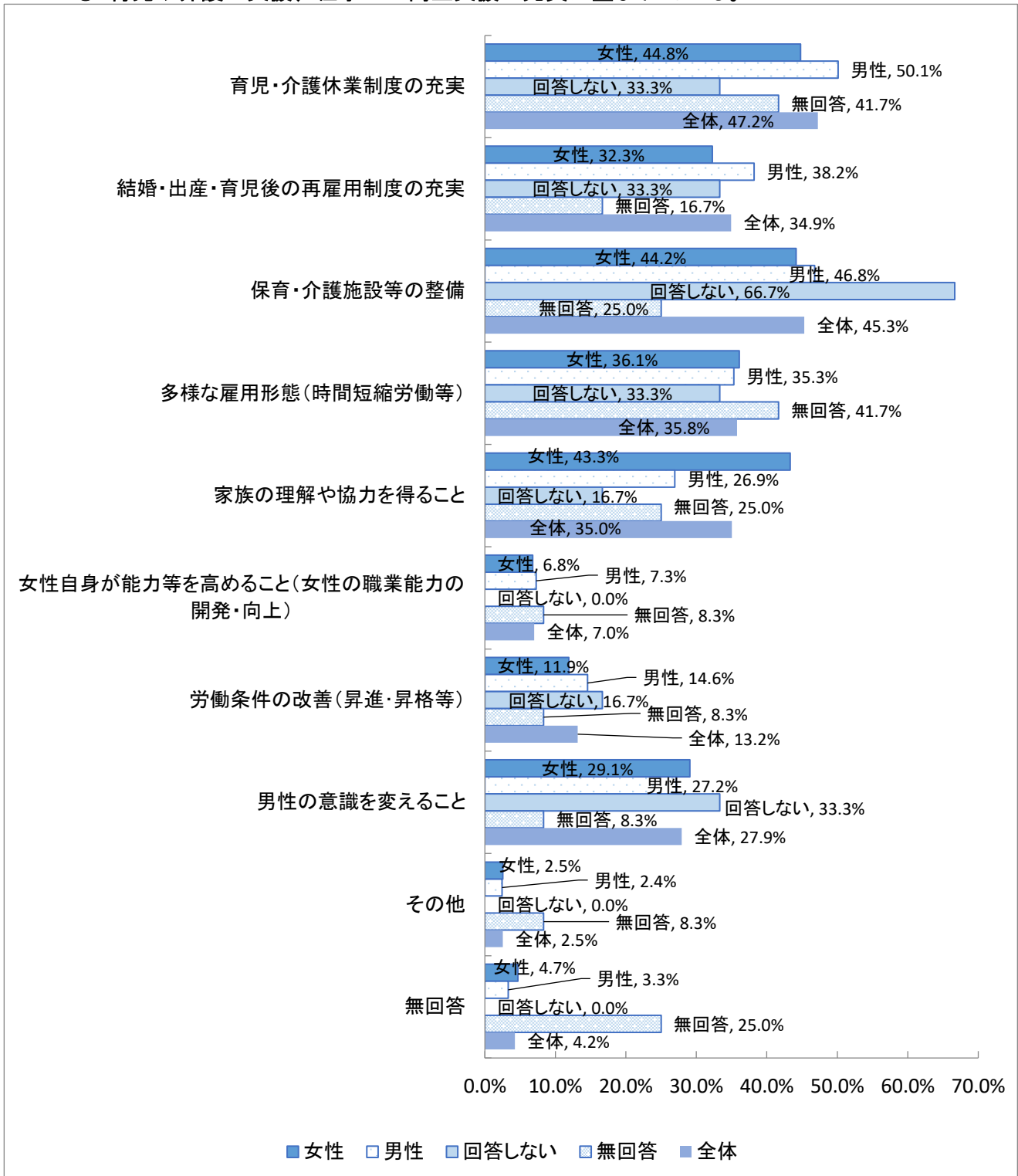
	女性			男性			今回		合計		
	今回		前回	今回		前回	回答しない	無回答	今回		前回
	回答数	割合	割合	回答数	割合	割合			回答数	割合	割合
女性は職業につかず、家事や習い事・地域活動に専念した方がよい	4	0.9%	0.4%	2	0.4%	0.6%	0	0	6	0.6%	0.5%
結婚するまでは職業につくが、結婚後は家事・育児に専念した方がよい	9	2.0%	1.8%	10	2.1%	2.2%	0	0	19	2.0%	2.0%
結婚し、子どもができるまでは職業につくが、子供が生まれたら家事・育児等に専念した方がよい	20	4.4%	3.3%	18	3.8%	3.3%	0	0	38	4.0%	3.3%
子どもが生まれたら職業から離れるが、子どもに手がかからなくなったら再び職業についた方がよい	147	32.5%	38.0%	155	32.9%	35.3%	1	3	306	32.5%	36.8%
結婚して子どもができて、職業を継続した方がよい	228	50.3%	46.8%	224	47.6%	46.6%	5	4	461	48.9%	46.8%
わからない	18	4.0%	3.8%	32	6.8%	6.6%	0	0	50	5.3%	5.0%
その他	12	2.6%	4.4%	15	3.2%	4.1%	0	1	28	3.0%	4.3%
無回答	15	3.3%	1.5%	15	3.2%	1.4%	0	4	34	3.6%	1.5%
計	453	100.0%	100.0%	471	100.0%	100.0%	6	12	942	100.0%	100.0%

前回は「結婚して子どもができて、職業を継続した方がよい」が46.8%で、今回は48.9%と増加し、女性が働き続けることに対する意識や理解が、より高まっていることが伺える。

問13 あなたは女性が働き続けるためには、今後どのようなことが必要だと思いますか。
3つ以内でお選びください。

(女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人)

● 育児や介護の支援、仕事との両立支援の充実が望まれている。



全体で見ると、「育児・介護休業の充実」(47.2%)が最も高く、次いで、「保育・介護施設等の整備」(45.3%)、「多様な雇用形態(時間短縮労働等)」(35.8%)であった。

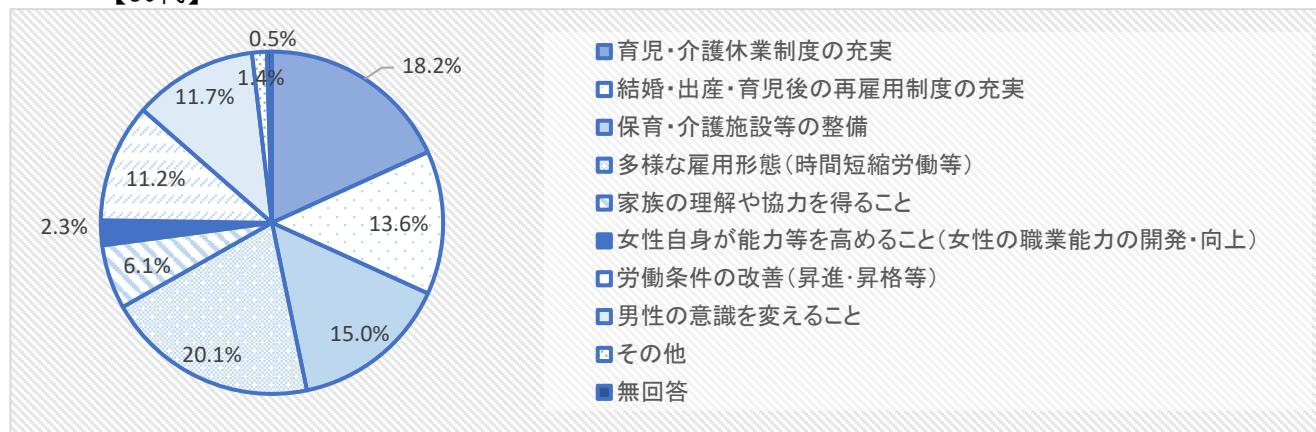
特に男性において、「育児・介護休業の充実」と答えた人の割合(50.1%)が高い。

「その他」の回答として、女性から「個々に応じた条件が整わなければいけない」、男性から「制度は十分に充実してきました。事業主への支援も同等に必要」、「女性も意識を変えること」「職場の協力」という回答があった。

○問13 年代別
【20代】



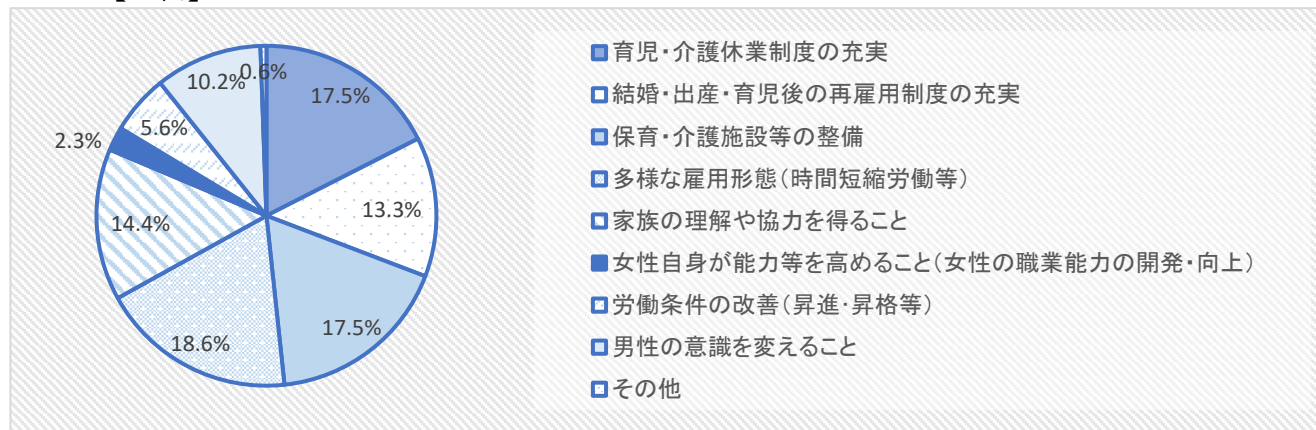
【30代】



【40代】



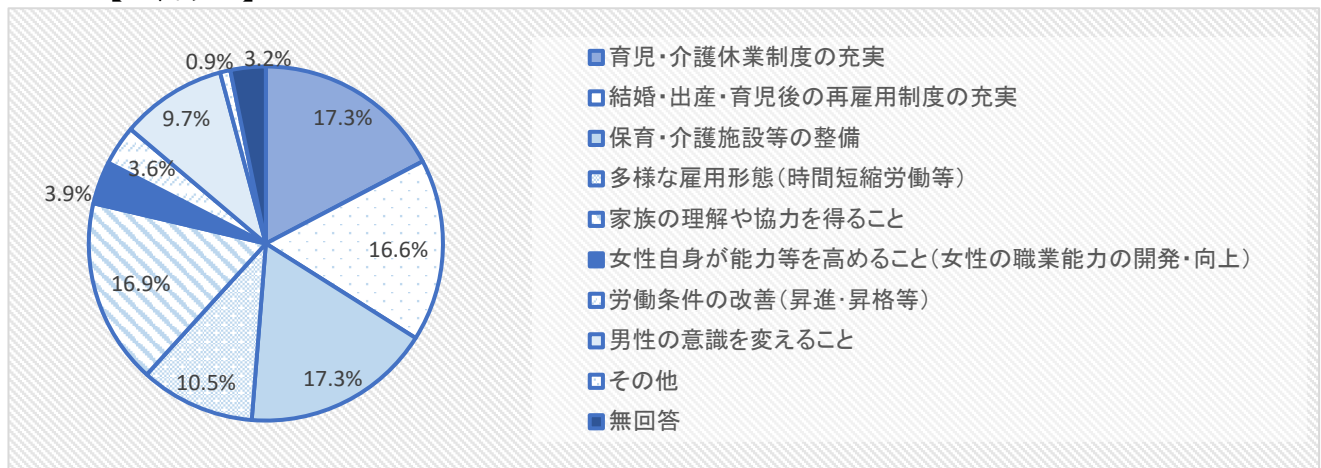
【50代】



【60代】



【70代以上】



□前回調査(平成27年)との比較

	女性			男性			今回		合計		
	今回		前回	今回		前回	今回		今回		前回
	回答数	割合	割合	回答数	割合	割合	回答しない	無回答	回答数	割合	割合
育児・介護休業制度の充実	211	44.8%	47.2%	227	50.1%	49.0%	2	5	445	47.2%	48.0%
結婚・出産・育児後の再雇用制度の充実	152	32.3%	45.0%	173	38.2%	48.5%	2	2	329	34.9%	46.5%
保育・介護施設等の整備	208	44.2%	51.4%	212	46.8%	47.1%	4	3	427	45.3%	49.5%
多様な雇用形態(時間短縮労働等)	170	36.1%	41.5%	160	35.3%	35.8%	2	5	337	35.8%	38.8%
家族の理解や協力を得ること	204	43.3%	41.3%	122	26.9%	33.1%	1	3	330	35.0%	37.6%
女性自身が能力等を高めること	32	6.8%	7.1%	33	7.3%	6.3%	0	1	66	7.0%	6.8%
労働条件の改善(昇進・昇格等)	56	11.9%	17.4%	66	14.6%	12.4%	1	1	124	13.2%	15.3%
男性の意識を変えること	137	29.1%	19.9%	123	27.2%	12.4%	2	1	263	27.9%	16.8%
その他	12	2.5%	1.5%	11	2.4%	2.5%	0	1	24	2.5%	2.0%
無回答	22	4.7%	2.0%	15	3.3%	2.5%	0	3	40	4.2%	2.2%

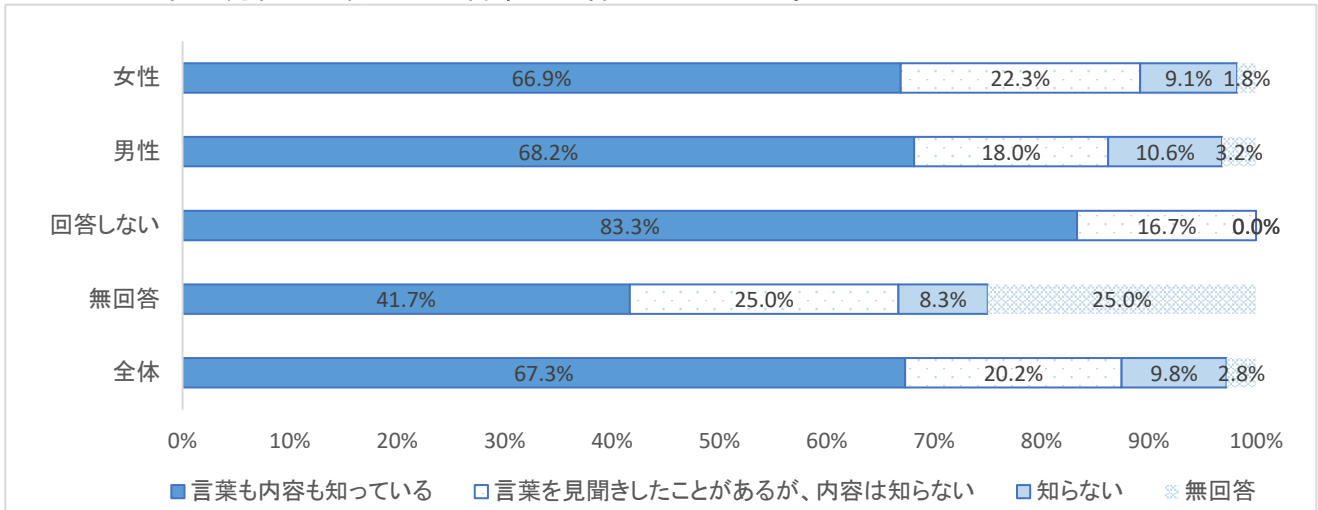
全体では、前回と同様に、「育児や介護休業制度の充実」、「保育・介護施設等の整備」を望む項目に回答が多く、特に男性の回答割合が高かった(50.1%)。

また、「結婚・出産・育児後の再雇用制度の充実」は、割合が低くなっており、前回との違いがみられた。

問14 あなたはマタニティ・ハラスメントについて知っていますか。

(女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人)

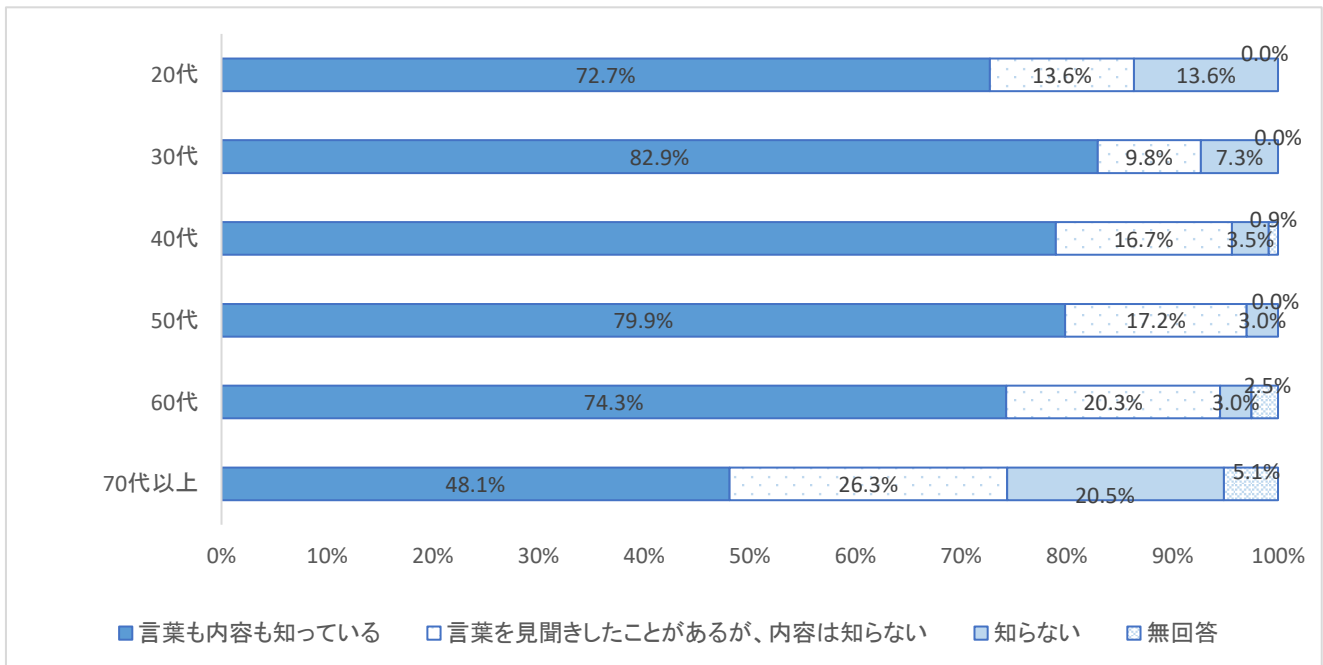
● 女性も男性も6割以上が言葉も内容も知っている。



働く女性が妊娠・出産を理由に解雇・雇止めをされたり、妊娠・出産によって職場で受ける精神的・肉体的なハラスメント（マタニティ・ハラスメント）について、認知度を調査したもの。

全体では、「言葉も内容も知っている」（67.3%）、「言葉を見聞きしたことがあるが内容は知らない」（20.2%）となっており、言葉としての認知度は87.5%と高い。

○問14 年代別

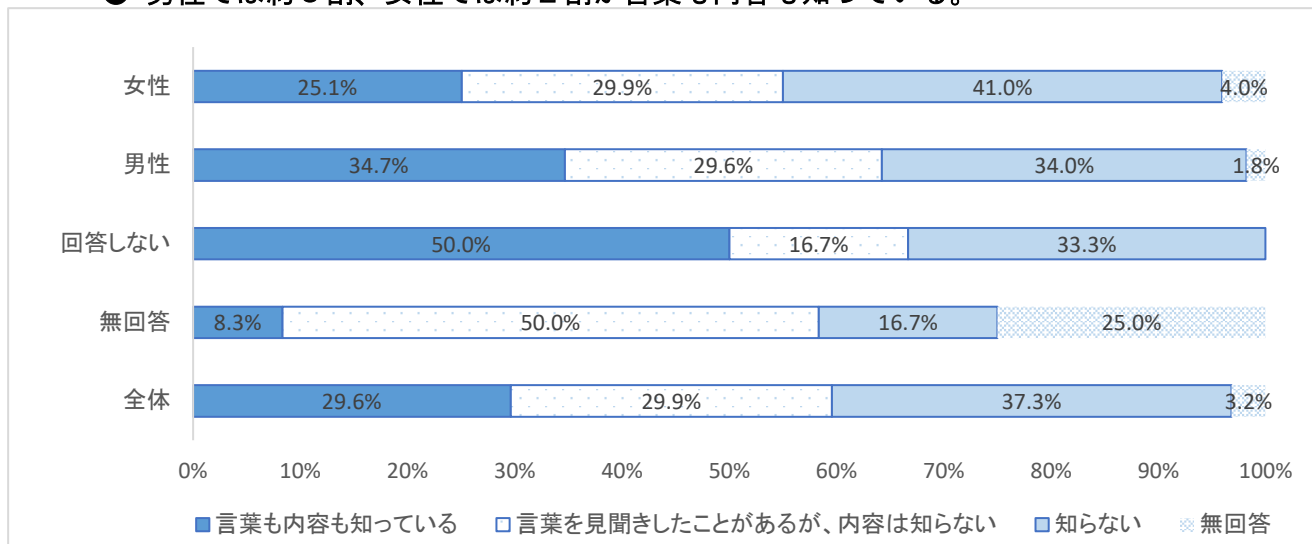


□前回調査（平成27年）との比較

	女性			男性			今回		合計		
	今回		前回	今回		前回	回答しない	無回答	今回		前回
	回答数	割合	割合	回答数	割合	割合			回答数	割合	割合
言葉も内容も知っている	303	66.9%	72.0%	321	68.2%	60.9%	5	5	634	67.3%	67.2%
言葉を見聞きしたことはあるが、内容は知らない	101	22.3%	18.5%	85	18.0%	24.2%	1	3	190	20.2%	21.0%
知らない	41	9.1%	7.3%	50	10.6%	12.1%		1	92	9.8%	9.4%
無回答	8	1.8%	2.2%	15	3.2%	2.8%		3	26	2.8%	2.4%
計	453	100.0%	100.0%	471	100.0%	100.0%	6	12	942	100.0%	100.0%

問15 あなたはワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について知っていますか。
（女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人）

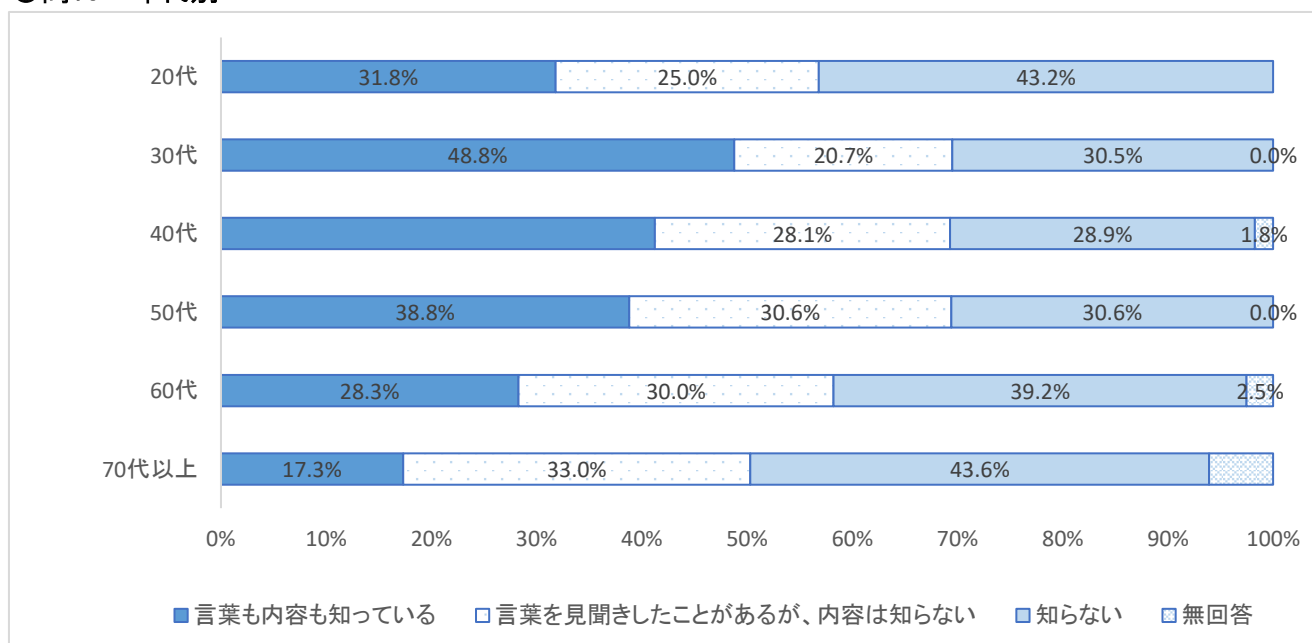
● 男性では約3割、女性では約2割が言葉も内容も知っている。



暮らしを支える仕事と、欠かすことができない家事・育児、近隣との付き合いなどが調和され、一人ひとりが望む生き方ができる社会（ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について、認知度を調査したもの。

全体では、「言葉も内容も知っている」（29.6%）、「言葉を見聞きしたことがあるが内容は知らない」（29.9%）となっており、「知らない」（37.3%）を下回っている。

○問15 年代別



□前回調査（平成27年）との比較

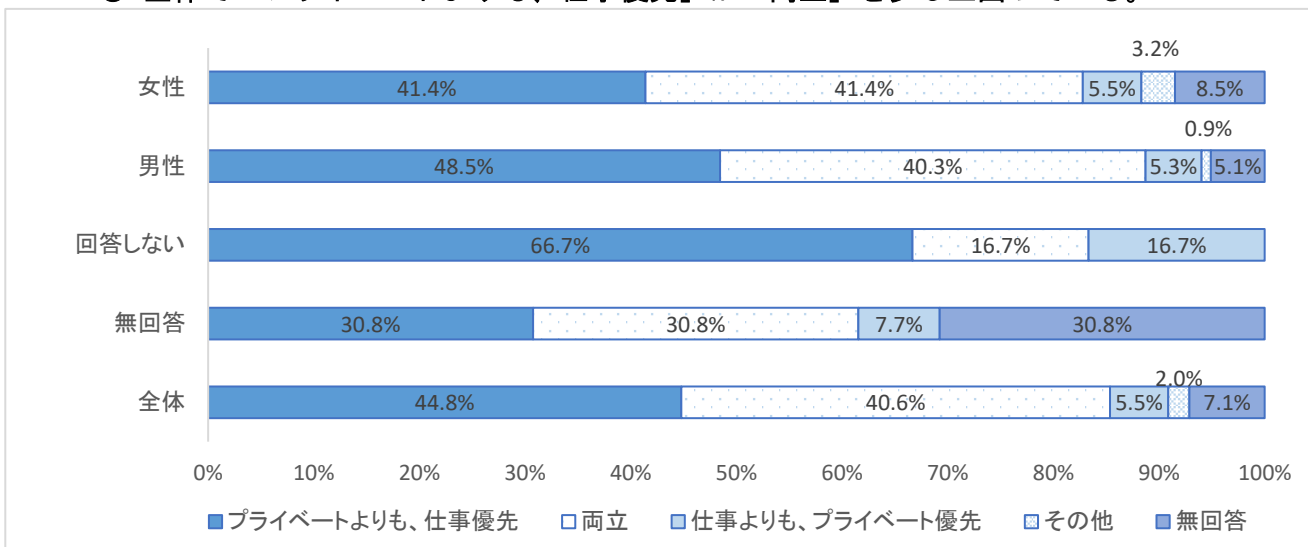
	女性			男性			今回		合計		
	今回		前回	今回		前回	回答しない	無回答	今回		前回
	回答数	割合	割合	回答数	割合	割合			回答数	割合	割合
言葉も内容も知っている	118	25.1%	22.7%	157	34.7%	30.3%	3	1	279	29.6%	26.3%
言葉を見聞きしたことはあるが、内容は知らない	141	29.9%	27.2%	134	29.6%	26.4%	1	6	282	29.9%	26.7%
知らない	193	41.0%	48.1%	154	34.0%	39.9%	2	2	351	37.3%	44.4%
無回答	19	4.0%	2.0%	8	1.8%	3.3%	0	3	30	3.2%	2.6%
計	471	100.0%	100.0%	453	100.0%	100.0%	6	12	942	100.0%	100.0%

問16 あなたは、仕事とプライベート（家庭や地域活動、趣味など）の時間について、
 実際（現状）にどのようにしていますか。（あるいは、してきましたか。）
 また、理想はどのようにしたいですか。
 実際（現状）と理想について1つずつお選びください。

（女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人）

○実際（現状）

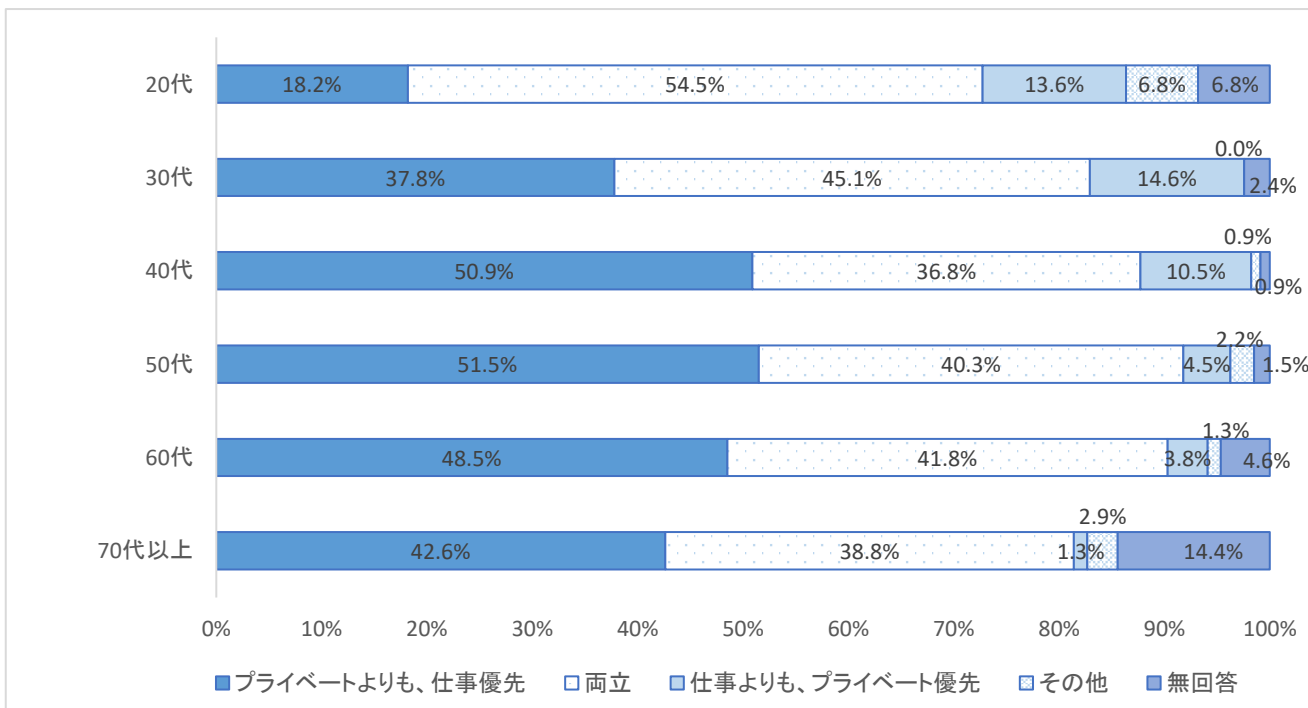
● 全体で「プライベートよりも、仕事優先」が「両立」を少し上回っている。



全体で「プライベートよりも、仕事を優先している（してきた）」の割合が44.8%で最も高く、「プライベートと仕事を、両立している（してきた）」が40.6%を少し上回っている。

男女別で見ると、女性は「プライベートよりも、仕事を優先している（してきた）」と「両立」が41.4%で同じ割合、男性は「プライベートよりも、仕事を優先している（してきた）」が48.5%で、最も割合が高い。

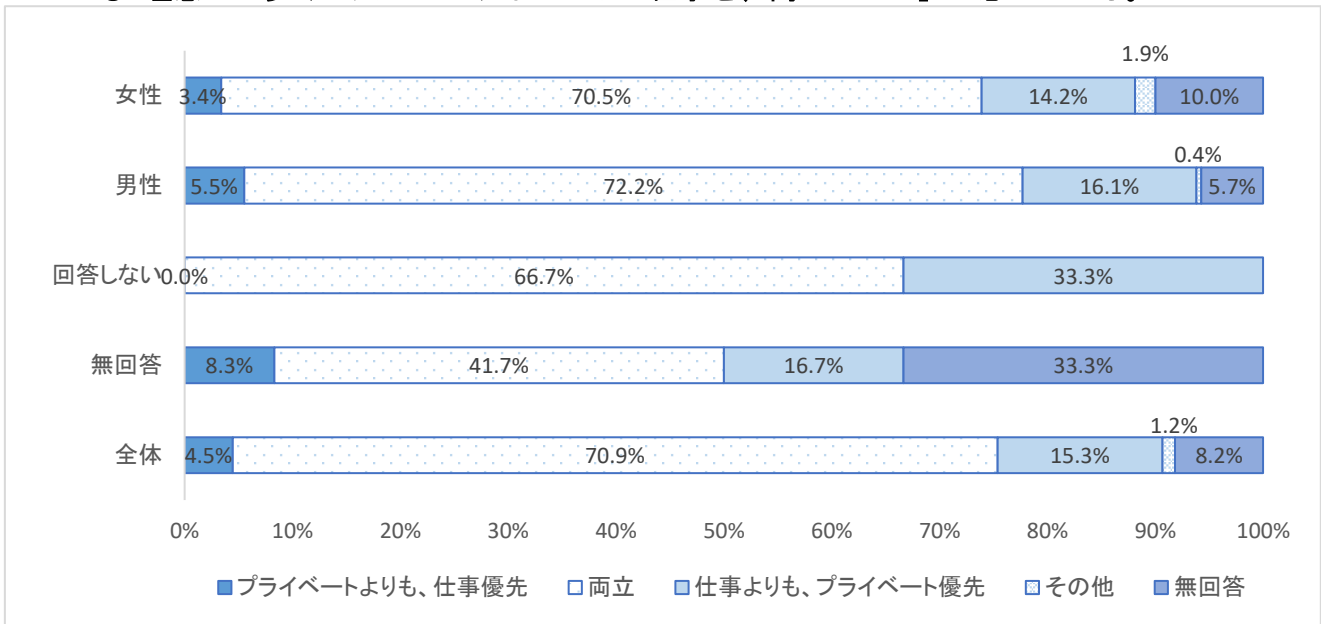
○実際（現状） 年代別



問16 あなたは、仕事とプライベート（家庭や地域活動、趣味など）の時間について、
 実際（現状）にどのようにしていますか。（あるいは、してきましたか。）
 また、理想はどのようにしたいですか。
 実際（現状）と理想について1つずつお選びください。

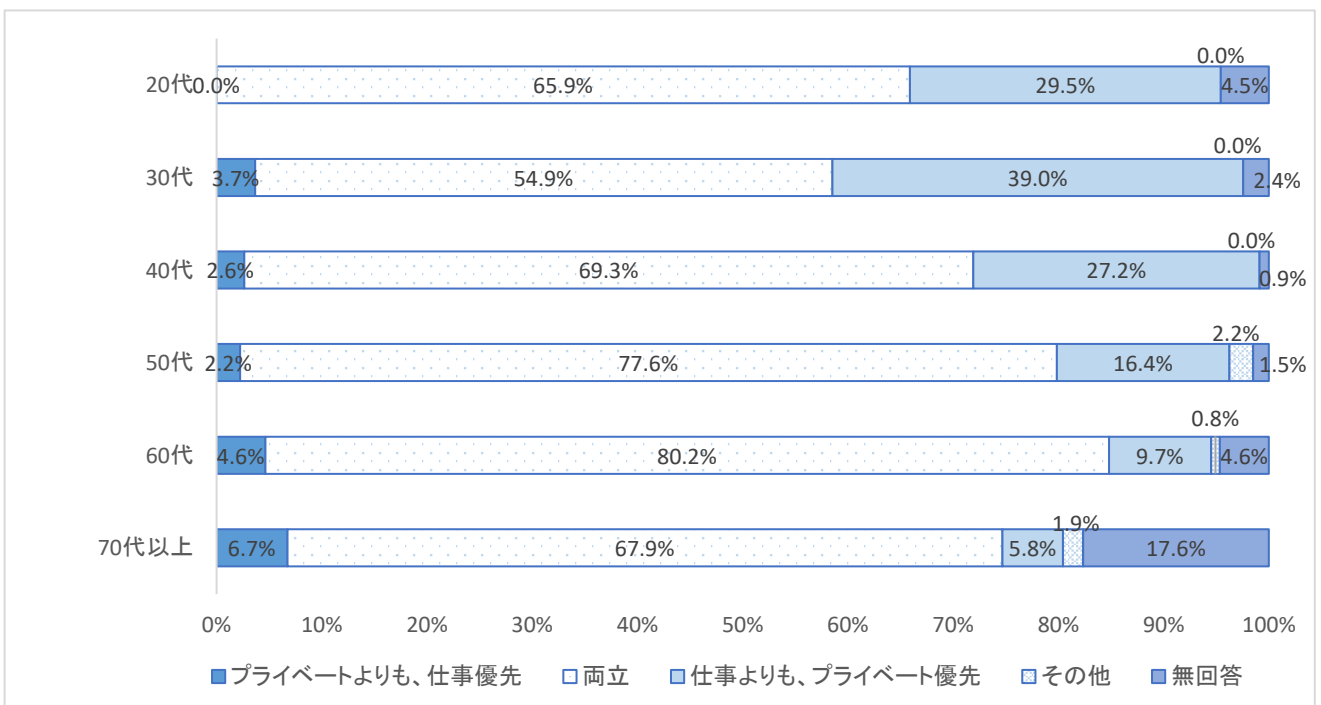
○理想

● 理想では多くの方が「プライベートと仕事を、両立したい」と思っている。



全体で「プライベートと仕事を、両立したい」の割合が70.9%で最も高く、
 男女別で見ると、「プライベートと仕事を、両立したい」は女性が70.5%、男性が
 72.2%で、男性の割合が高い。

○理想 年代別



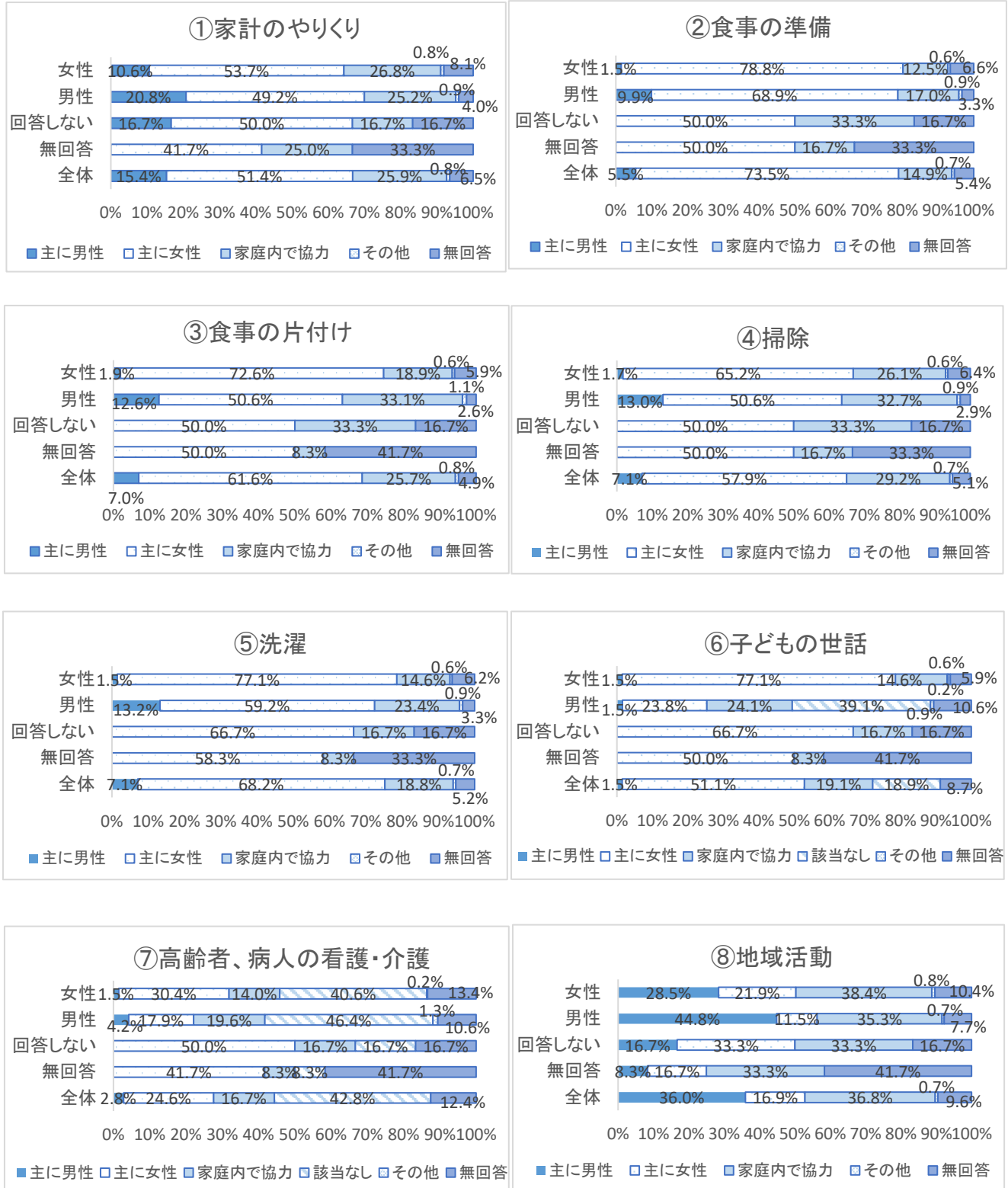
家庭生活についておたずねします

問17 あなたの家庭では、現在次のことは主にどなたが担当していますか。

①～⑧の各項目について1つずつお選びください。

(女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人)

● 全体的に女性が担っている割合が高い。



家庭生活全体では、全体的に「主に女性」が担当している割合が高いことがわかる。

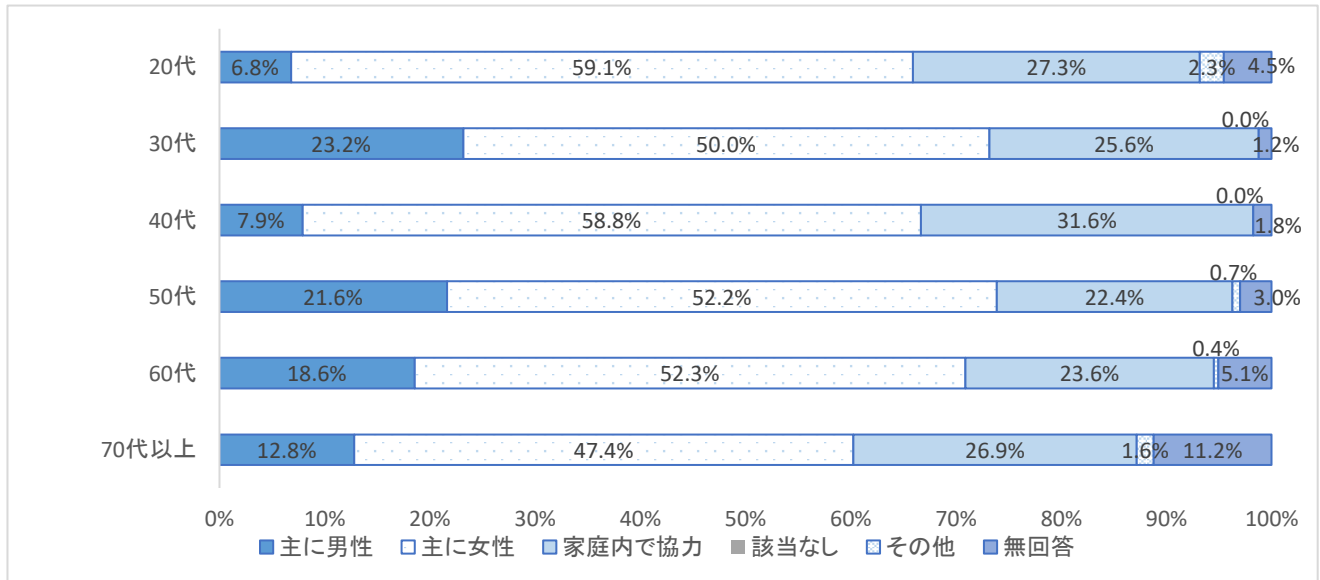
⑧地域活動では「家庭内で協力」が36.8%、次いで「主に男性」が36.0%とほぼ同じ割合となっている。

問17 あなたの家庭では、現在次のことは主にどなたが担当していますか。

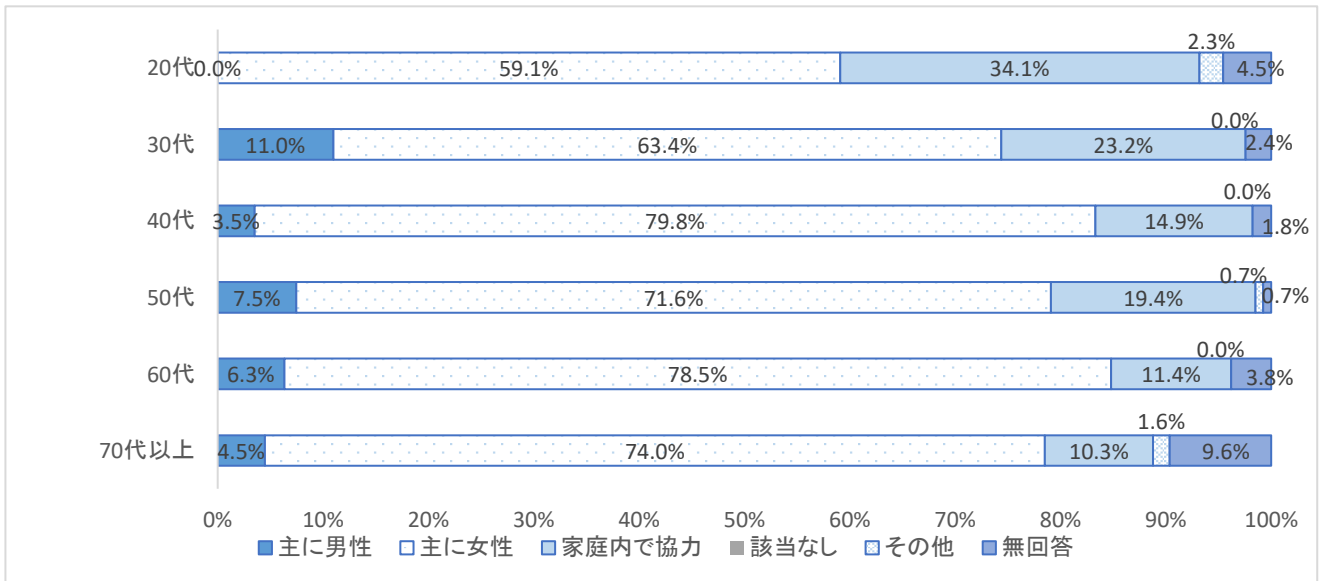
①～⑧の各項目について1つずつお選びください。

○年代別

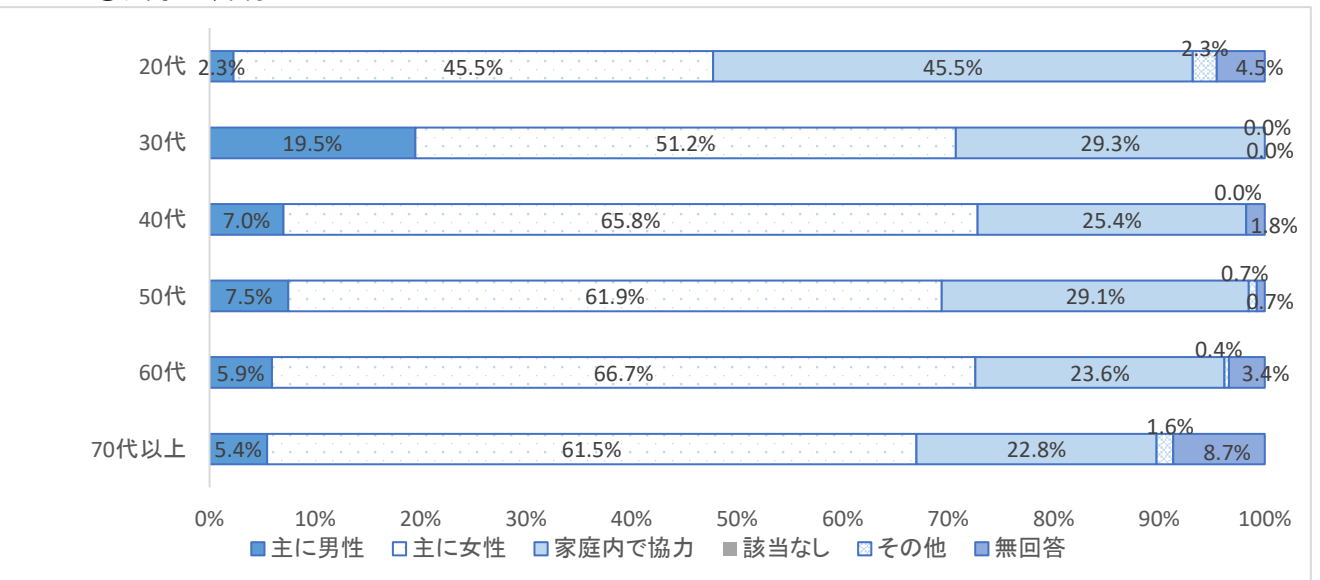
①家計費のやりくり



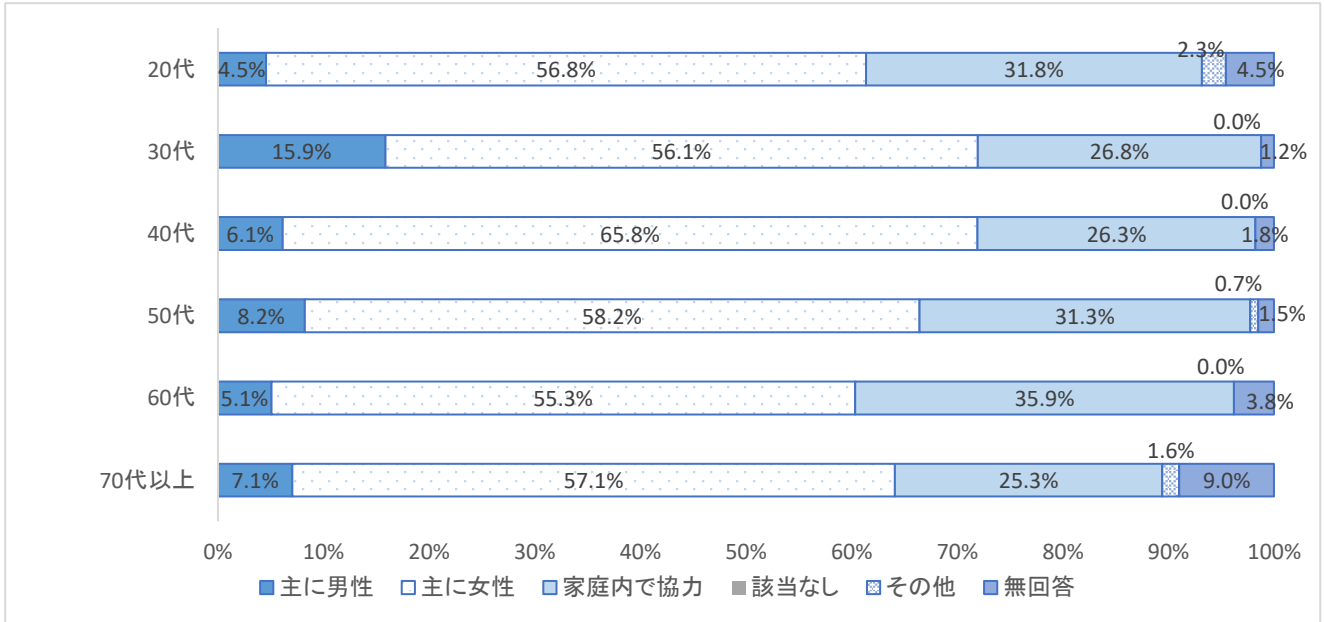
②食事の準備



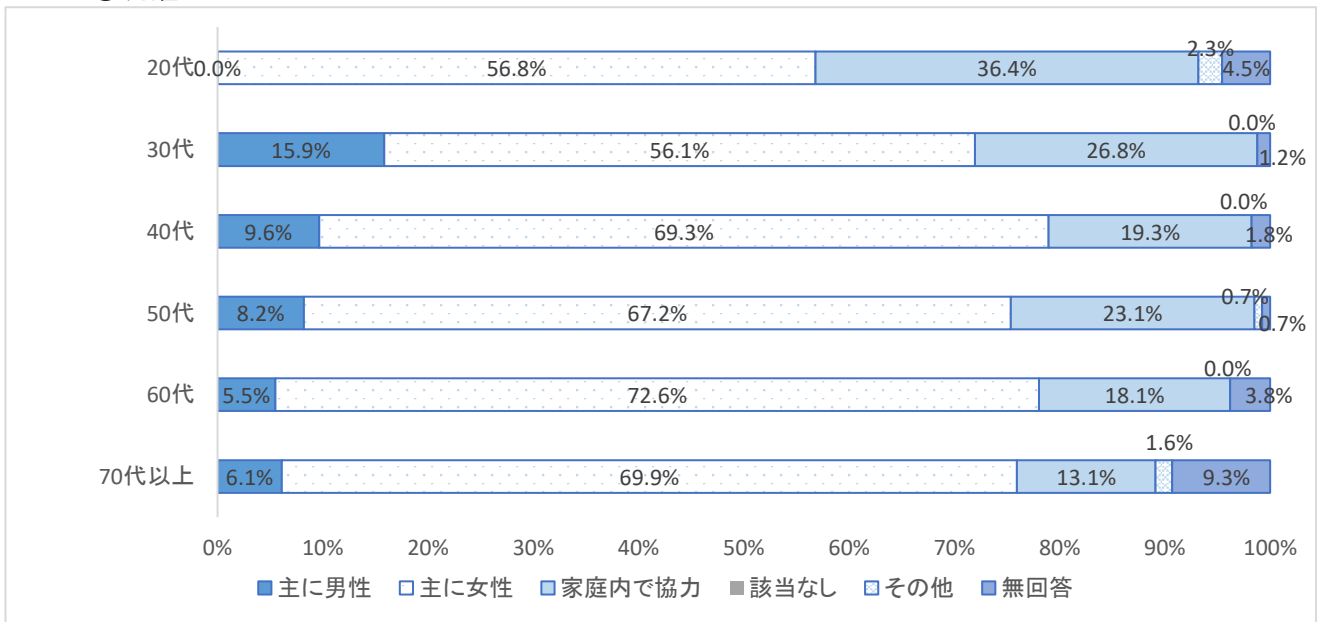
③食事の片付け



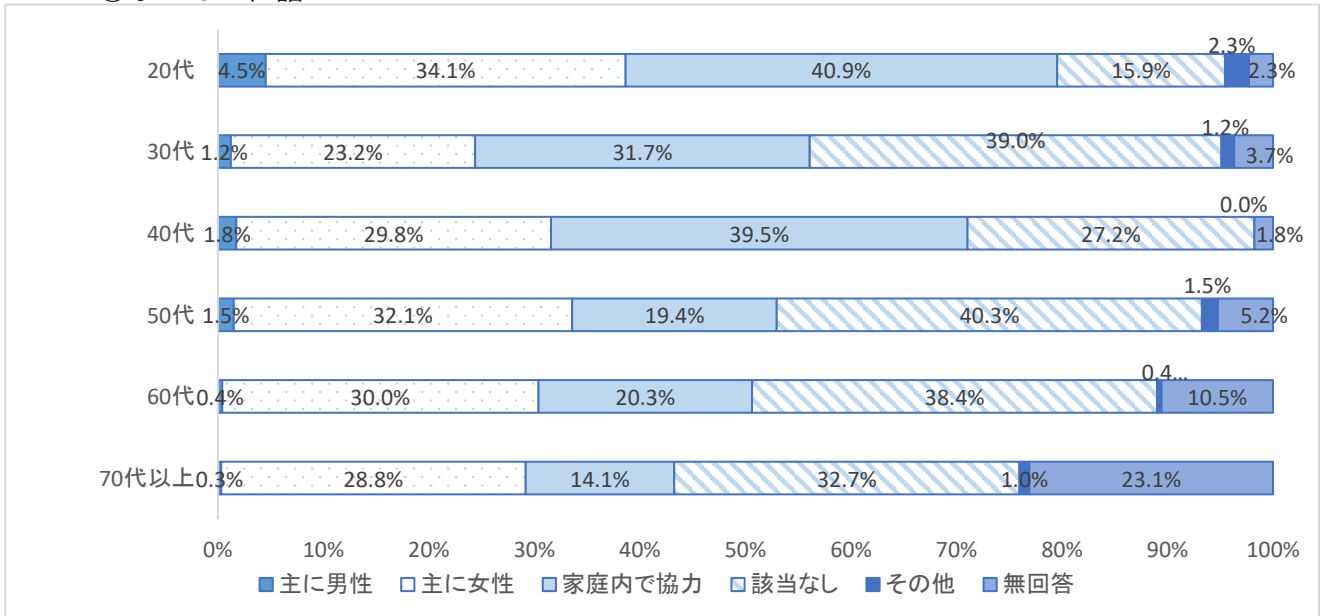
④掃除



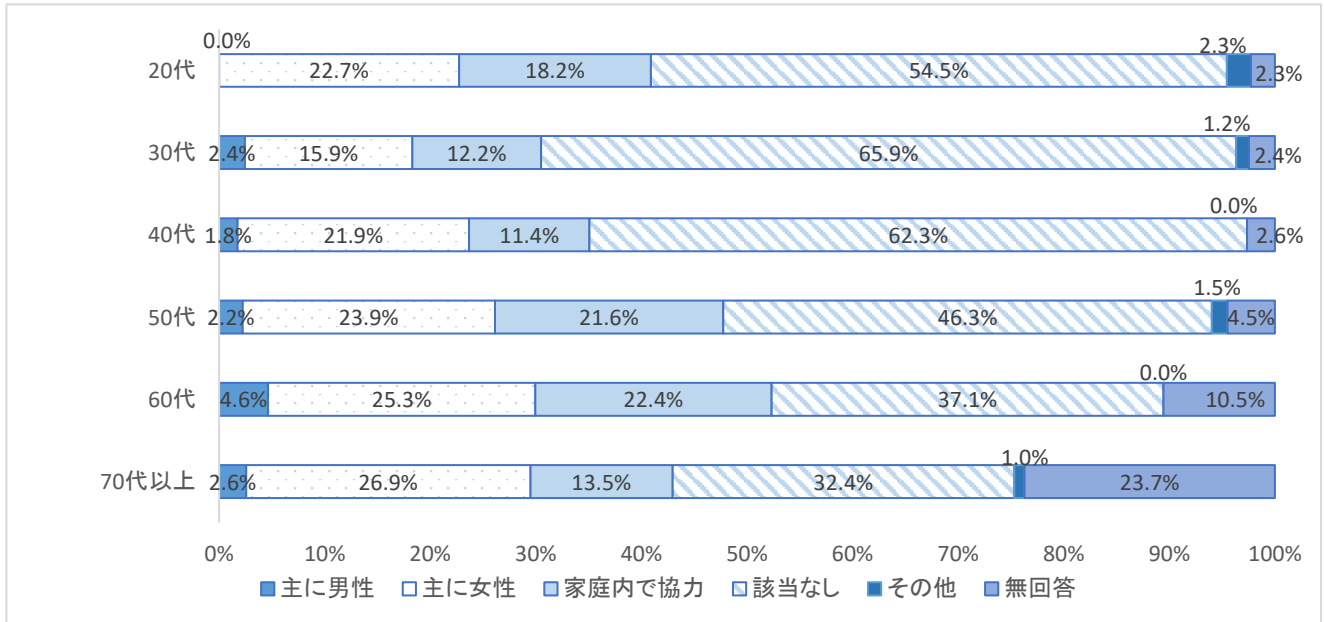
⑤洗濯



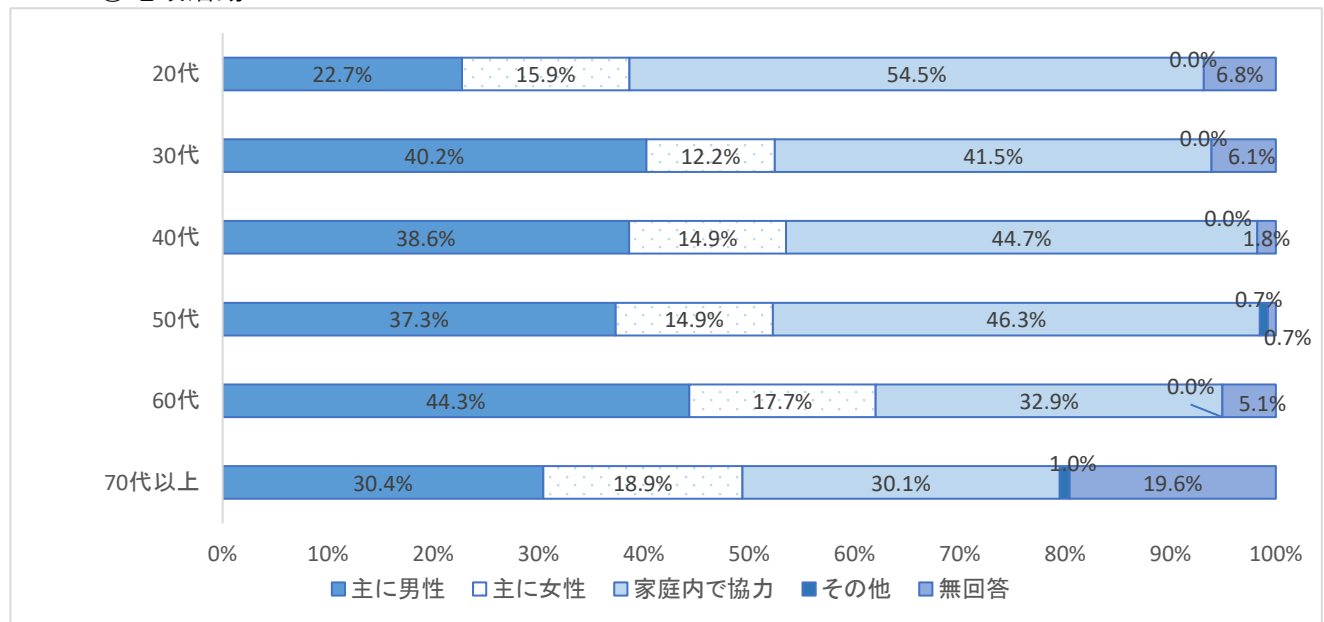
⑥子どもの世話



⑦高齢者、病人の看護・介護



⑧地域活動



□前回調査（平成27年）との比較

【女性】

	①家計費のやりくり		②食事の準備		③食事の片付け		④掃除	
	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回
主に男性	10.6%	9.3%	1.5%	0.7%	1.9%	0.7%	1.7%	0.7%
主に女性	53.7%	59.6%	78.8%	87.2%	72.6%	80.8%	65.2%	78.4%
家庭内で協力	26.8%	26.0%	12.5%	9.1%	18.9%	15.0%	26.1%	17.4%
該当なし	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	0.8%	0.0%	0.6%	0.0%	0.6%	0.0%	0.6%	0.0%
無回答	8.1%	5.1%	6.6%	3.1%	5.9%	3.5%	6.4%	3.5%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

	⑤洗濯		⑥子どもの世話		⑦高齢者等の看護・介護		⑧地域活動	
	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回
主に男性	1.5%	1.5%	1.5%	0.2%	1.5%	0.4%	28.5%	22.7%
主に女性	77.1%	82.3%	77.1%	38.2%	30.4%	31.8%	21.9%	22.7%
家庭内で協力	14.6%	12.6%	14.6%	24.3%	14.0%	16.1%	38.4%	45.3%
該当なし	—	—	0.2%	29.4%	40.6%	44.4%	—	—
その他	0.6%	0.0%	0.6%	0.0%	0.2%	0.0%	0.8%	0.2%
無回答	6.2%	3.5%	5.9%	7.9%	13.4%	7.3%	10.4%	9.1%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

【男性】

	①家計費のやりくり		②食事の準備		③食事の片付け		④掃除	
	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回
主に男性	20.8%	19.6%	9.9%	9.6%	12.6%	11.3%	13.0%	11.8%
主に女性	49.2%	46.3%	68.9%	72.5%	50.6%	56.5%	50.6%	55.1%
家庭内で協力	25.2%	29.2%	17.0%	12.9%	33.1%	26.7%	32.7%	28.4%
該当なし	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	0.8%	0.0%	0.9%	0.3%	1.1%	0.3%	0.9%	0.0%
無回答	8.1%	5.0%	3.3%	4.7%	2.6%	5.2%	2.9%	4.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

	⑤洗濯		⑥子どもの世話		⑦高齢者等の看護・介護		⑧地域活動	
	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回
主に男性	13.2%	11.3%	1.5%	2.2%	4.2%	5.0%	44.8%	39.7%
主に女性	59.2%	66.1%	23.8%	24.5%	17.9%	16.0%	11.5%	12.1%
家庭内で協力	23.4%	17.4%	24.1%	24.0%	19.6%	15.7%	35.3%	39.9%
該当なし	—	—	39.1%	36.9%	46.4%	52.3%	—	—
その他	0.9%	0.0%	0.9%	0.0%	1.3%	0.0%	0.7%	0.6%
無回答	3.3%	5.2%	10.6%	12.4%	10.6%	11.0%	7.7%	7.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

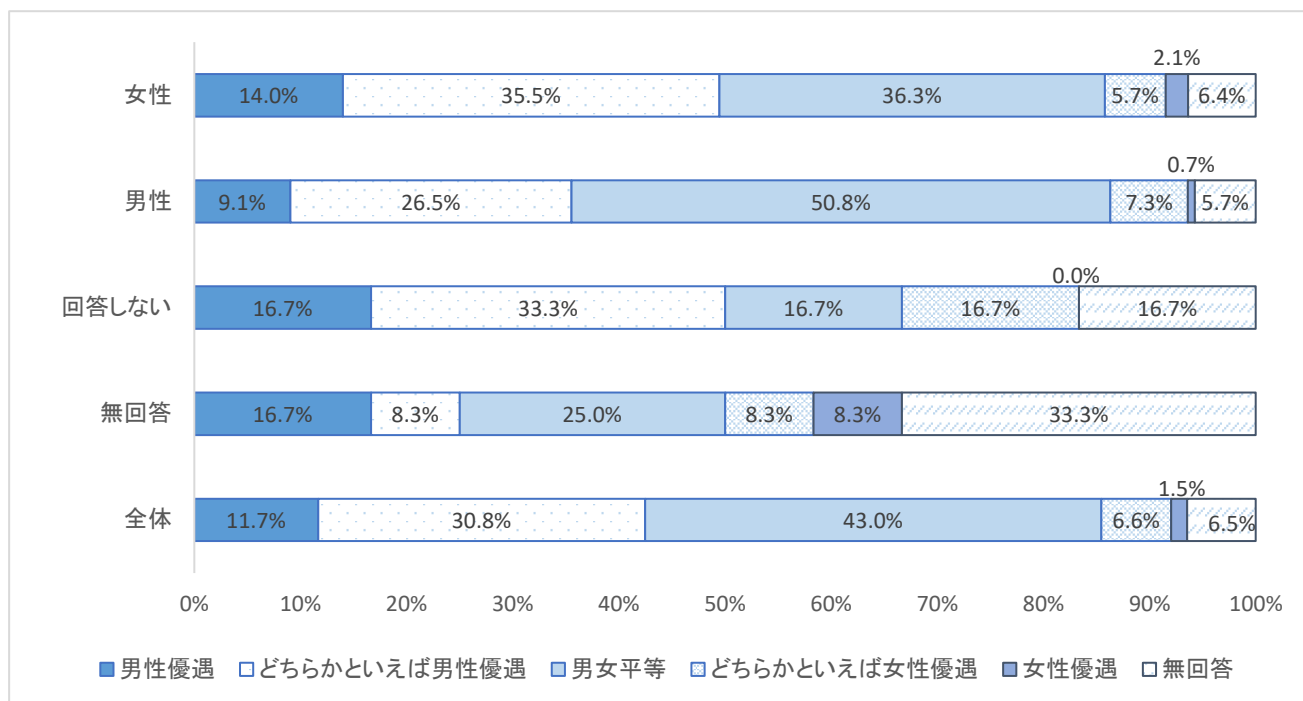
全体的に女性が担っている割合が高いが、女性の回答では「主に女性」の割合が全体的に減ってきている。

ただし、女性の回答の中でも「子供の世話」については「主に女性」の回答割合が倍増しており、「家庭内で協力」の割合が減っている。

問18 あなたの家庭では、男女平等だと思いますか。1つお選びください。

(女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人)

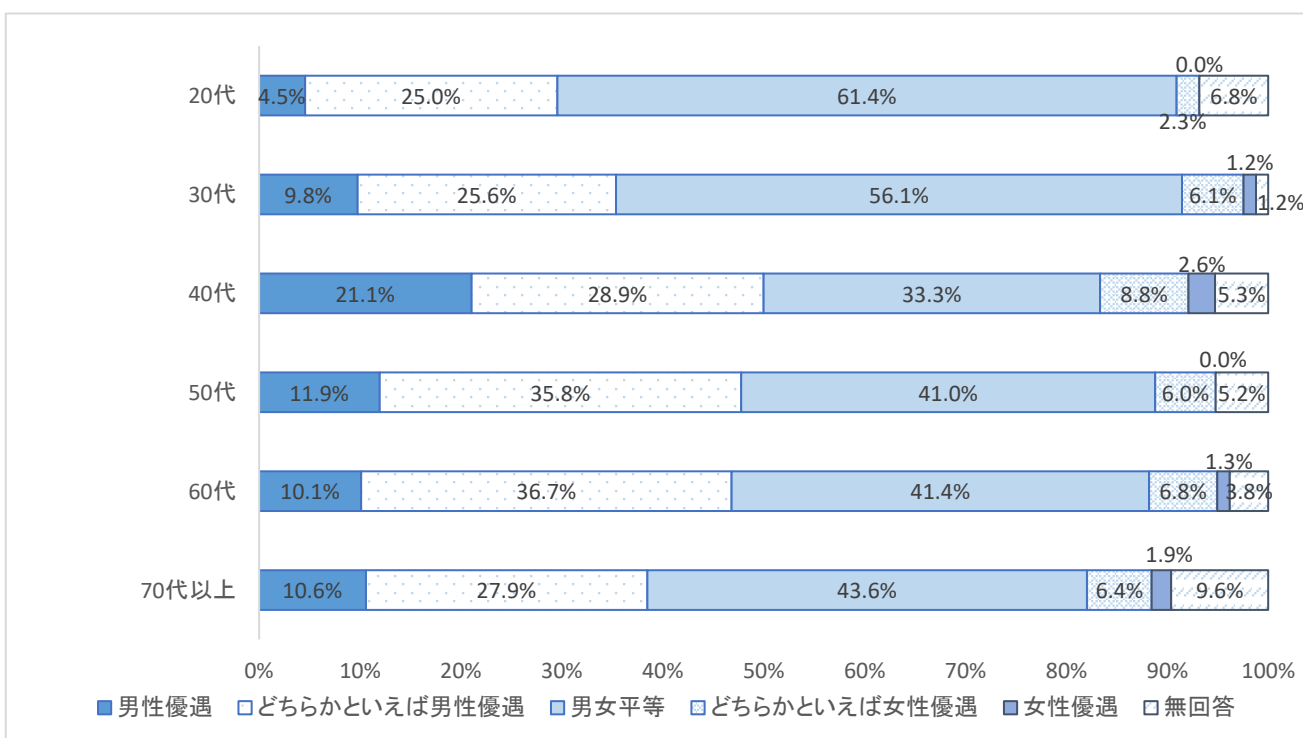
● 男性の方が「男女平等」と思う人が多い。



前問の問17では、女性による家事負担が大きいものであるとの結果が出たが、全体で見ると、「男女平等」(43.0%)と答えた割合が一番高い。次いで、「どちらかといえば男性優遇」(30.8%)、「男性優遇」(11.7%)が続いていて、「どちらかといえば女性優遇」(6.6%)、「女性優遇」(1.5%)の割合は低くなっている。

男女別に見ると、男性の方が女性よりも「男女平等」と回答した割合が高くなっている。また、女性の方が「男性優遇」と回答した割合が高くなっている。

○問18 年代別



問18 あなたの家庭では、男女平等であると思いますか。1つお選びください。

□前回調査（平成27年）との比較

	女性			男性			今回		合計		
	今回		前回	今回		前回	今回		今回		前回
	回答数	割合	割合	回答数	割合	割合	回答しない	無回答	回答数	割合	割合
男性優遇	66	14.0%	28.3%	41	9.1%	45.5%	1	2	110	11.7%	35.9%
どちらかといえば男性優遇	167	35.5%	29.4%	120	26.5%	16.5%	2	1	290	30.8%	23.6%
男女平等	171	36.3%	28.7%	230	50.8%	26.4%	1	3	405	43.0%	27.8%
どちらかといえば女性優遇	27	5.7%	5.5%	33	7.3%	3.3%	1	1	62	6.6%	4.5%
女性優遇	10	2.1%	1.3%	3	0.7%	1.9%	0	1	14	1.5%	1.6%
無回答	30	6.4%	6.8%	26	5.7%	6.3%	1	4	61	6.5%	6.6%
計	471	100.0%	100.0%	453	100.0%	100.0%	6	12	942	100.0%	100.0%

男女の合計で見ると、前回「男性優遇」と「どちらかといえば男性優遇」の合計は59.5%であったが、今回は42.5%で減少している。

また、「男女平等」も前回の27.8%から43.0%に割合が高くなっており、男性優遇と感じている人が減少している。

このことから、家庭での男女平等の意識が男性優遇から男女平等へ変化してきていることがわかる。

地域活動についておたずねします

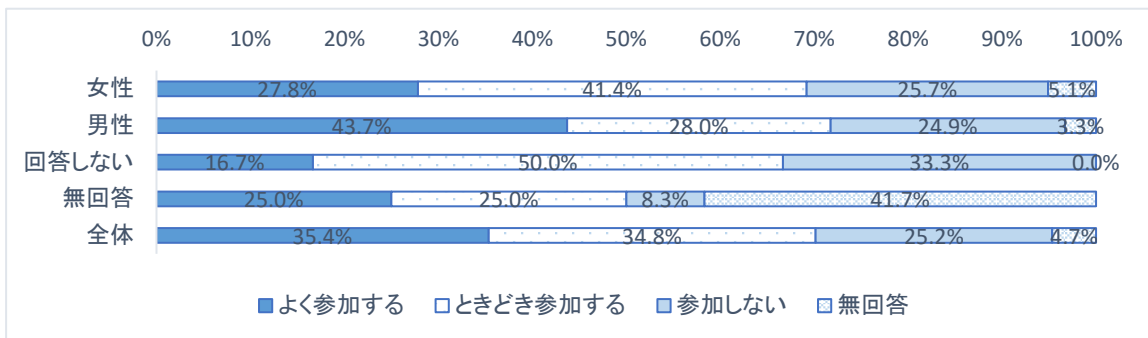
問19 あなたは次の①～④にあげるような活動に、それぞれどの程度参加していますか。

①～⑥の項目ごとに当てはまる番号を1つずつお選びください。

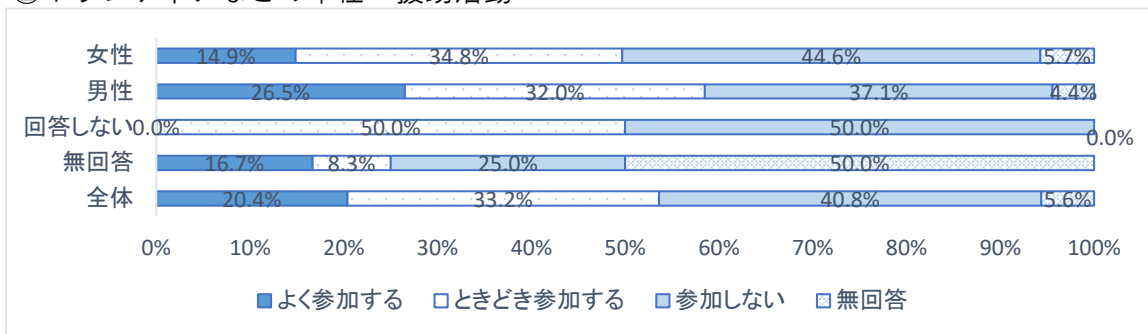
(女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人)

● 全体的に地域活動に参加しない人の割合が高い。

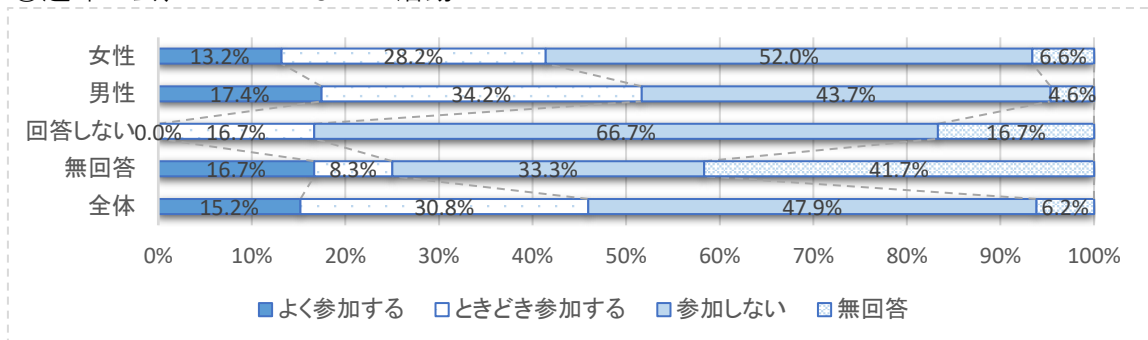
①町内会、自治会などの活動



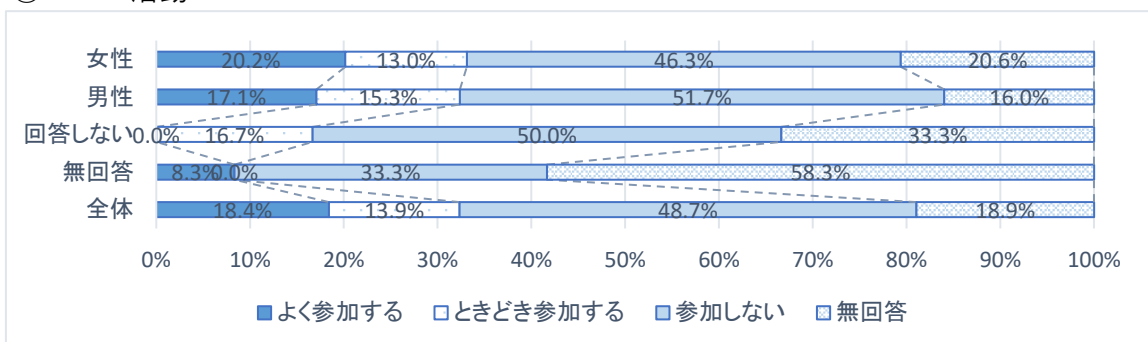
②ボランティアなどの奉仕・援助活動



③趣味の会、スポーツなどの活動



④PTA活動



全体的に、「参加しない」と回答した人の割合が高い。

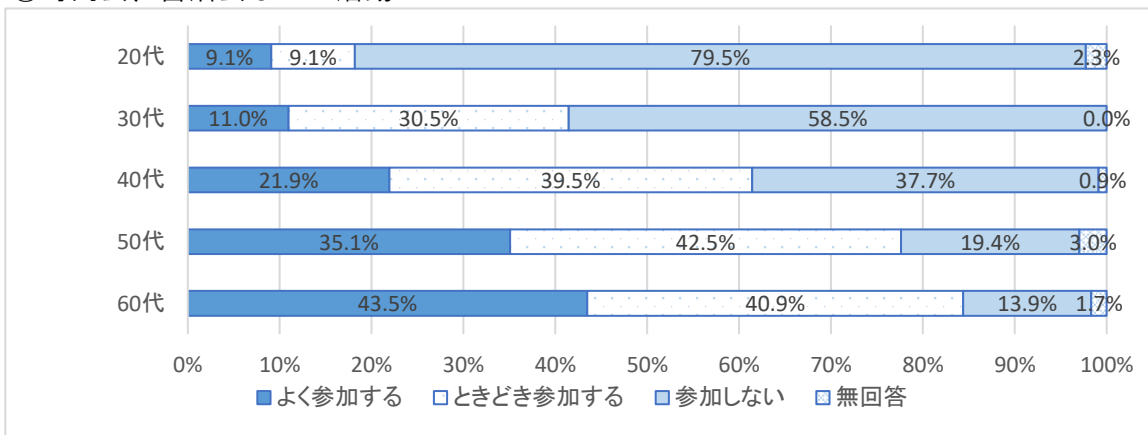
その中で、地域社会に密着した「町内会・自治会などの活動」(35.4%)、次いで「ボランティアなどの奉仕・援助活動」(20.4%)は参加する人の割合が比較的高い。

男女別で見ると、男性の方が女性より参加している傾向がある。

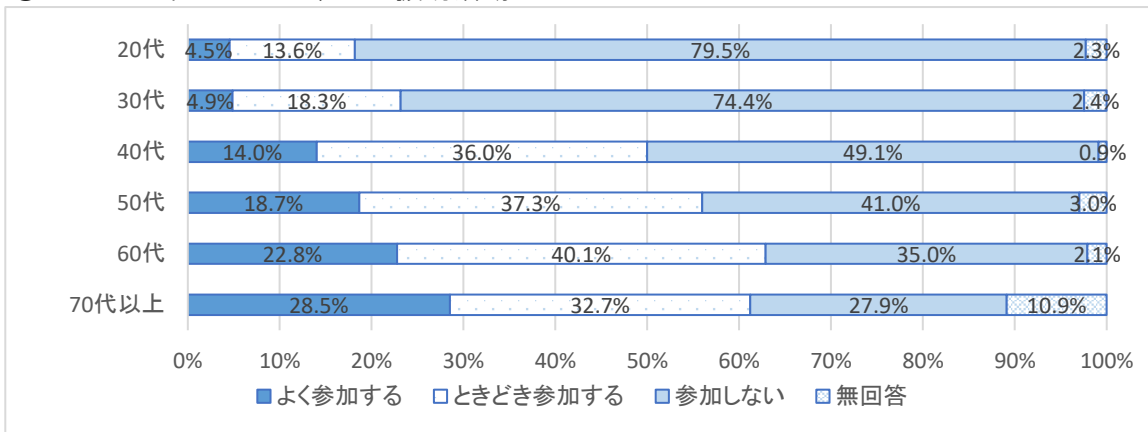
ただし、「PTA活動」については、男性(17.1%)より女性(20.2%)の方が参加する割合が高くなっている。

○問19 年代別

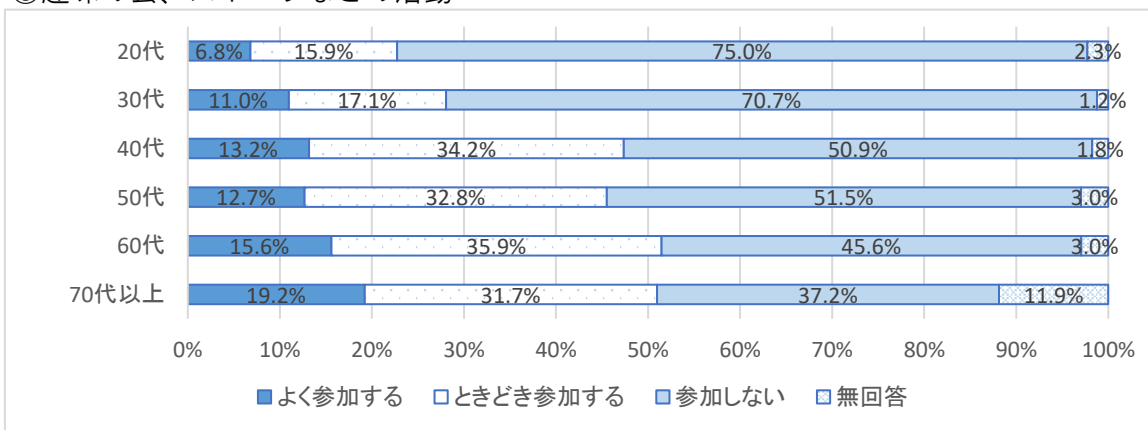
①町内会、自治会などの活動



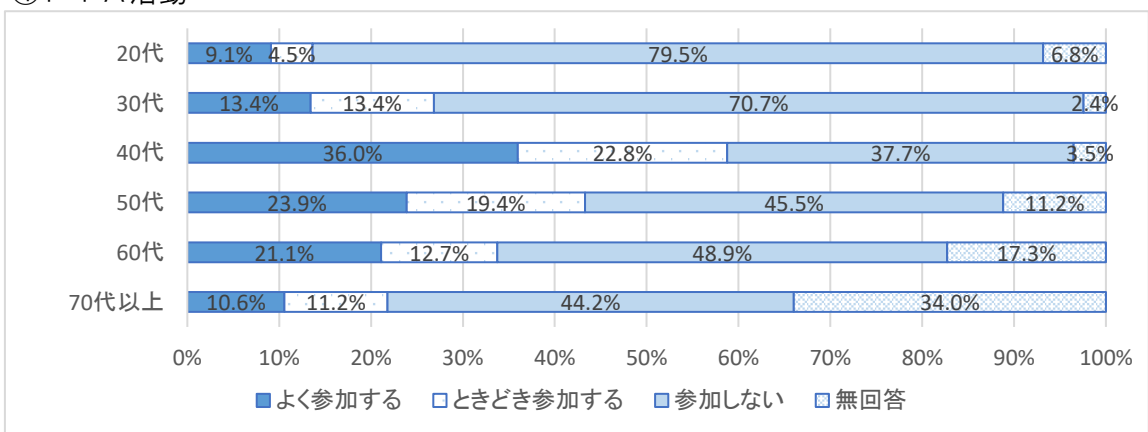
②ボランティアなどの奉仕・援助活動



③趣味の会、スポーツなどの活動



④PTA活動



□前回調査（平成27年）との比較

【女性】

	①町内会、自治会などの活動		②ボランティアなどの奉仕・援助活動		③趣味の会、スポーツなどの活動		④PTA活動	
	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回
よく参加する	27.8%	19.2%	14.9%	12.1%	13.2%	11.9%	20.2%	23.0%
ときどき参加する	41.4%	41.9%	34.8%	33.1%	28.2%	25.2%	13.0%	13.9%
参加しない	25.7%	34.9%	44.6%	51.0%	52.0%	58.1%	46.3%	49.9%
無回答	5.1%	4.0%	5.7%	3.8%	6.6%	4.9%	20.6%	13.2%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

【男性】

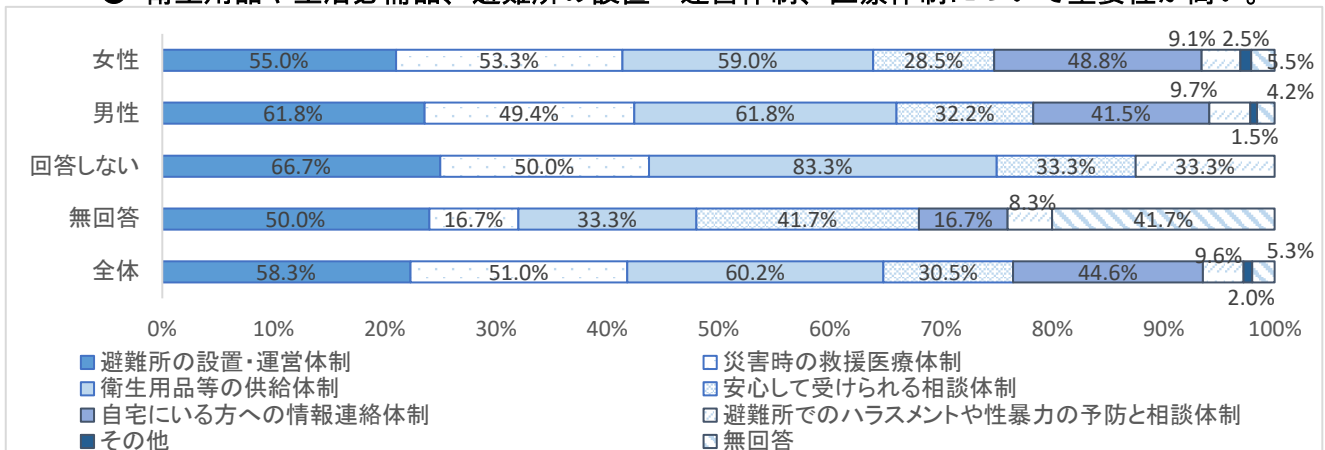
	①町内会、自治会などの活動		②ボランティアなどの奉仕・援助活動		③趣味の会、スポーツなどの活動		④PTA活動	
	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回
よく参加する	43.7%	32.8%	26.5%	18.7%	17.4%	16.3%	17.1%	12.9%
ときどき参加する	28.0%	36.1%	32.0%	37.7%	34.2%	32.2%	15.3%	17.1%
参加しない	24.9%	28.1%	37.1%	37.7%	43.7%	44.6%	51.7%	54.5%
無回答	3.3%	3.0%	4.4%	5.8%	4.6%	6.9%	16.0%	15.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

前回と同様に、「町内会・自治会などの活動」、「ボランティアなどの奉仕・援助活動」では男性の参加の割合が高く、「PTA活動」では女性の割合が高くなっており、構成にほとんど変わりはない。

問20 東日本大震災では、避難所等において男女のニーズの違いや多様な生活者の視点の重要性が指摘されました。防災・災害復興対策で、あなたが必要だと思う対応は何ですか。3つ以内で選びください。

(女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人)

● 衛生用品や生活必需品、避難所の設置・運営体制、医療体制について重要性が高い。

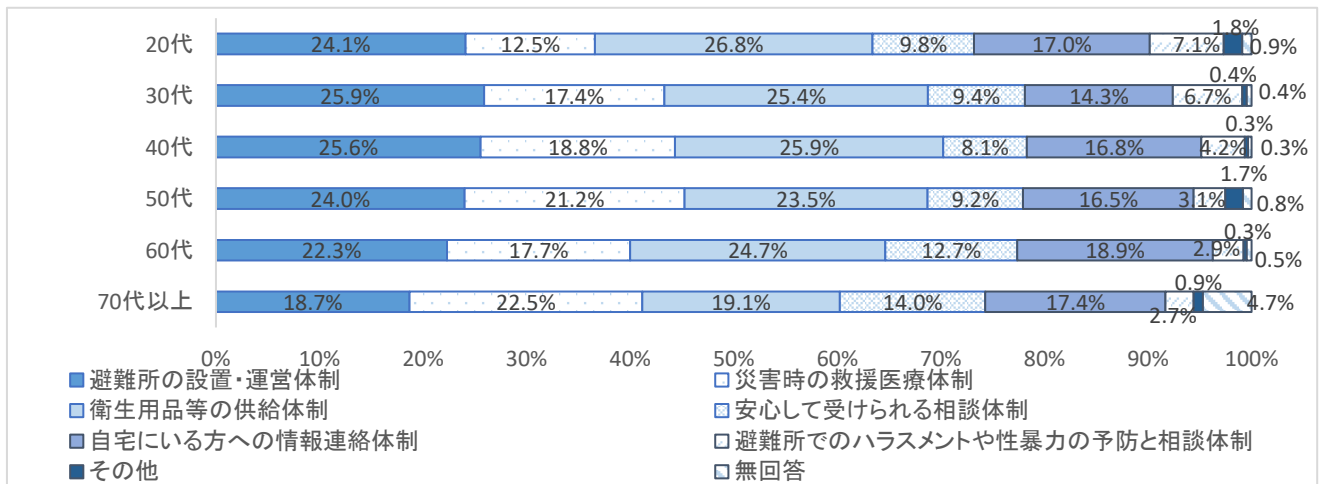


東日本大震災では、男女共同参画の視点の重要性が指摘されたことから、防災・災害復興対策で必要だと思う対応について質問したもの。

全体で見ると、「衛生用品や生活必需品、備蓄品の供給体制」が60.2%と割合が高く、次いで「授乳や着替え場所を確保するなど、避難所の設置・運営体制」が58.3%と割合が高い。

「その他」の回答として、「女性への生理用品が性的だとされて男性リーダーが送り返す例があった。男女に関わらず、なぜ必要なのか医療機関などと協力、マニュアル作成が必要。特に未成年など初めての身体の変化と時期が被った場合の周りの適切なサポートが必要不可欠」、「個々の柔軟性」、「乳児・幼児・年配者を持つ家庭の分割場所」、「プライベートの確保」などの回答があった。

○問20 年代別



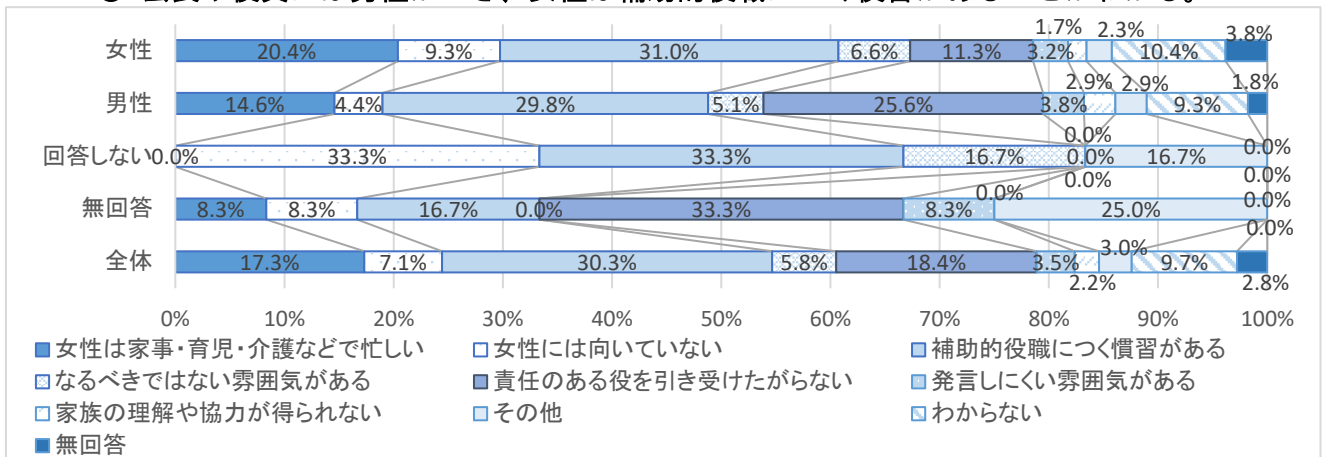
□前回調査（平成27年）との比較

	女性		男性		今回		合計		
	今回	前回	今回	前回	今回	今回	今回	前回	
	回答数	割合	回答数	割合	回答しない	無回答	回答数	割合	割合
避難所の設置・運営体制	259	55.0%	280	61.8%	4	6	549	58.3%	55.1%
災害時の救援医療体制	251	53.3%	224	49.4%	3	2	480	51.0%	52.9%
衛生用品等の供給体制	278	59.0%	280	61.8%	5	4	567	60.2%	65.7%
安心して受けられる相談体制	134	28.5%	146	32.2%	2	5	287	30.5%	28.4%
自宅にいる方への情報連絡体制	230	48.8%	188	41.5%	0	2	420	44.6%	48.6%
避難所でのハラスメントや性暴力の予防と相談体制	43	9.1%	44	9.7%	2	1	90	9.6%	2.4%
その他	12	2.5%	7	1.5%	0	0	19	2.0%	4.0%
無回答	26	5.5%	19	4.2%	0	5	50	5.3%	—

問21 栗原市では、自治会などの地域活動において、会長や役員に女性が少ないのが現状ですが、あなたのお住まいの地域で、女性のリーダーが少ない理由はなぜだと思いますか。 1つお選びください。

(女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人)

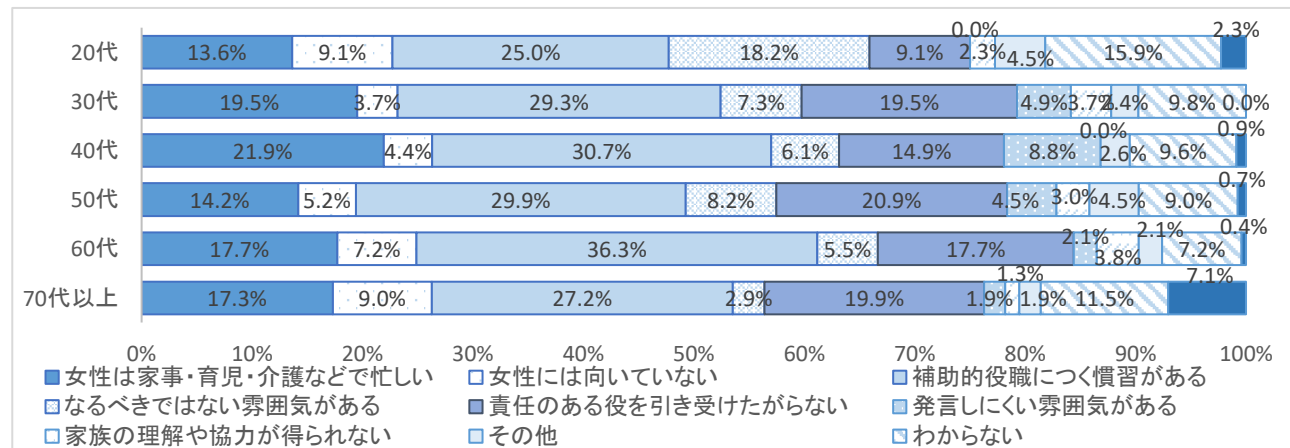
● 会長や役員には男性がつき、女性は補助的役職につく慣習があることがわかる。



栗原市では、自治会などの地域活動において、会長や役員に女性が少ない現状から、女性のリーダーが少ない理由について質問した。全体で見ると、「会長や役員には男性がつき、女性は補助的役職につく慣習があるから」が30.3%と割合が高く、女性が31.0%、男性が29.8%と男女ともに高い。

「その他」の回答として、「役員になる人は仕事をリタイヤした男の人が多。女性はいつまでたっても家事からはぬけられない。」、「年配者がそうさせている」、「役割分担をはっきりとしておけば、適材適所で活躍する」などの回答があった。

○問21 年代別



□前回調査（平成27年）との比較

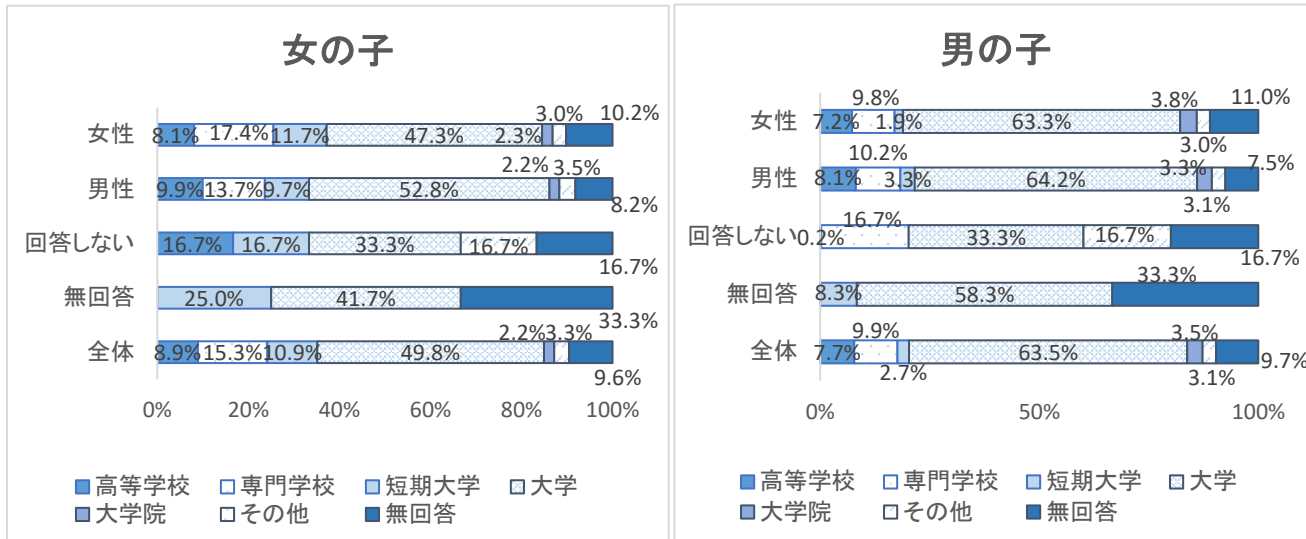
	女性		男性			今回		合計		
	今回	前回	今回	前回	今回	今回	前回	今回	前回	
	回答数	割合	回答数	割合	割合	回答しない	無回答	回答数	割合	割合
女性は家事・育児・介護などで忙しいから	96	20.4%	66	14.6%	16.8%	0	1	163	17.3%	20.3%
女性には向いていない	44	9.3%	20	4.4%	9.1%	2	1	67	7.1%	7.3%
補助的役職につく慣習がある	146	31.0%	135	29.8%	32.8%	2	2	285	30.3%	33.9%
なるべきではない雰囲気がある	31	6.6%	23	5.1%	5.2%	1	0	55	5.8%	6.0%
責任のある役を引き受けがらない	53	11.3%	116	25.6%	19.0%	0	4	173	18.4%	16.1%
発言しにくい雰囲気がある	15	3.2%	17	3.8%	6.1%	0	1	33	3.5%	8.3%
家族の理解や協力が得られない	8	1.7%	13	2.9%	4.1%	0	0	21	2.2%	5.7%
その他	11	2.3%	13	2.9%	2.8%	1	3	28	3.0%	2.3%
わからない	49	10.4%	42	9.3%	9.6%	0	0	91	9.7%	9.3%
無回答	18	3.8%	8	1.8%	2.8%	0	0	26	2.8%	2.7%
計	471	100.0%	453	100.0%	100.0%	6	12	942	100.0%	100.0%

教育についておたずねします

問22 あなたは、理想として自分の子どもにはどの程度の教育を受けさせたいと思いますか。女の子、男の子のそれぞれについて、1つずつお選びください。

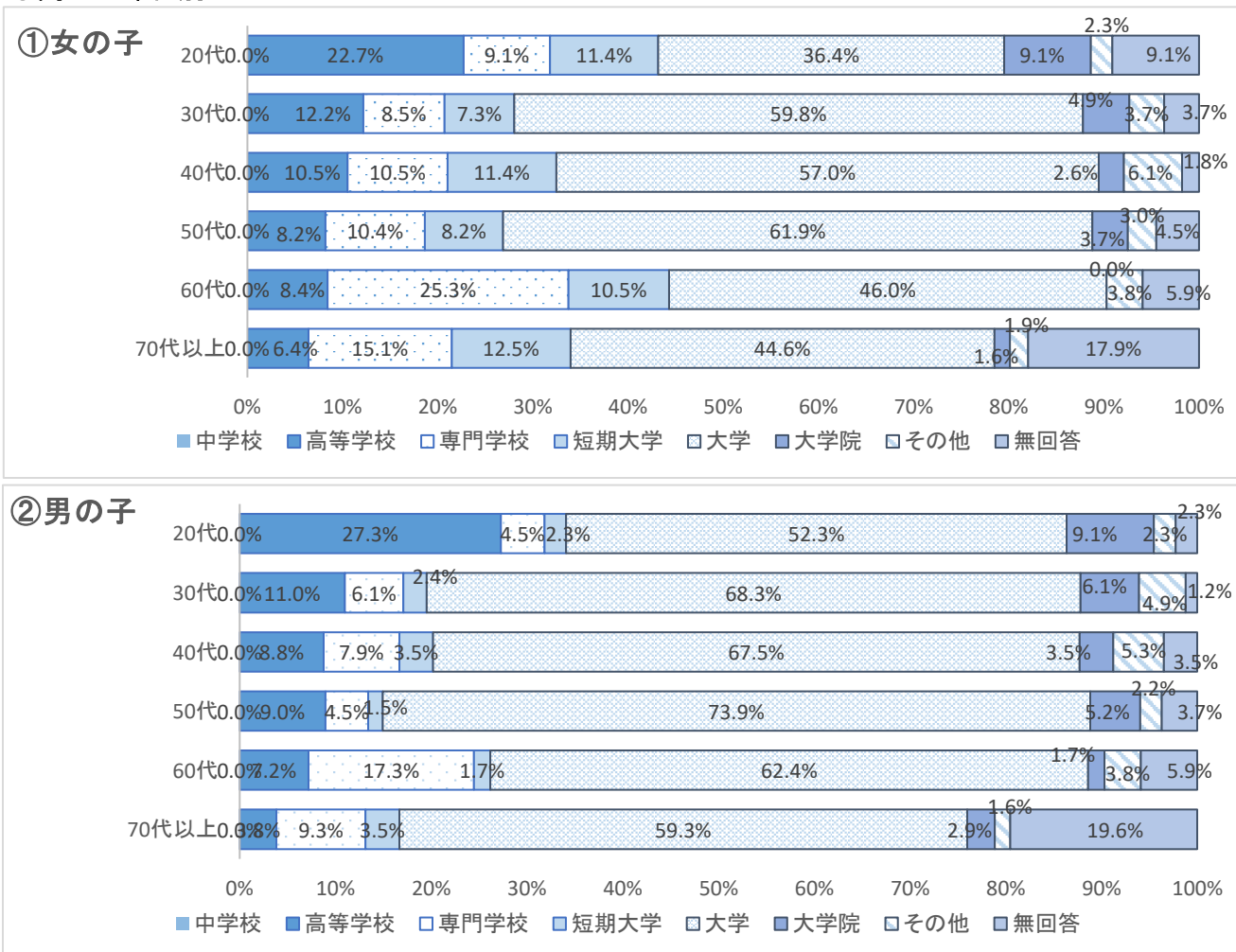
(女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人)

● 女の子、男の子どちらも「大学」まで行かせたいと思う人が多い。



全体では、「大学」までが最も多く、次いで「専門学校」、「短期大学」、「高等学校」と続いている。ただし、女の子と男の子では内容が異なり、「大学」が女の子では49.8%、男の子は63.5%、また「短期大学」が女の子では10.9%、男の子は2.7%となっている。

問22 年代別



□前回調査（平成27年）との比較

	①女の子										
	女性			男性			今回		合計		
	今回		前回	今回		前回			今回		前回
	回答数	割合	割合	回答数	割合	割合	回答しない	無回答	回答数	割合	割合
中学校	0	0.0%	0.2%	0	0.0%	0.0%	0	0	0	0.0%	0.1%
高等学校	38	8.1%	10.6%	45	9.9%	11.6%	1	0	84	8.9%	11.1%
専門学校	82	17.4%	20.3%	62	13.7%	17.1%	0	0	144	15.3%	18.8%
短期大学	55	11.7%	10.2%	44	9.7%	14.0%	1	3	103	10.9%	11.8%
大学	223	47.3%	48.6%	239	52.8%	43.8%	2	5	469	49.8%	46.5%
大学院	11	2.3%	0.9%	10	2.2%	1.9%	0	0	21	2.2%	1.3%
その他	14	3.0%	2.2%	16	3.5%	3.0%	1	0	31	3.3%	2.6%
無回答	48	10.2%	7.1%	37	8.2%	8.5%	1	4	90	9.6%	7.7%
計	471	100.0%	100.0%	453	100.0%	100.0%	6	12	942	100.0%	100.0%

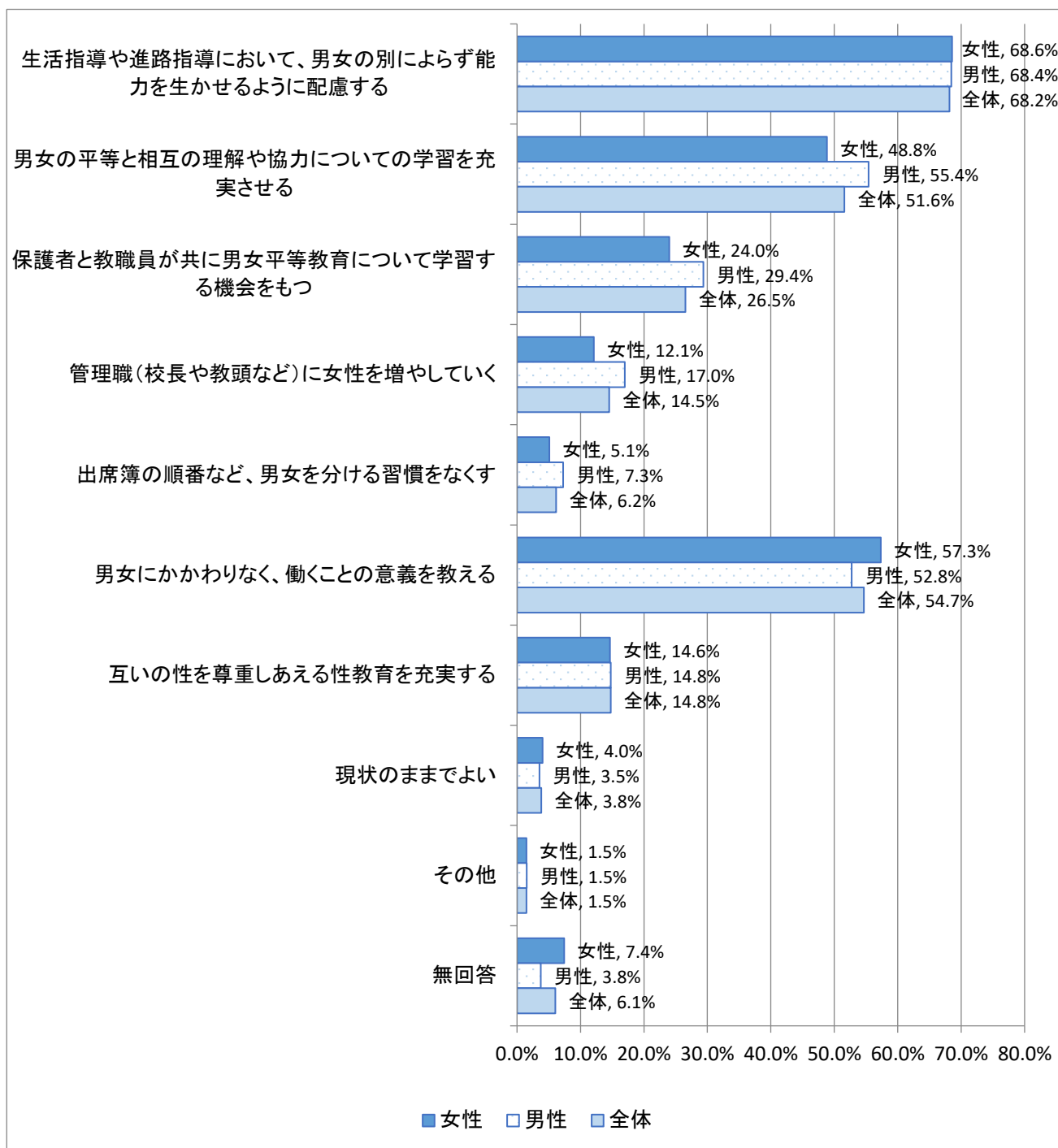
	②男の子										
	女性			男性			今回		合計		
	今回		前回	今回		前回			今回		前回
	回答数	割合	割合	回答数	割合	割合	回答しない	無回答	回答数	割合	割合
中学校	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0	0	0.0%	0.0%
高等学校	34	7.2%	9.3%	38	8.4%	10.5%	1	0	73	7.7%	9.9%
専門学校	46	9.8%	11.0%	46	10.2%	13.2%	1	0	93	9.9%	12.0%
短期大学	9	1.9%	2.2%	15	3.3%	4.4%	0	1	25	2.7%	3.2%
大学	298	63.3%	64.9%	291	64.2%	58.1%	2	7	598	63.5%	61.9%
大学院	18	3.8%	2.9%	15	3.3%	2.5%	0	0	33	3.5%	2.7%
その他	14	3.0%	2.2%	14	3.1%	3.3%	1	0	29	3.1%	2.7%
無回答	52	11.0%	7.5%	34	7.5%	8.0%	1	4	91	9.7%	7.7%
計	471	100.0%	100.0%	453	100.0%	100.0%	6	12	942	100.0%	100.0%

女の子と男の子の教育程度の意識については男女ともに前回から大きい変化は見られなかったが、「大学」まで行かせたいと思う割合は、全体的に増えている。前回同様に女の子と男の子では受けさせたい教育の程度に差があることがわかる。

問23 男女共同参画の意識を育てるために、学校教育の場であなたは特にどのようなことを望みますか。3つ以内でお選びください。

(女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人)

● 男女にかかわらない平等な教育・指導を望んでいることがわかる。

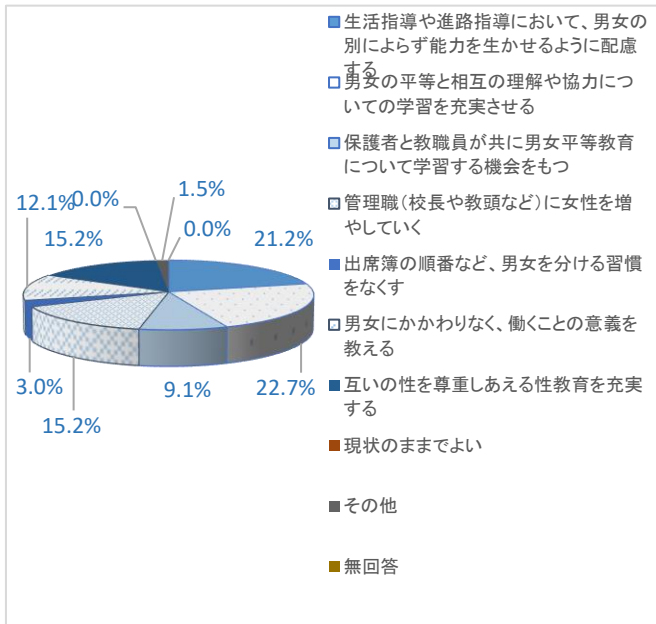


男女別、全体でみると、「生活指導や進路指導において、男女の別によらず能力を生かせるよう配慮する」が最多の回答割合となっている。

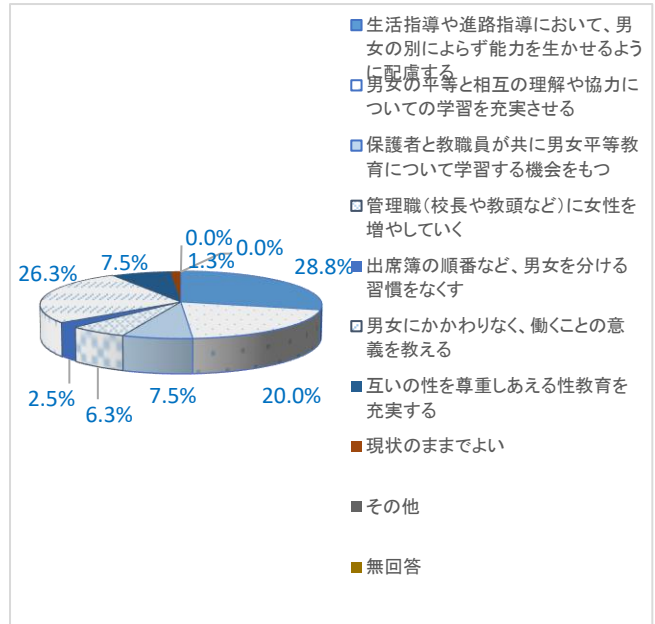
次いで、男性では「男女の平等と相互の協力についての学習を充実させる」(55.4%)が続き、女性では「男女にかかわりなく、働くことの意義を教える」(57.3%)が続いている。

「その他」の回答として、「個性・特性に気づき、伸ばす対応をする」、「男女共同参画の意識を育てるのではなく、個性を生かす」「大切なのは、家族(親)が子どもに教えるのが一番大切。学校教育ばかりに頼ってはいけない。」などの回答があった。

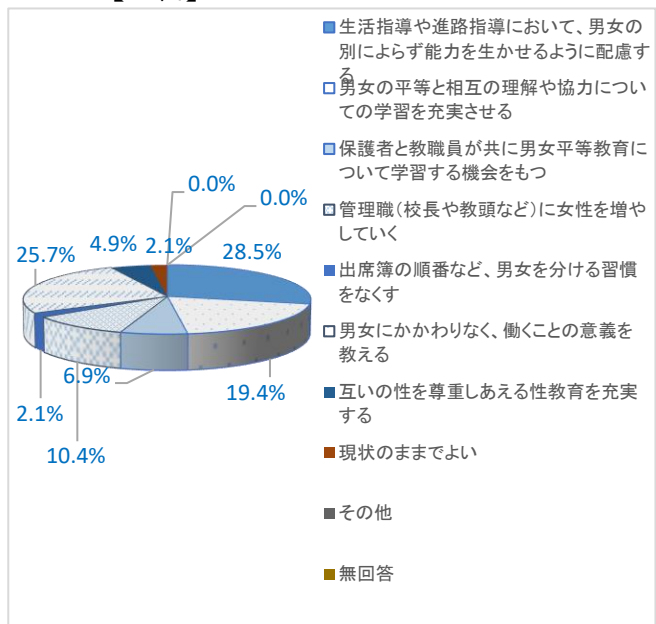
○問23 年代別
【20代】



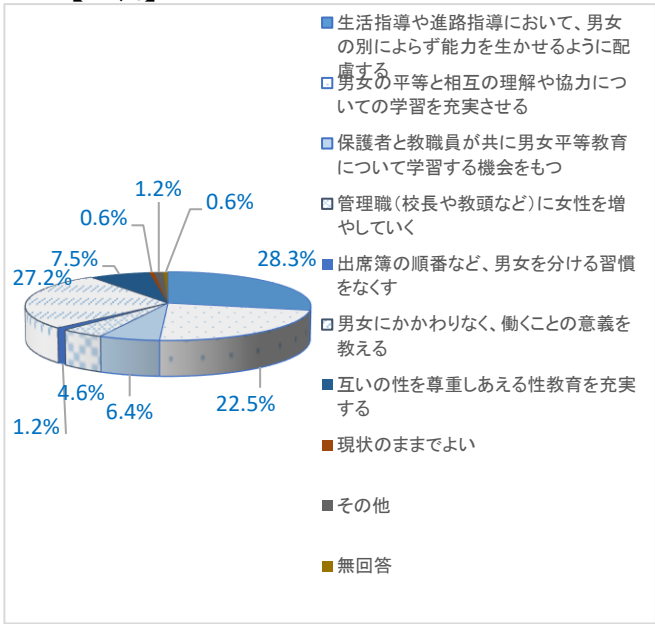
【30代】



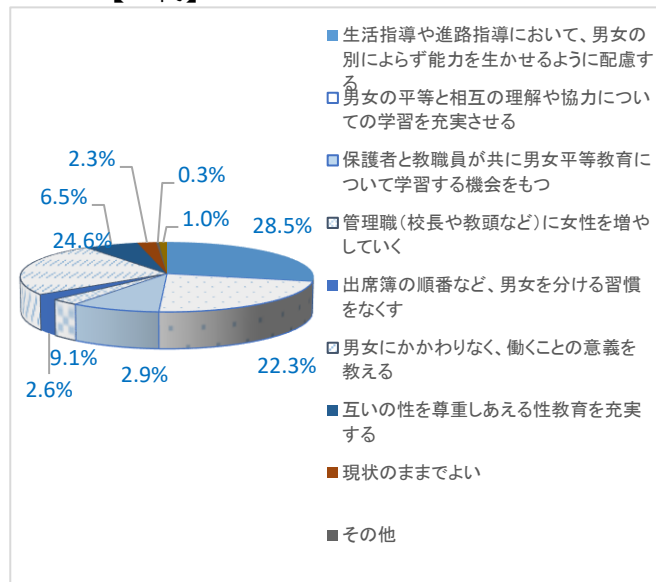
【40代】



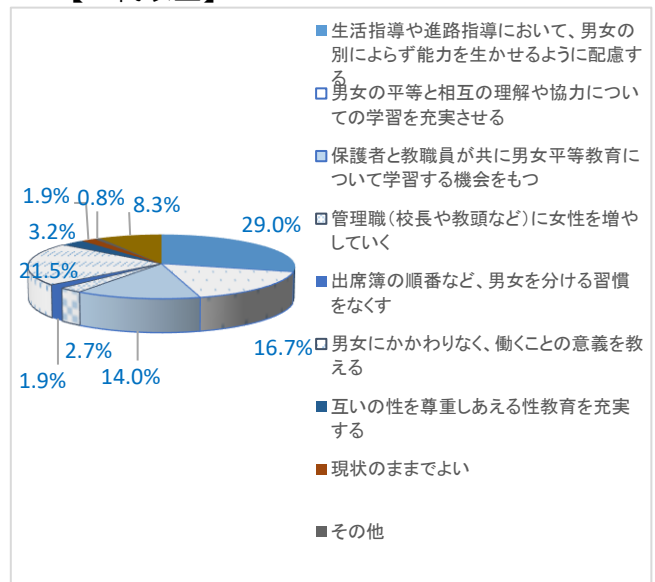
【50代】



【60代】



【70代以上】



問23 男女共同参画の意識を育てるために、学校教育の場であなたは特にどのようなことを望みますか。3つ以内でお選びください。

□前回調査（平成27年）との比較

	女性			男性			今回		合計		
	今回		前回	今回		前回	今回		今回		前回
	回答数	割合	割合	回答数	割合	割合	回答しない	無回答	回答数	割合	割合
生活指導や進路指導において、男女の別によらず能力を生かせるように配慮する	323	68.6%	66.2%	310	68.4%	64.5%	2	7	642	68.2%	65.6%
男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実させる	230	48.8%	54.1%	251	55.4%	55.9%	2	3	486	51.6%	54.8%
保護者と教職員が共に男女平等教育について学習する機会をもつ	113	24.0%	19.0%	133	29.4%	27.3%	2	2	250	26.5%	22.7%
管理職（校長や教頭など）に女性を増やしていく	57	12.1%	15.0%	77	17.0%	17.4%	1	2	137	14.5%	16.0%
出席簿の順番など、男女を分ける習慣をなくす	24	5.1%	6.0%	33	7.3%	6.9%	1	0	58	6.2%	6.3%
男女にかかわりなく、働くことの意義を教える	270	57.3%	58.9%	239	52.8%	53.4%	2	4	515	54.7%	56.7%
互いの性を尊重し合える性教育を充実する	69	14.6%	15.5%	67	14.8%	12.4%	1	2	139	14.8%	14.0%
現状のままでよい	19	4.0%	2.9%	16	3.5%	4.7%	1	0	36	3.8%	3.7%
その他	7	1.5%	1.1%	7	1.5%	2.2%	0	0	14	1.5%	1.6%
無回答	35	7.4%	5.1%	17	3.8%	3.9%	0	5	57	6.1%	4.5%

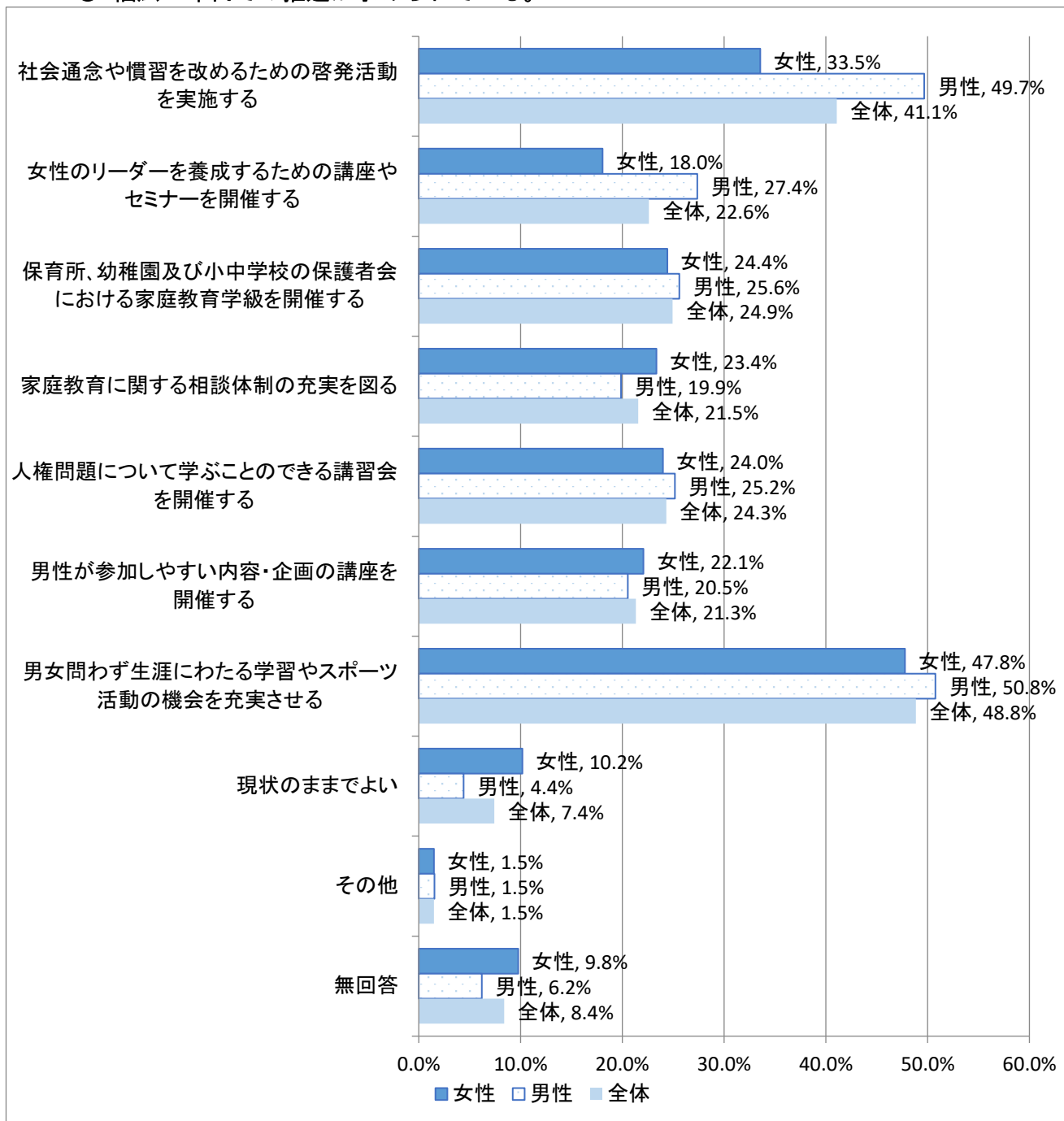
男女の合計で見ると、「生活指導や進路指導において、男女の別によらず能力を生かせるように配慮する」「保護者と教職員が共に男女平等教育について学習する機会をもつ」が前回から増加しており、それ以外は、前回とほぼ変わらない結果となっている。

男女別でみると、男女とも「生活指導や進路指導において、男女の別によらず能力を生かせるように配慮する」「男女にかかわりなく、働くことの意義を教える」の割合が高くなっている。

問24 男女共同参画の意識を育てるために、社会教育・生涯学習の場であなたは特にどのようなことを望みますか。3つ以内でお選びください。

(女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人)

● 幅広い年代での推進が求められている。



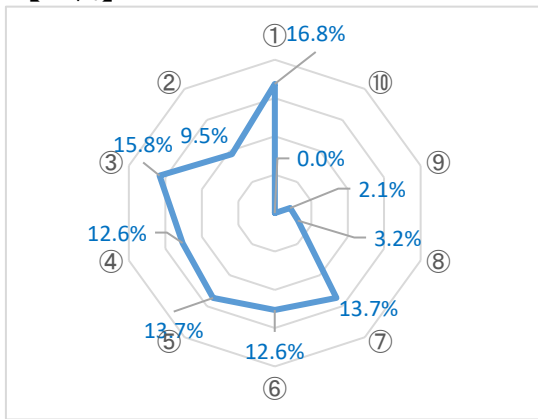
全体では「男女問わず生涯にわたる学習やスポーツ活動の機会を充実させる」(48.8%)が最も割合が高く、男女にかかわらない生涯学習・生涯スポーツの機会の充実を求める人が多い。

次いで、「社会通念や慣習を改めるための啓発運動を実施する」(41.1%)が続いており、特に男性が49.7%と女性の33.5%に比べて、割合が高くなっている。

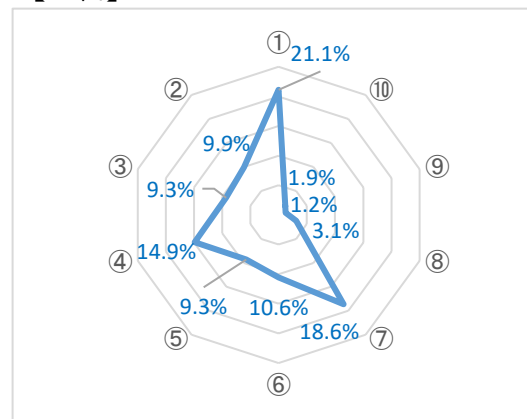
「その他」の回答として、「高齢者が多く、働き盛りは年上、年下の言い分を聞きながら働くのが精いっぱい、変わっていくのはそう簡単ではないと思う。家事をやりたい男性は家事を、仕事が好き女性の仕事は一生懸命やっていたら変わっていくのでは」、「社会教育からでは遅い」などの回答があった。

○問24 年代別

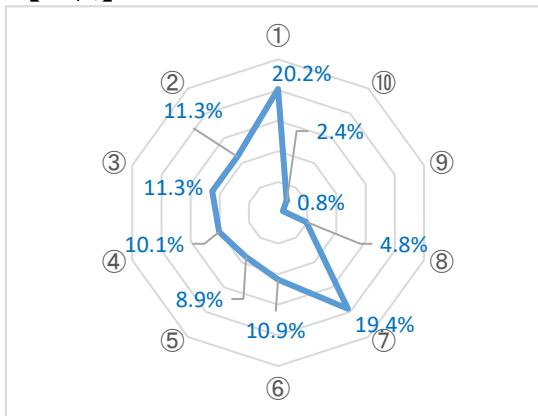
【20代】



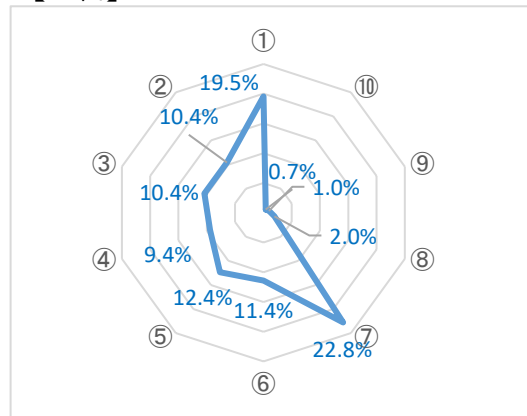
【30代】



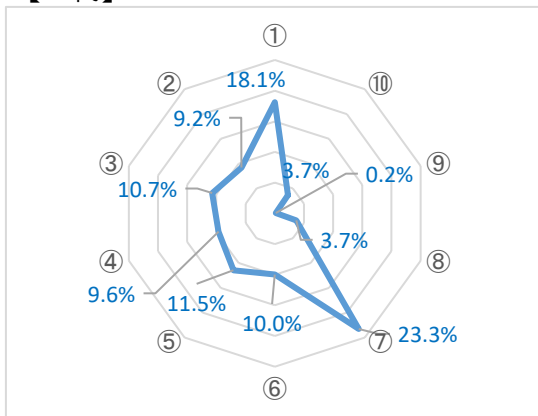
【40代】



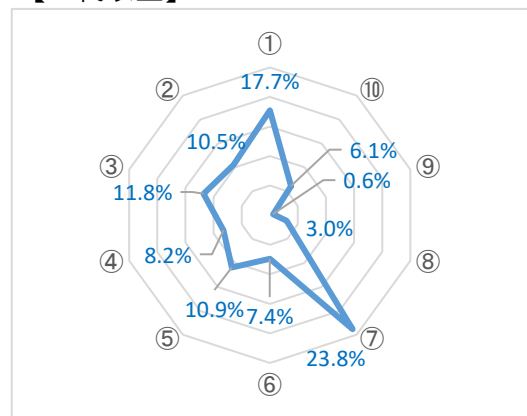
【50代】



【60代】



【70代以上】



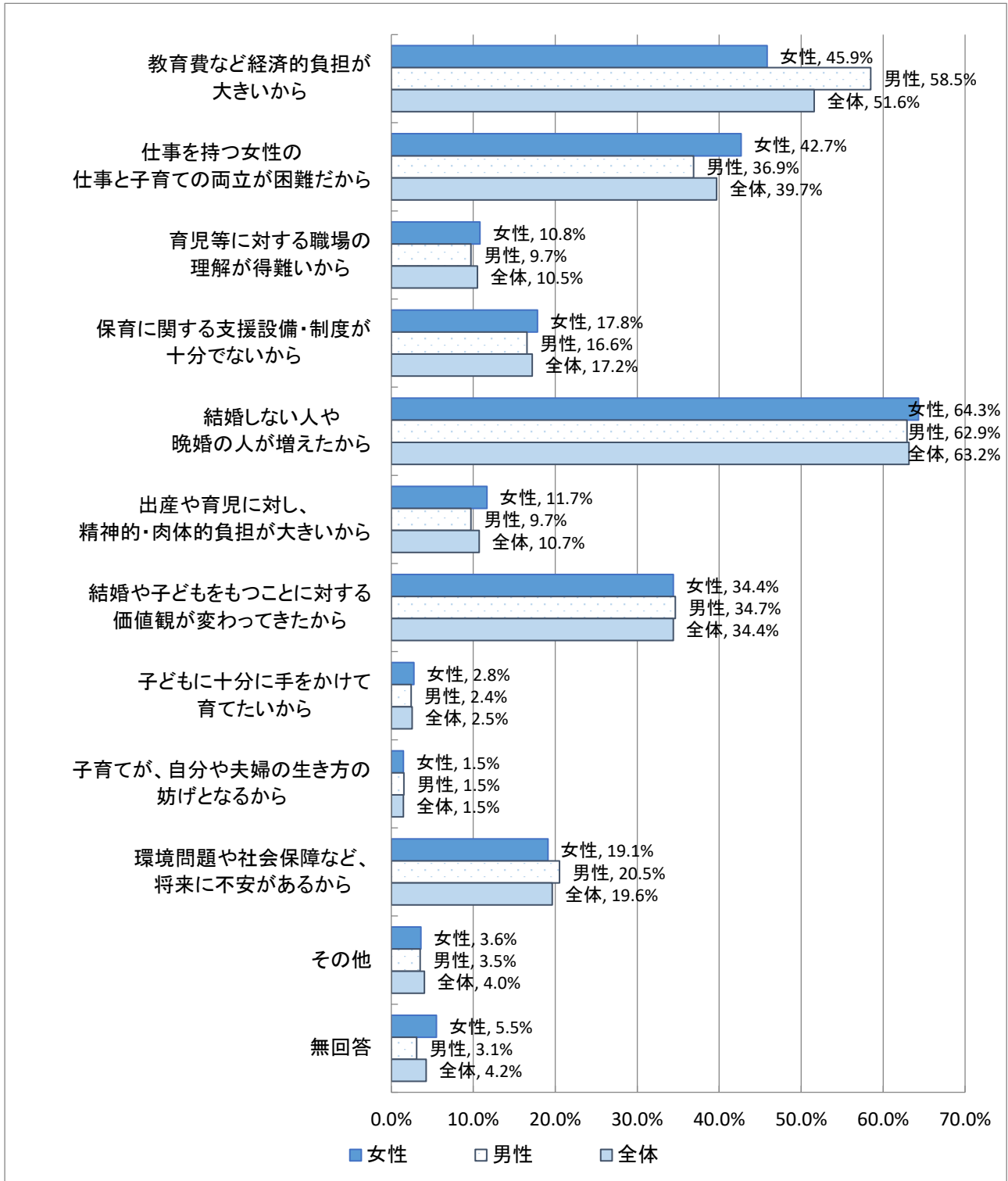
- ①社会通年や慣習を改めるための啓発活動を実施する
- ②女性のリーダーを養成するための講座やセミナーを開催する
- ③保育所、幼稚園及び小中学校の保護者会における家庭教育学級を開催する
- ④家庭教育に関する相談体制の充実を図る
- ⑤人権問題について学ぶことのできる講習会を開催する
- ⑥男性が参加しやすい内容・企画の講座を開催する
- ⑦男女問わず生涯にわたる学習やスポーツ活動の機会を充実させる
- ⑧現状のままでよい
- ⑨その他
- ⑩無回答

少子化についておたずねします

問25 出生率が低くなっていますが、その要因と思うものを3つ以内でお選びください。

(女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人)

● 結婚しない人や晩婚の人が増えたことを要因だと思う人が最も多い。



全体で見ると、「結婚しない人や晩婚の人が増えたから」の割合が63.2%で最も高い。

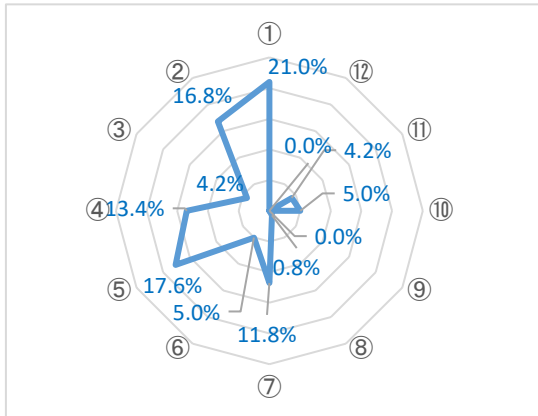
次いで、「教育費など経済的負担が大きいから」(51.6%)、「仕事を持つ女性の仕事と子育ての両立が困難だから」(39.7%)が続いている。

「その他」の回答として、「金銭的に不安があるから」、「子どもが欲しくてもできない者が増えた」、「産婦人科がない」、「男女共同参画を勧めると、より出生率が低くなると思う」などの回答があった。

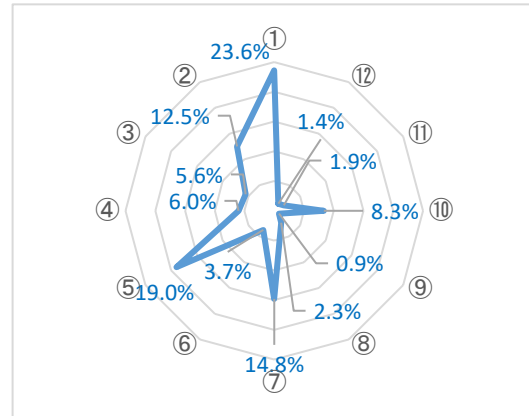
問25 出生率が低くなっていますが、その要因と思うものを3つ以内でお選びください。

○問25 年代別

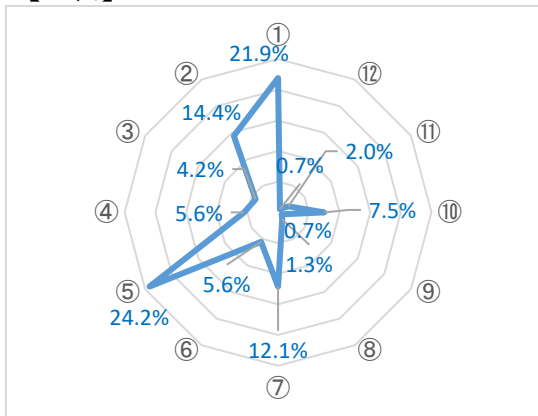
【20代】



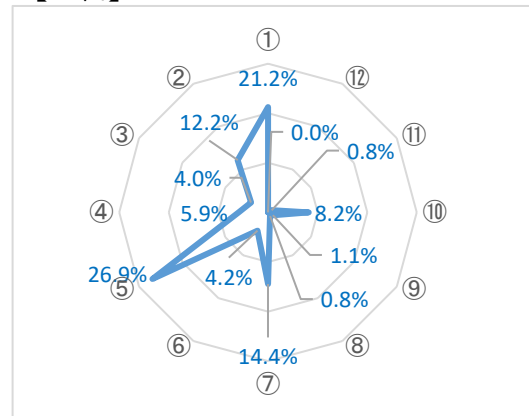
【30代】



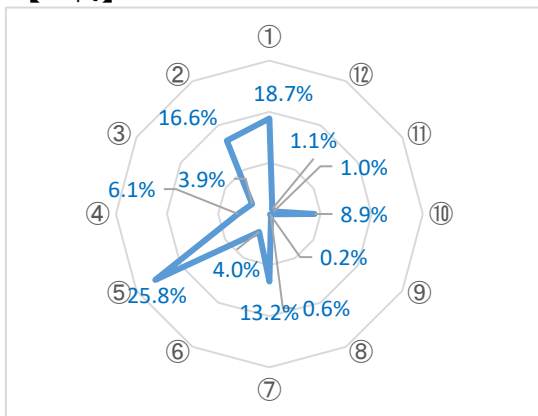
【40代】



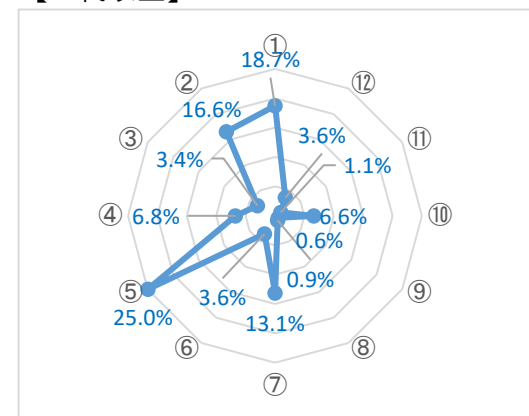
【50代】



【60代】



【70代以上】



- ①教育費など経済的負担が大きいから
- ②仕事を持つ女性の仕事と子育ての両立が困難だから
- ③育児等に対する職場の理解が得難いから
- ④保育に関する支援設備・制度が十分でないから
- ⑤結婚しない人や晩婚の人が増えたから
- ⑥出産や育児に対し、精神的・肉体的負担が大きいから
- ⑦結婚や子どもをもつことに対する価値観が変わってきたから
- ⑧子どもに十分に手をかけて育てたいから
- ⑨子育てが、自分や夫婦の生き方の妨げとなるから
- ⑩環境問題や社会保障など、将来に不安があるから
- ⑪その他
- ⑫無回答

問25 出生率が低くなっていますが、その要因と思うものを3つ以内でお選びください。
 前回調査（平成27年）との比較

	女性			男性			今回		合計		
	今回		前回	今回		前回	回答しない	無回答	今回		前回
	回答数	割合	割合	回答数	割合	割合			回答数	割合	割合
教育費など経済的負担が大きいから	216	45.9%	51.0%	265	58.5%	60.1%	3	2	486	51.6%	55.1%
仕事を持つ女性の仕事と子育ての両立が困難だから	201	42.7%	46.4%	167	36.9%	34.7%	3	3	374	39.7%	41.0%
育児等に対する職場の理解が得難いから	51	10.8%	17.0%	44	9.7%	8.0%	1	3	99	10.5%	12.9%
保育に関する支援設備・制度が十分でないから	84	17.8%	24.7%	75	16.6%	23.1%	1	2	162	17.2%	24.1%
結婚しない人や晩婚の人が増えたから	303	64.3%	62.9%	285	62.9%	64.7%	3	4	595	63.2%	63.6%
出産や育児に対し、精神的・肉体的負担が大きいから	55	11.7%	9.5%	44	9.7%	8.0%	0	2	101	10.7%	8.8%
結婚や子どもをもつことに対する価値観が変わってきたから	162	34.4%	29.8%	157	34.7%	34.7%	1	4	324	34.4%	32.0%
子どもに十分に手をかけて育てたいから	13	2.8%	2.2%	11	2.4%	1.9%	0	0	24	2.5%	2.1%
子育てが、自分や夫婦の生き方の妨げとなるから	7	1.5%	1.8%	7	1.5%	3.9%	0	0	14	1.5%	2.8%
環境問題や社会保障など、将来に不安があるから	90	19.1%	21.9%	93	20.5%	21.5%	1	1	185	19.6%	21.7%
その他	17	3.6%	1.8%	16	3.5%	4.7%	1	4	38	4.0%	3.1%
無回答	26	5.5%	2.4%	14	3.1%	3.0%	0	0	40	4.2%	2.7%

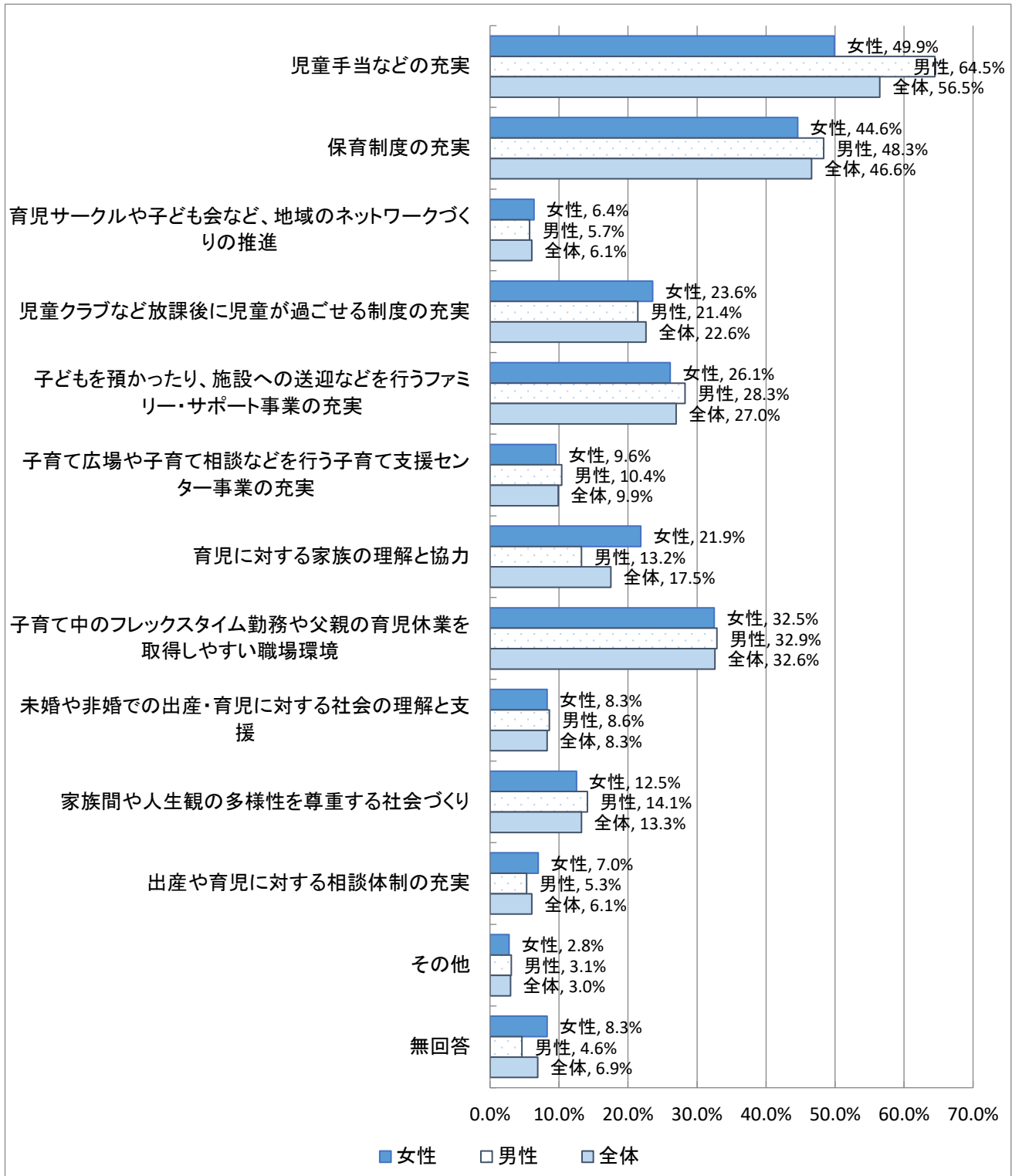
少子化の要因として、「結婚しない人や晩婚の人が増えたから」をあげる人の割合が、63.2%（前回63.6%）と、最も割合が高い。

「教育費など経済的負担が大きいから」（55.1%⇒51.6%）や「仕事を持つ女性の仕事と子育ての両立が困難だから」（41.0%⇒39.7%）は減少しているが、「結婚や子どもをもつことに対する価値観が変わってきたから」（32.0%⇒34.4%）が増加していることから、結婚観の変化を少子化の要因だと思う人が多くなっていることがわかる。

問26 今後、子どもを産み育てやすくする環境整備には、特にどのようなことが必要だと思いますか。3つ以内でお選びください。

(女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人)

● 児童手当などの充実や保育制度の充実を求める人が多いことがわかる。



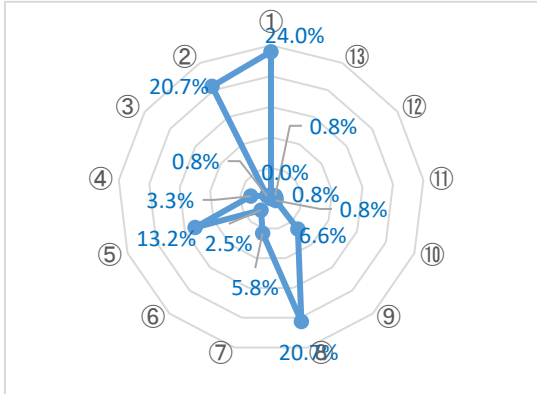
全体で、「児童手当などの充実」が56.5%と最も高く、次いで「保育制度の充実」(46.6%)、「子育て中のフレックスタイム勤務や父親の育児休業を取得しやすい職場環境」(32.6%)となっている。

「その他」の回答として、男性から「収入の増加」、「産科医の増員、医療の充実」、女性から「経済的負担が少ない」、「育児に対する社会全体の理解と協力」などの回答があった。

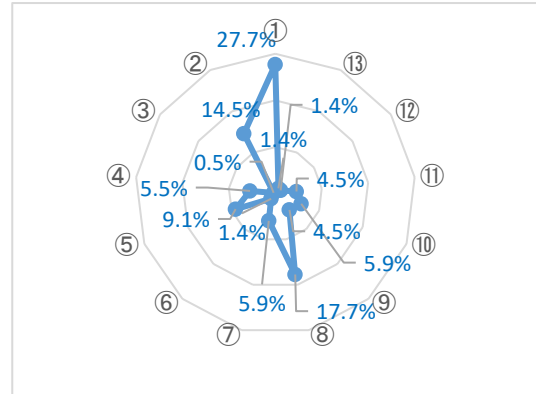
問26 今後、子どもを産み育てやすくする環境整備には、特にどのようなことが必要だと思いますか。3つ以内でお選びください。

○問26 年代別

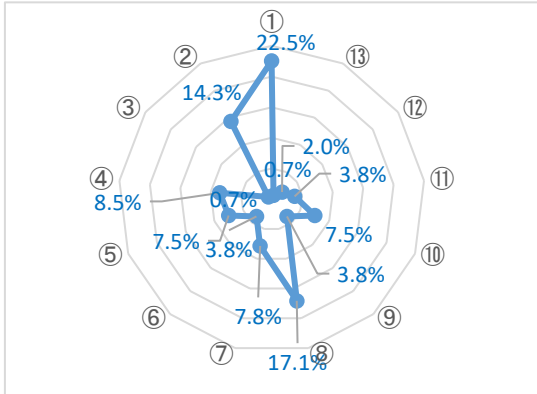
【20代】



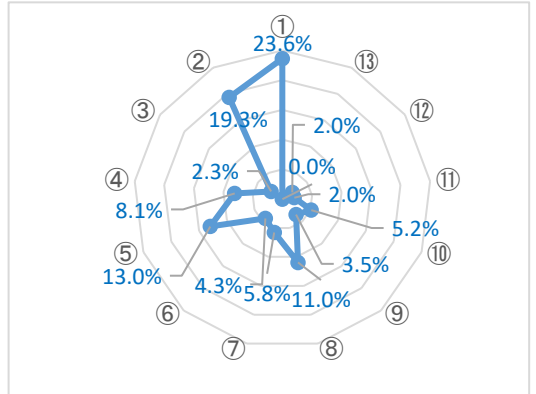
【30代】



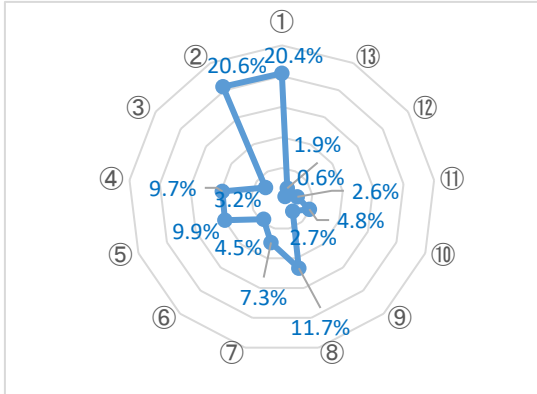
【40代】



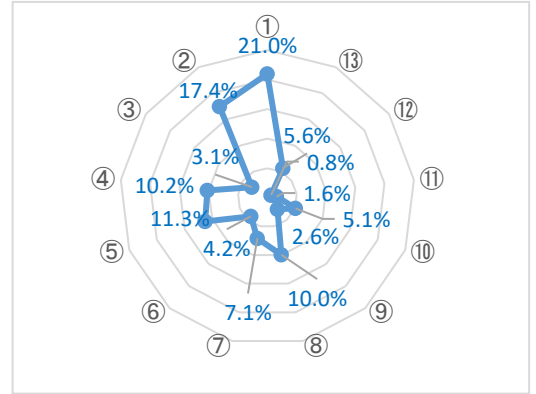
【50代】



【60代】



【70代以上】



- ① 児童手当など、経済的支援の充実
- ② 保育施設や、長時間保育や病後保育など保育制度の充実
- ③ 育児サークルや子供会など、地域のネットワークづくりの推進
- ④ 児童クラブなど放課後に児童が過ごせる制度の充実
- ⑤ 子どもを預かったり、施設への送迎などを行うファミリー・サポート事業の充実
- ⑥ 子育て広場や子育て相談などを行う子育て支援センター事業の充実
- ⑦ 育児に対する家族の理解と協力
- ⑧ 子育て中のフレックスタイム勤務や父親の育児休業を取得しやすい職場環境
- ⑨ 未婚や非婚での出産・育児に対する社会の理解と支援
- ⑩ 家族観や人生観の多様性を尊重する社会づくり
- ⑪ 出産や育児に対する相談体制の充実
- ⑫ その他
- ⑬ 無回答

問26 今後、子どもを産み育てやすくする環境整備には、特にどのようなことが必要だと思いますか。3つ以内でお選びください。

□前回調査（平成27年）との比較

	女性			男性			今回		合計		
	今回		前回	今回		前回	回答しない	無回答	今回		前回
	回答数	割合	割合	回答数	割合	割合			回答数	割合	割合
児童手当など、経済的支援の充実	235	49.9%	41.9%	292	64.5%	48.2%	2	3	532	56.5%	44.7%
保育施設や、長時間保育や病後保育など保育制度の充実	210	44.6%	42.6%	219	48.3%	43.8%	4	6	439	46.6%	47.6%
育児サークルや子供会など、地域のネットワークづくりの推進	30	6.4%	5.7%	26	5.7%	6.3%	1	0	57	6.1%	6.0%
児童クラブなど放課後に児童が過ごせる制度の充実	111	23.6%	24.1%	97	21.4%	27.5%	1	4	213	22.6%	25.6%
子どもを預かったり、施設への送迎などを行うファミリー・サポート事業の充実	123	26.1%	25.2%	128	28.3%	21.8%	1	2	254	27.0%	23.6%
子育て広場や子育て相談などを行う子育て支援センター事業の充実	45	9.6%	7.5%	47	10.4%	8.5%	0	1	93	9.9%	7.9%
育児に対する家族の理解と協力	103	21.9%	21.9%	60	13.2%	16.5%	0	2	165	17.5%	19.4%
子育て中のフレックスタイム勤務や父親の育児休業を取得しやすい職場環境	153	32.5%	42.2%	149	32.9%	32.2%	1	4	307	32.6%	37.7%
未婚や非婚での出産・育児に対する社会の理解と支援	39	8.3%	—	39	8.6%	—	0	0	78	8.3%	—
家族観や人生観の多様性を尊重する社会づくり	59	12.5%	—	64	14.1%	—	1	1	125	13.3%	—
出産や育児に対する相談体制の充実	33	7.0%	7.1%	24	5.3%	8.3%	0	0	57	6.1%	7.6%
その他	13	2.8%	3.1%	14	3.1%	3.3%	1	0	28	3.0%	3.3%
無回答	39	8.3%	3.5%	21	4.6%	3.9%	1	4	65	6.9%	3.7%

前回は、「長時間保育や病後保育など保育制度の充実」が47.6%と最も多かったが、今回は「児童手当など、経済的支援の充実」が56.5%で最も割合が高い。

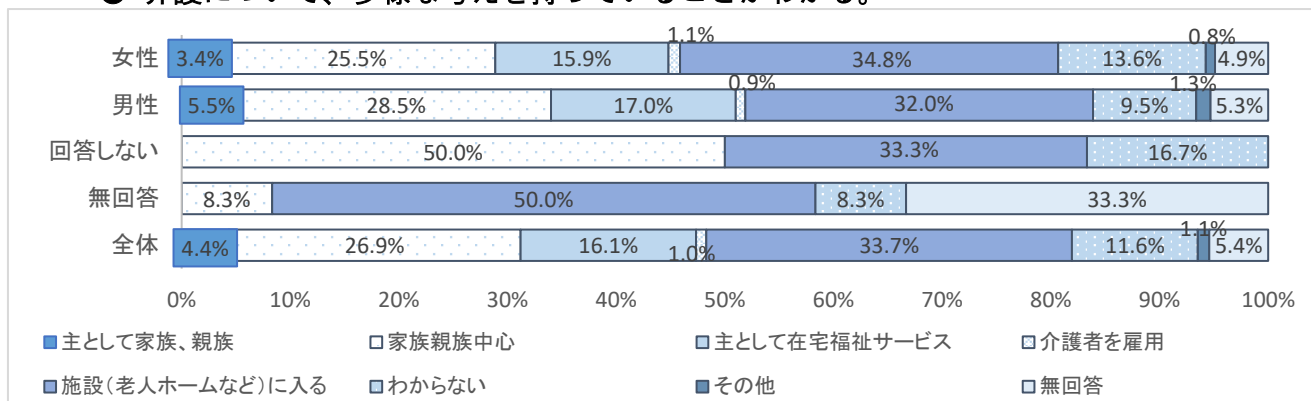
子育てのための環境整備には、実際の保育施設や保育制度の充実よりも経済的支援の充実を求める住民ニーズの変化を伺うことができる。

介護についておたずねします

問27 高齢化が進み、介護を必要とする高齢者が増えていますが、もしあなたに介護が必要になった場合、どのようにしたいと思いますか。1つお選びください。

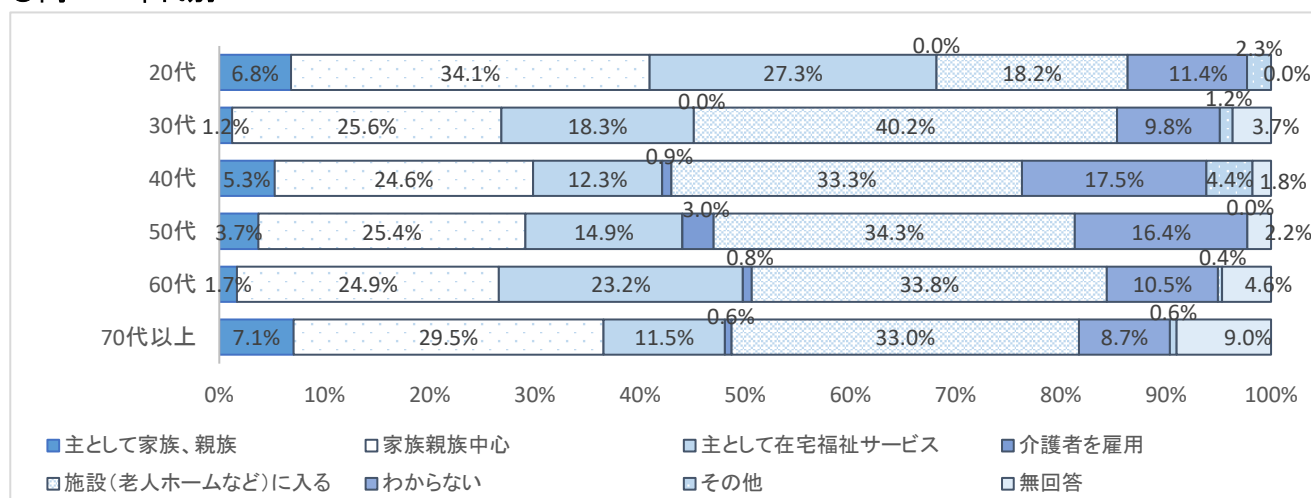
(女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人)

● 介護について、多様な考えを持っていることがわかる。



前回の調査では、男性では「家族、親族に中心となって世話をしてもらい、その足りない部分を在宅福祉サービスでおぎなってもらう」が最も高かったが、今回の調査では、「施設（老人ホーム等）に入る」が全体的・男女別とも最も高かった。

○問27 年代別



□前回調査（平成27年）との比較

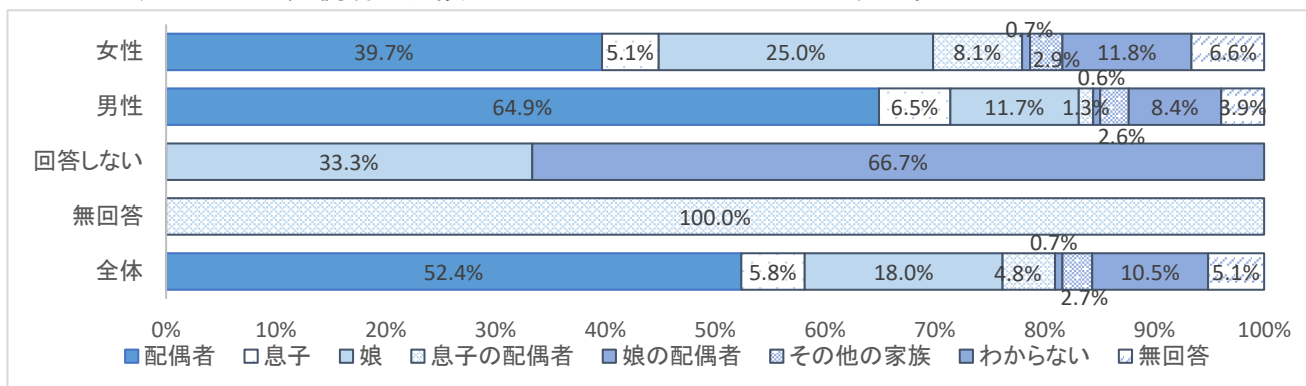
	女性			男性			今回		合計		
	今回		前回	今回		前回	回答しない	無回答	今回		前回
	回答数	割合	割合	回答数	割合	割合			回答数	割合	割合
主として家族、親族に介護してもらう	16	3.4%	2.6%	25	5.5%	7.2%	0	0	41	4.4%	4.6%
家族、親族に中心となって世話をしてもらい、足りない部分を在宅福祉サービスでおぎなってもらう	120	25.5%	27.4%	129	28.5%	29.8%	3	1	253	26.9%	28.6%
主として在宅福祉サービスなどを中心に利用し、家庭で世話をしてもらう	75	15.9%	18.3%	77	17.0%	12.1%	0	0	152	16.1%	15.5%
介護者を雇って世話をしてもらう	5	1.1%	1.1%	4	0.9%	0.8%	0	0	9	1.0%	1.0%
施設に入り、世話をしてもらう	164	34.8%	32.5%	145	32.0%	28.4%	2	6	317	33.7%	30.6%
分からない	64	13.6%	15.9%	43	9.5%	16.5%	1	1	109	11.6%	16.1%
その他	4	0.8%	0.7%	6	1.3%	1.9%	0	0	10	1.1%	1.2%
無回答	23	4.9%	1.5%	24	5.3%	3.3%	0	4	51	5.4%	2.3%
計	471	100.0%	100.0%	453	100.0%	100.0%	6	12	942	100.0%	100.0%

【問27で「1. 主として、家族、親族に介護してもらおう」または「2. 家族、親族に中心となって世話をしてもらい、その足りない部分を在宅福祉サービスでおぎなってもらおう」と答えた方に伺います。】

○付問1 それでは、主として家族のどなたに介護をしてもらいたいですか。
1つお選びください。

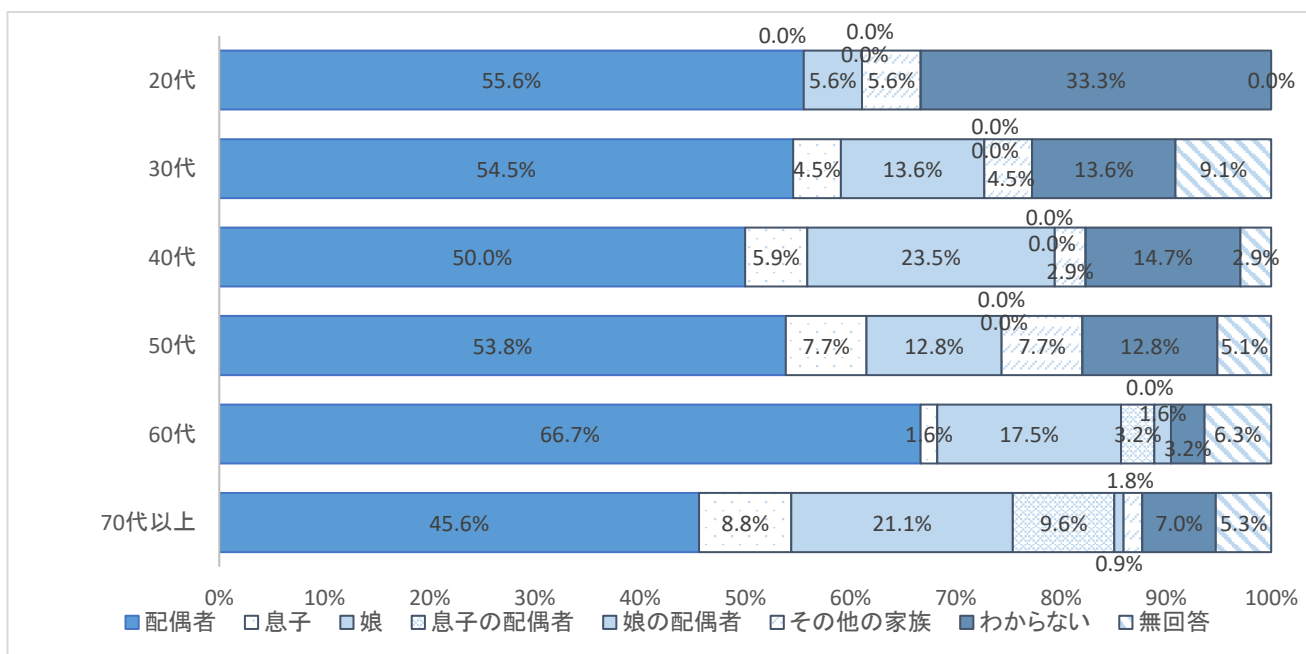
(女性136人 男性154人 回答しない3人 無回答1人 合計294人)

● 男女ともに配偶者に介護をしてもらいたいと思う人が多い。



「配偶者」に介護を望んでいるのは男性では64.9%、女性では39.7%で最も高いが、女性の割合は男性より低い。次いで、男性は「娘」11.7%、女性も「娘」25.0%であり、いずれも介護は女性に期待されている傾向がある。

○付問1 年代別



□前回調査（平成27年）との比較

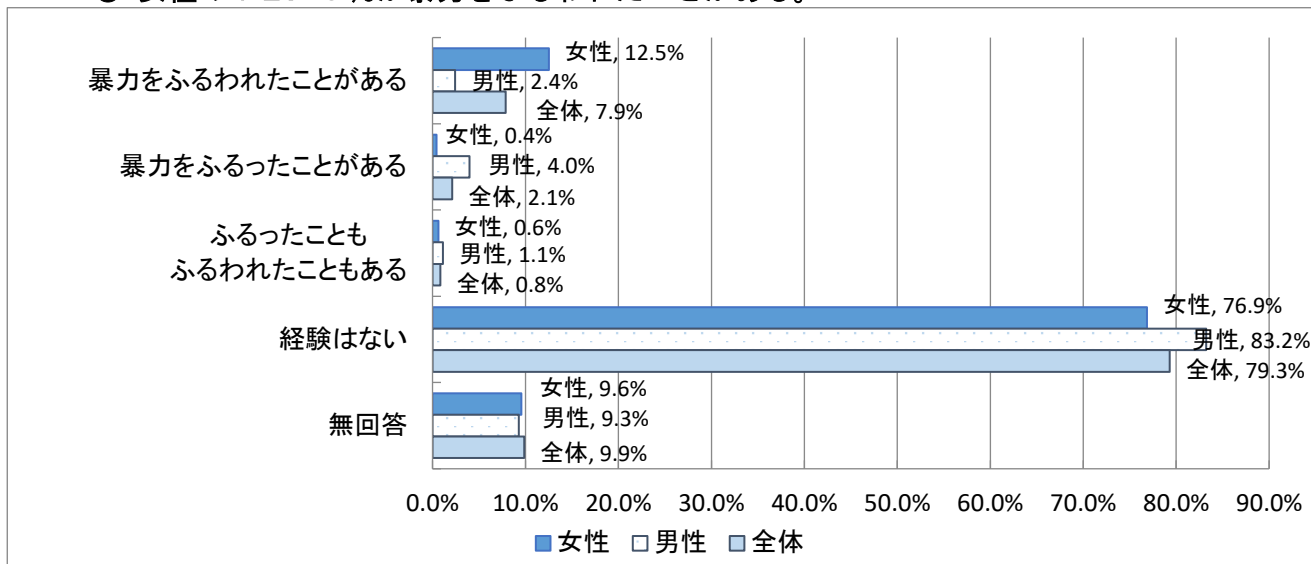
	女性			男性			今回		合計		
	今回		前回	今回		前回	回答しない	無回答	今回		前回
	回答数	割合	割合	回答数	割合	割合			回答数	割合	割合
配偶者	54	39.7%	39.7%	100	64.9%	73.9%	0	0	154	52.4%	56.3%
息子	7	5.1%	5.9%	10	6.5%	3.0%	0	0	17	5.8%	4.4%
娘	34	25.0%	28.7%	18	11.7%	6.7%	1	0	53	18.0%	18.0%
息子の配偶者	11	8.1%	2.9%	2	1.3%	1.5%	0	1	14	4.8%	2.2%
娘の配偶者	1	0.7%	0.0%	1	0.6%	0.0%	0	0	2	0.7%	0.0%
その他の家族	4	2.9%	3.7%	4	2.6%	4.5%	0	0	8	2.7%	4.0%
わからない	16	11.8%	15.4%	13	8.4%	7.5%	2	0	31	10.5%	11.8%
無回答	9	6.6%	3.7%	6	3.9%	3.0%	0	0	15	5.1%	3.3%
計	136	100.0%	100.0%	154	100.0%	100.0%	3	1	294	100.0%	100.0%

男女の人権についておたずねします

問28 あなたは、「DV（ドメスティック・バイオレンス）」の経験はありますか？
1つお選びください。

(女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人)

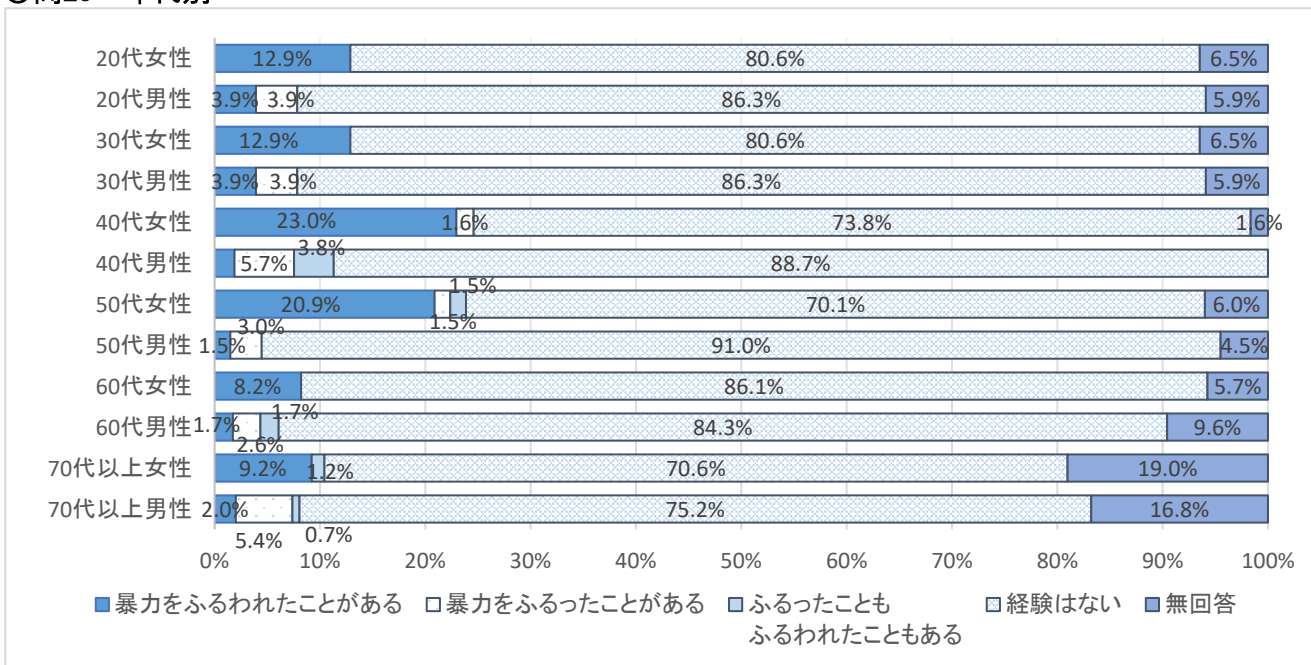
● 女性の12.5%が暴力をふるわれたことがある。



暴力の「経験はない」という回答が全体で79.3%だが、男性2.4%、女性12.5%が「暴力をふるわれたことがある」と回答している。

「暴力をふるったことがある」と回答しているのは、男性4.0%、女性0.4%である。

○問28 年代別



□前回調査（平成27年）との比較

	女性			男性			今回		合計		
	今回	前回	前回	今回	前回	前回	回答しない	無回答	今回	前回	前回
	回答数	割合	割合	回答数	割合	割合			回答数	割合	割合
暴力をふるわれたことがある	59	12.5%	14.1%	11	2.4%	2.2%	1	3	74	7.9%	8.8%
暴力をふるったことがある	2	0.4%	0.0%	18	4.0%	4.1%	0	0	20	2.1%	1.8%
ふるったこともふるわれたこともある	3	0.6%	3.1%	5	1.1%	2.5%	0	0	8	0.8%	2.8%
経験はない	362	76.9%	76.4%	377	83.2%	83.5%	5	3	747	79.3%	79.6%
無回答	45	9.6%	6.4%	42	9.3%	7.7%	0	6	93	9.9%	7.0%
計	471	100.0%	100.0%	453	100.0%	100.0%	6	12	942	100.0%	100.0%

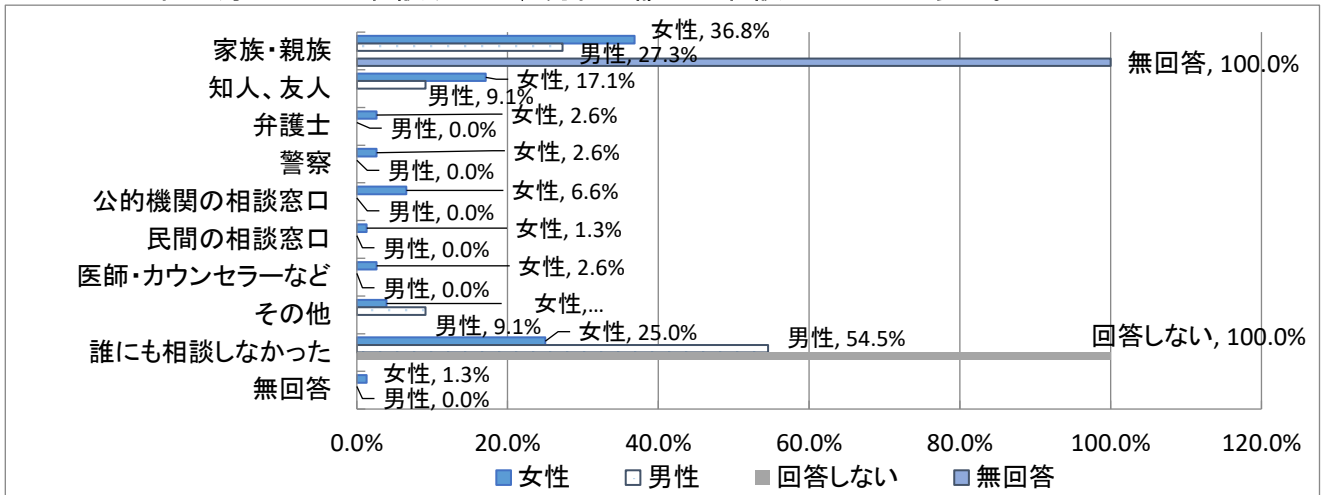
【問28で「1. 暴力をふるわれたことがある」と答えた方に伺います。】

○付問1 あなたは、このような行為を受けていることを誰かに相談しましたか。

主なものを3つ以内でお選びください。

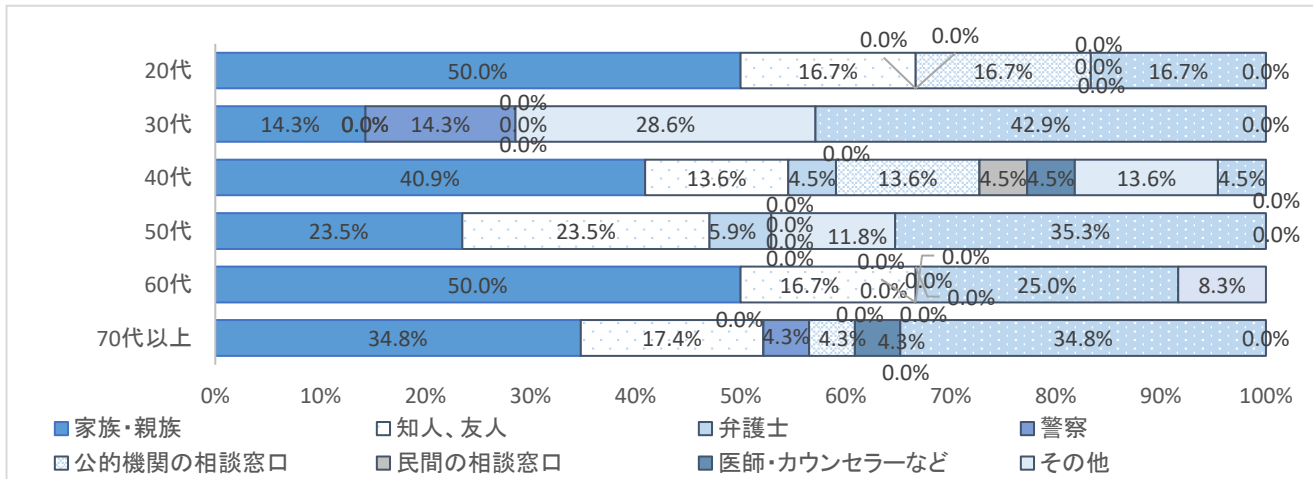
(女性59人 男性11人 回答しない1人 無回答3人 合計74人)

●女性は身近な人へ相談するが、男性は誰にも相談しない人が多い。



全体では、「家族・親族」(37.4%)が最も多かったが、次いで「誰にも相談しなかった」(28.6%)が多かった。「誰にも相談しなかった」理由は、「言っても無駄だったから」、「家庭内のことを話したくなかった」、「世間、親戚の目」、「自分が悪いと思ったから」などの回答があった。

○付問1 年代別



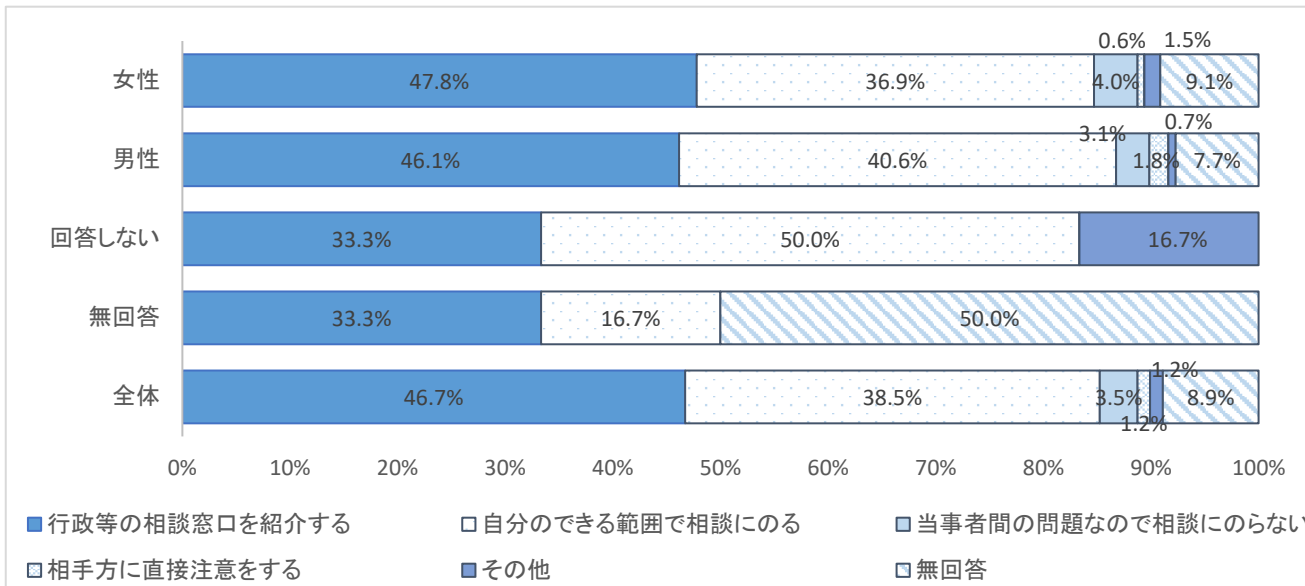
□前回調査(平成27年)との比較

	女性		男性			今回		合計		
	今回	前回	今回	前回	今回	今回	今回	今回	前回	
	回答数	割合	回答数	割合	割合	回答しない	無回答	回答数	割合	割合
家族・親族	28	36.8%	3	27.3%	25.0%	0	3	34	37.4%	48.6%
知人・友人	13	17.1%	1	9.1%	25.0%	0	0	14	15.4%	33.3%
弁護士	2	2.6%	0	0.0%	12.5%	0	0	2	2.2%	4.2%
警察	2	2.6%	0	0.0%	25.0%	0	0	2	2.2%	5.6%
公的機関の相談窓口	5	6.6%	0	0.0%	0.0%	0	0	5	5.5%	6.9%
民間の相談窓口	1	1.3%	0	0.0%	0.0%	0	0	1	1.1%	5.6%
医師・カウンセラーなど	2	2.6%	0	0.0%	12.5%	0	0	2	2.2%	6.9%
その他	3	3.9%	1	9.1%	0.0%	0	0	4	4.4%	0.0%
誰にも相談しなかった	19	25.0%	6	54.5%	50.0%	1	0	26	28.6%	33.3%
無回答	1	1.3%	0	0.0%	0.0%	0	0	1	1.1%	1.4%

男女ともに、「家族・親族」、「知人・友人」に相談したという回答が多い。次いで、「公的機関の相談窓口」、「医師・カウンセラーなど」、「警察」、「弁護士」の順になっており回答割合は低い。また、「誰にも相談しなかった」(28.6%)の割合が高いことが分かる。

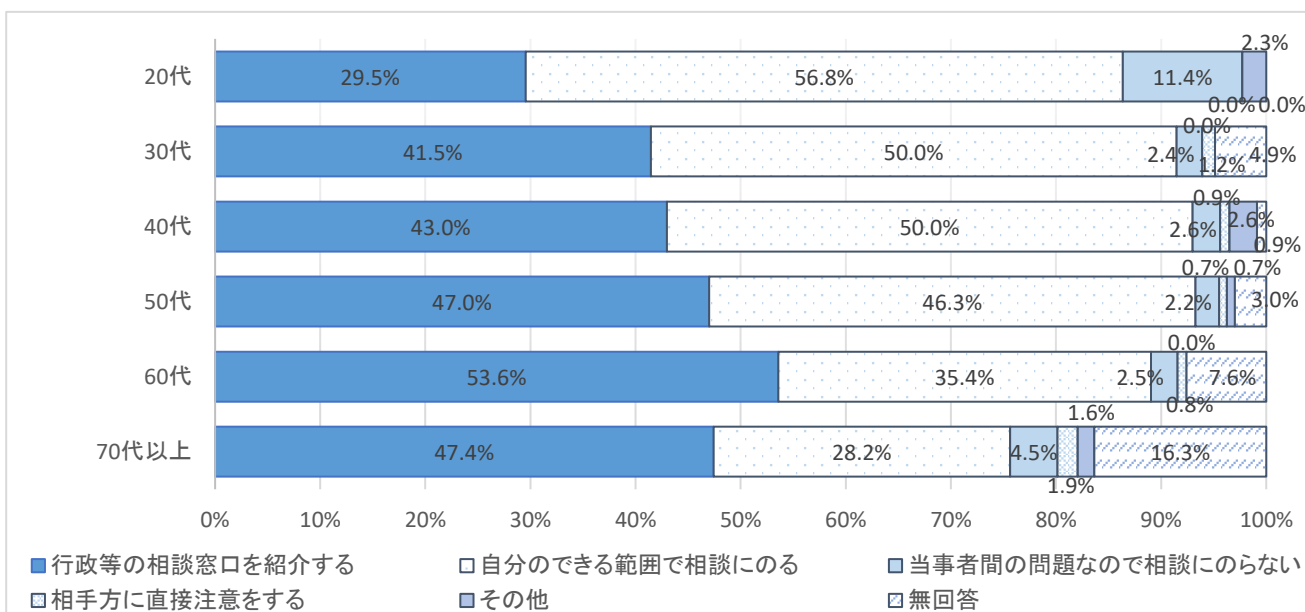
問29 あなたのまわりの方から、「DV（ドメスティック・バイオレンス）被害」について相談をされたら、最初にどうしますか。1つお選びください。

(女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人)



全体では「行政等の相談窓口を紹介する」(46.7%)、「自分のできる範囲で相談にのる」(38.5%)の割合が高い。

○問29 年代別



□前回調査（平成27年）との比較

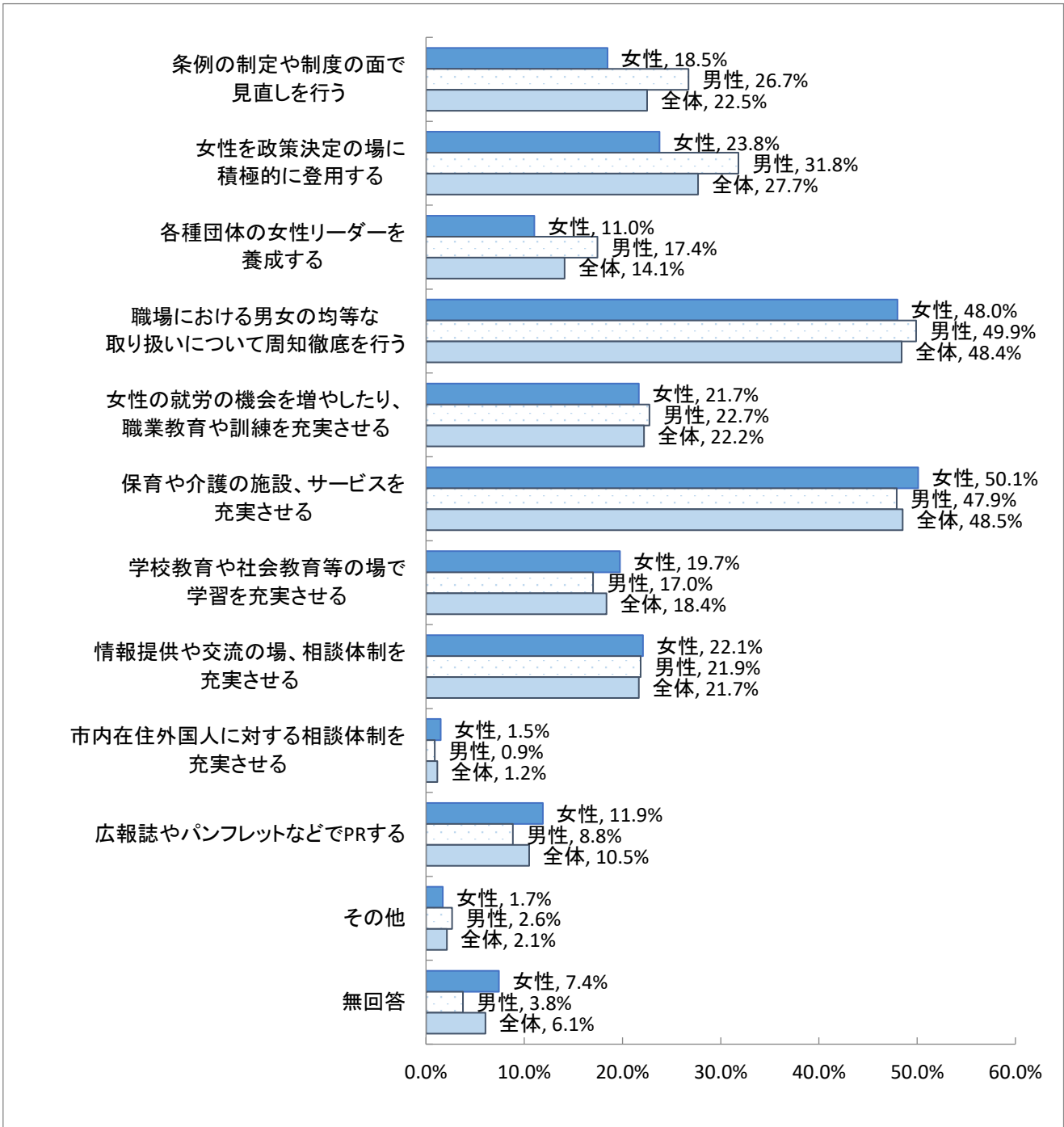
	女性			男性			今回		合計		
	今回		前回	今回		前回	回答しない	無回答	今回		前回
	回答数	割合	割合	回答数	割合	割合			回答数	割合	割合
行政等の相談窓口を紹介する	225	47.8%	37.5%	209	46.1%	31.1%	2	4	440	46.7%	34.7%
自分のできる範囲で相談にのる	174	36.9%	52.8%	184	40.6%	52.9%	3	2	363	38.5%	52.9%
当事者間の問題なので相談にのらない	19	4.0%	0.9%	14	3.1%	3.9%	0	0	33	3.5%	2.2%
相手方に直接注意をする	3	0.6%	1.5%	8	1.8%	3.3%	0	0	11	1.2%	2.3%
その他	7	1.5%	0.9%	3	0.7%	1.4%	1	0	11	1.2%	1.1%
無回答	43	9.1%	6.4%	35	7.7%	7.4%	0	6	84	8.9%	6.8%
	471	100.0%	100.0%	453	100.0%	100.0%	6	12	942	100.0%	100.0%

男女共同参画社会の実現についておたずねします

問30 男女共同参画社会の推進のために、栗原市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。3つ以内でお選びください。

(女性471人 男性453人 回答しない6人 無回答12人 合計942人)

● 半数以上の人が保育・介護の充実を求めている。



全体では、「職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う」、「保育や介護の施設、サービスを充実させる」、「女性を政策決定の場に積極的に登用する」の回答割合が高い。

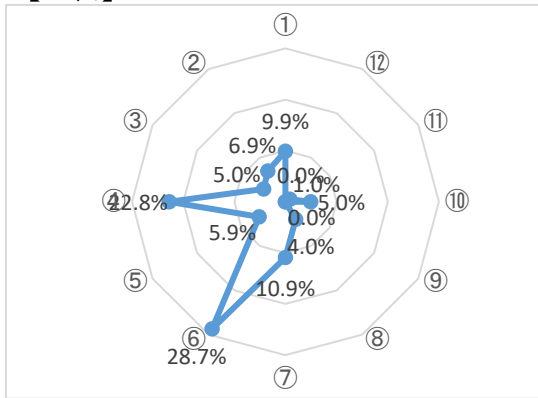
「その他」の回答として、男性から「男性の就労機会の増加や職業教育や訓練の充実」、「小中学校でのリーダーの育成」、女性から「男性の意識を変えるような啓発」、「父親の育児に対する知識を学ぶ機会の増加」などの回答があった。

施設や制度の充実に加えて、意識の改革を促す項目にまんべんなく回答があった。

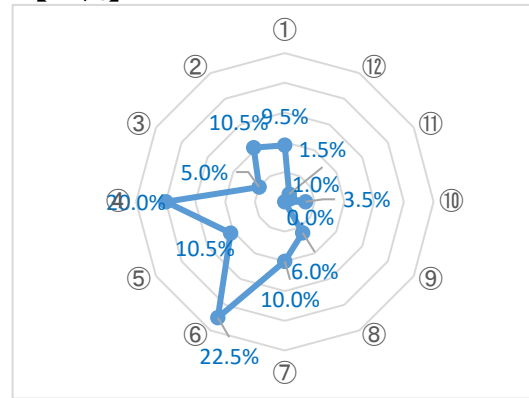
問30 男女共同参画社会の推進のために、栗原市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。3つ以内でお選びください。

○問30 年代別

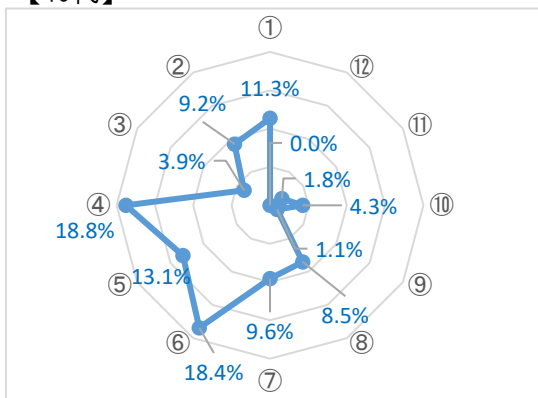
【20代】



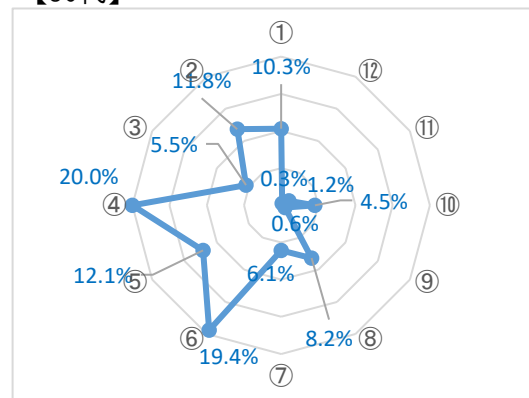
【30代】



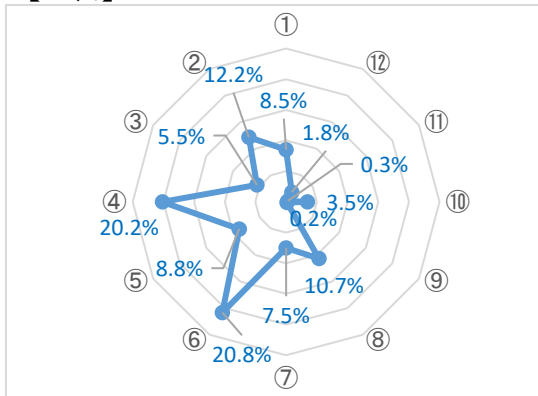
【40代】



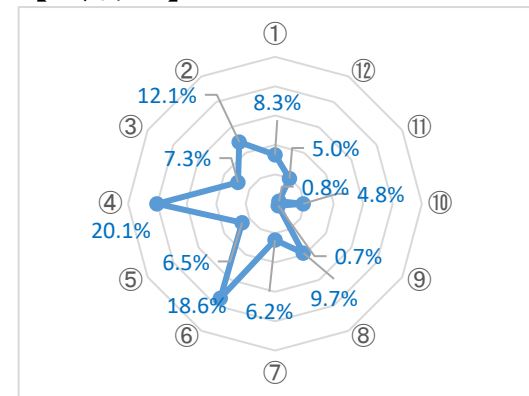
【50代】



【60代】



【70代以上】



- ① 条例の制定や制度の面で見直しを行う
- ② 女性を政策決定の場に積極的に登用する
- ③ 各種団体の女性リーダーを養成する
- ④ 職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う
- ⑤ 女性の就労の機会を増やしたり、職業教育や訓練を充実させる
- ⑥ 保育や介護の施設、サービスを充実させる
- ⑦ 学校教育や社会教育等の場で学習を充実させる
- ⑧ 情報提供や交流の場、相談体制を充実させる
- ⑨ 市内在住外国人に対する相談体制を充実させる
- ⑩ 広報紙やパンフレットなどでPRする
- ⑪ その他
- ⑫ 無回答

問30 男女共同参画社会の推進のために、栗原市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。3つ以内でお選びください。

□前回調査（平成27年）との比較

	女性			男性			今回		合計		
	今回		前回	今回		前回	今回		今回		前回
	回答数	割合	割合	回答数	割合	割合	回答しない	無回答	回答数	割合	割合
条例の制定や制度の面で見直しを行う	87	18.5%	22.3%	121	26.7%	26.4%	2	2	212	22.5%	24.2%
女性を政策決定の場に積極的に登用する	112	23.8%	16.1%	144	31.8%	26.7%	3	2	261	27.7%	20.8%
各種団体の女性リーダーを養成する	52	11.0%	10.1%	79	17.4%	16.3%	2	0	133	14.1%	12.9%
職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う	226	48.0%	37.1%	226	49.9%	33.1%	1	3	456	48.4%	35.3%
女性の就労の機会を増やしたり、職業教育や訓練を充実させる	102	21.7%	32.2%	103	22.7%	26.2%	2	2	209	22.2%	29.5%
保育や介護の施設、サービスを充実させる	236	50.1%	60.5%	217	47.9%	45.7%	2	2	457	48.5%	53.8%
学校教育や社会教育等の場で学習を充実させる	93	19.7%	21.4%	77	17.0%	22.0%	2	1	173	18.4%	21.6%
情報提供や交流の場、相談体制を充実させる	104	22.1%	21.0%	99	21.9%	25.6%	0	1	204	21.7%	23.2%
市内在住外国人に対する相談体制を充実させる	7	1.5%	1.8%	4	0.9%	2.2%	0	0	11	1.2%	2.0%
広報紙やパンフレットなどでPRする	56	11.9%	12.4%	40	8.8%	9.9%	0	3	99	10.5%	11.2%
その他	8	1.7%	2.0%	12	2.6%	3.3%	0	0	20	2.1%	2.6%
無回答	35	7.4%	5.5%	17	3.8%	6.9%	0	5	57	6.1%	6.1%

男女とも前回順位との大きな相違はなかったが、全体では「女性を政策決定の場に積極的に登用する」が20.8%から27.7%（6.9%増）「職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う」が35.3%から48.4%（13.1%増）となっている。

問31 その他、男女共同参画についてご意見やお気づきの点がありましたら、ご自由にお書きください。

1	20代女性	女性がするものと考えられる職種例として保育所で、男性職員用トイレがないことを聞いた。若い世代への情報提供も大切だが、上に立つ人間、年齢層へのセミナーを積極的に行わなければ変わらない。
2	20代女性	「男はこうあるべき」「女はこうしなければいけない」ではなく、男女としてでない1人の人間として社会で認められるようなことが平等というのではないかと思います。
3	20代女性	もっと男女が平等であるべき
4	20代男性	男女共同参画社会を推進するためには、私達公務員が意識改革し、正しい知識を学んでいかなければならないと考えます。
5	30代女性	女性は家で、男性は仕事という考えで過ごしてきた高齢者。その高齢者に育てられた定年するかしないかの年代。その方々の考えを変えなければ職場での育休や介護休暇を男性が取ることへの難しさは変わらないと思います。また、女性は結婚して子供を産むという流れも、そうしたくてもできない女性からすると、会社にどんなに産休とかが充実していても自分には何もメリットがありません。産むことが出来ない人に対しても何か支援が欲しい。
6	30代男性	優秀な女性が社会に出て働くことは大事なことだと思います。そういった女性が社会に出るきっかけが減らないように男女を均等な立場にもっていけるとよいと思います。子育てや介護の支援の充実も結果として男女共同参画社会につながるように思います。
7	30代男性	世代間で価値認識の差が大きい。経済的な自由・余裕によって、達成が近づく問題が大きい。
8	30代男性	魅力的な求人を増やして雇用を増やす
9	30代男性	特にこの地域は高齢化が進み、若い世代の意見は全くと言っていいほど聞き入れてもらえないと思っている。どれほど情報発信や啓発活動を行っても、意思決定が高齢者にある。そういう地域である以上、古い考え方は絶対変わりません。また行政の施策は多数の方に対して行うものです。地域の少数派である若者は声を上げて、聞き入れてもらうとは思っていません。行政で行えていない男女共同参画を民間は行えるはずがない。法律でもなければ変わりません。
10	30代男性	行政主導で女性リーダーを作ることは男女共同参画社会ではなく、女性優遇社会である。男女のくくりではなく、十分に能力を発揮できる職場環境を整えることが優先では？
11	30代男性	女性特有の派閥作り、これがなくならない限りは、女性は上に立たせたくない
12	40代女性	子育て中の女性が自分の子供を見ながらも社会で活躍できる場がもっと増えればと願います。
13	40代女性	このアンケートに意味はあるのか？無駄だと思う。
14	40代女性	一番トップにある官僚（大臣含む）に女性が少ない。そこから変わっていかねば難しいと思う。
15	40代女性	あえて女性、女性と訴えなくてよいと思う。男性・女性の性別を超えて各々の良いところを発祥できればよいのではないかと。多様化・多様性を尊重するのは良いことだと思うが、あえて性別を組み込まなくてもよいと思う。
16	40代女性	男性と女性の枠をこえ、女性の活躍の場が増えていく世の中になりつつあるが、まだまだ女性の負担が多い。寝る間をおしんで家事をしている。もっと女性に優しい世の中になって欲しい。最低賃金の底上げをして欲しいと思う。

17	40代女性	家事、育児、介護をそれぞれ分担してできるようになれば良いと思います。しかし、一人ひとり、男女の考え方も様々ですし、年代別でも考え方の違いは大きいかなと思います。コロナ休業中のテレワークは、女性にはほぼ無理な話です。（家事、育児と仕事の同時進行はできません。）仕事をしている女性と専業主婦の差別的なことも今は現実としてあります。「専業主婦だから暇」という方もいます。男女共同参画が推進⇒周知されればもう少し生きやすい世の中になるのかなと思います。
18	40代女性	男と女は違うので同じにする必要はないと思う。思いやりをもてば、どんな時でもうまくいくと思う。
19	40代女性	アンケート、ご意見書いても何も変わらない
20	40代女性	市民一人ひとりに耳を傾けることは無理なことかもしれませんが、それくらいの気持ちを持って動いていくべき。今はまず何よりコロナ感染を防ぐこと。医療の充実を最優先させて考えるべき。
21	40代男性	おまつり等のイベントで女性の参加を増やすよう考慮してほしい。若い男女が参加できるイベントを充実させる。
22	40代男性	トップに立つ人の意識を変えないといけない。市の議員たちもダメなやつが多すぎる。定年制にしてみれば、昭和で考えが止まって人がいる
23	40代男性	市議会議員の高齢化が目立ち、男尊女卑バリバリの世代の方が多いように思う。女性議員の育成や立候補できるような状況を考え、女性目線での政策も取り入れていけばよいのではないかと。若者が集えるようなイベントを企画して頂き交流の場を増やしていき、老若男女問わず最終的には結束力の強い市を目指していく。
24	40代男性	女性の労働市場進出は否定しないが、労働者増加による低賃金化、女子保護規定撤廃、海外労働者の依存を強める。育児保障を充実化して直面する問題を解決しても、付加価値の高い責任、技能、長期的な労働を自ら選択する気概のある女性が増えないといけないが、子育てとの両立は負担が大きい。
25	40代男性	本人の意識の問題のため、啓発活動で十分、男性でも機会に恵まれていない人は大勢います
26	40代男性	個人的には、そこまで重要なことなのかと疑問に思う。男性、女性がそれぞれの役割をこなせるように互いに協力、理解出来る社会づくりをすればよい。人間として生きていく上で、性別の機能、出産、授乳、育児等全ての生活において男女平等、同役割は絶対にありえないので、協力していけるような社会にしてほしい。一番変えなくてはならないのは会社、職場の意識だと思うので、企業に対してこういったアンケートをしてほしいし、行政から企業に対して指導、教育、義務化等の行動をしてほしい。
27	40代男性	このような調査をする前に最初に栗原市としてやらなければいけない事が多々あると思う！！だからよくなる！！若者が住みにくいので機会があれば他の市へ引っ越したいと思っている。栗原市をもっと住みやすい市にしてください！！他の市よりやはり劣っていると思う！！何に対してもその様な市に住みたいと思いますか！？税金をムダ使いするな！
28	40代男性	男女共同参画社会の推進は否定的。そもそも性別があるのは、それぞれの役割があるから。意欲があれば、男性も女性も、となると全体的に室が下がるし、精神的にも不安定になる。その結果、様々なハラスメントやDVが起こると思う。男女共同参画社会を実現しないと何が起きるのか。本当に良いことなのか、理解できない。
29	40代男性	周りが女性がもっとやれるという事を意識し、男性同様、女性が高い地位を得られるよう、どんどん持ち上げていけばいいと思う。

30	40代 男性	男だから女だからという考えは、やはり体力の対応力の差がる職場などでは変わらないと思います。もちろん、当事者の仕事への向き不向きや能力もあるのでしょうか。平等にはならないのではと思います。個々の意欲とは言っても意欲だけでは無理なこともあります。次世代への道を整える的に少しずつ変えるしかないのではないのでしょうか。昭和生まれがいなくなる時代からこういった計画は実るかもしれません。これから教育が受けられる世代から考えを伝えるしか平等にはならないかもしれません。市が職場を作り、約束事もしっかりする場所なら叶うかもしれませんが。
31	50代 女性	男性目線ではなかなか気づくことができないことも多々あると思うので、女性リーダーをもっと置いてもらい、女性側からの意見を聞いてもらえる機会・場所を作ってもらいたいと思う。
32	50代 女性	男女共同参画は、年配の方々の意識改革をしないとなかなか難しいと思う。田舎ほど「嫁なのにあれもしない、これもしない」と他の家のことをぶつぶつ言っている年寄りがあり、若い人がその場所にいるのが嫌になったりしている。年配の方々の意識改革、夫の意識改革。まだまだこれからのことだと思う。
33	50代 女性	男の人の給料だけで生活が成り立つような社会になれば、子育て家庭でのやりくりも上手くいくと思う。子供も家に母がいない事により、心理的に不安になったり、夫婦間もストレス的なことが多くなり、離婚など様々なことが起こりうると思う。女性が働くにあたっては家庭内で少しの時間を使っての方が望ましいと思う。これが昔の姿だが、理想だと思う。
34	50代 女性	栗原市は高齢化率が高い地域です。昔の方は男女平等の時代ではありませんでした。現代でも「女は・・・」という考えを持つ方が多いです。そう思う高齢者（男性）で、まだ現役でしっかりしている人も多いため、まだまだ女性優先で働いたり、役につくことは難しいと感じます。長い目で見据えていかなければならないと思います。「田舎」だからなおさら！！
35	50代 女性	女性が一人でも家族を養っていきける。自身を持てる。知識や経済的な支援等が受けられる。教育が役に立つ。（大学までの教育）未来を作る。
36	50代 女性	一步一步確実に進めることが大切だと思います。（多分）市民のほとんどが基本計画があることを知りません。広く啓発していくことがまず必要だと思います。
37	50代 女性	栗原市民のために毎日のお仕事ありがとうございます。住み心地の良い栗原市になりますよう自己努力を惜しまず頑張ります。
38	50代 女性	栗原市の女性はおとなしいですね。市議会議員になってくれる女性はいないのでしょうか？影ながら応援します。（私は裏方なので）
39	50代 男性	男女共同参画の計画が現状、どの様に進捗しているか分からないが、市としての原案があつていつまで実現させたいかのロードマップはあるのか？何か実施していることは無いのか？市としてのビジョンが見えない。
40	50代 男性	市の職員に（女性の）管理職がほとんどいない。積極的に登用しているとは考えられない。人事部に、まかせきりではないのか？
41	50代 男性	アンケート内容が古すぎる。共働きでなければ生活できないこの時代にイエス・ノーで質問に答えられないものが多くあった。公務員か、専業主婦、高齢の方々が作成したアンケートのようにしか思えない。休みづらいことを理解してほしい。それに今の女性たちはそんなに弱くない。逆に男性が顔色をうかがいながら仕事をしている感じだ。
42	50代 男性	魅力ある栗原市を作ってください。仕事も遊びも。

43	50代男性	まずは国として見本をみせる事！中央の影響で動くのが田舎です。何においても！！特に田舎は固定概念が強いため、改革することは時間がかかる
44	50代男性	両親が揃って地域とともに子どもを育てる制度と環境が必要であるとする。若い親が安心して子供を産み育てることができるよう家庭教育支援、子育て支援を地域の中でできるような環境と人材の育成を図る施策をしっかりととることが今後の栗原市の充実につながると考える。
45	50代男性	共同参画の実現は、一人ひとりの意識、振る舞いが天切だと思います。大人がそれを自然に子供たちに示し、若い人が社会人として生きていく時には、いろはの「い」基本の一つに身について、共にいろんな問題に協力して向かって行ってほしい
46	50代男性	もっと会社を増やすこと
47	50代男性	昭和のおやじさんが中心の市政では、無理かな？！男女共同参画＝老若共同参画だね。
48	60代女性	市の男女共同参画に対する取り組みについて見えてこないの、推進するには明確にしてほしい。また男女共同参画社会の実現のためには「職場の活気」があること、「家庭生活の充実」そして「地域力の向上」が求められ、これを3本柱とするならどれも引き上げられると思われる。市には特に地域の活性化をはかっていたいただき、暮らしやすい地域づくりに尽力していただきたい。男女共同あらゆる分野で活躍できる栗原市を実現していただきたい。
49	60代女性	職場・各種団体・家庭のトップの意識改革が必要だと思います。栗原は、まだまだ古い考えの人たちが多く、トップの考えを頭ごなしに押し付けられ、強いられる傾向が蔓延しているように思います。（トップに立つ人々の意識改革が必要）
50	60代女性	女性の目線から一人暮らし高齢者支援の具体策（たとえば家の掃除、洗濯、買い物、病院への通院など）を推進できる仕組みを作っていけると良い。各人ができることをちょっとずつ手伝っていきやすい環境づくり
51	60代女性	人口減少がますます進めば男女などと言ってられず、できる人ができる事をやるになると思います。人手の確保が重大問題となるでしょうね。
52	60代女性	質問に答えていないようですが国も市も何故いつもお金をバラまくことを考えてばかりいるのでしょうか。将来に借金を残すことはいけにあですよね。個々の家庭でも自分たちの働いているお小遣いで生活するように（できるだけ）した方がいいのでは……。税金をつかうのはもうやめにしていただけませんか？
53	60代女性	築館にもパークゴルフ場を設置してほしい
54	60代女性	今、結婚をし、便利な地区のアパートに独立し、過疎地の同居が減っており、子育ても各家族で大変になっている。3世代同居が少ないので、同居をするような政策も子育てしやすい環境づくりになると思う。
55	60代女性	若い夫婦が安心して3人以上の子育てが出来る住みやすい栗原市になるといいと思う。学校、スーパーが近くて、きれいで、広い町営住宅、家賃はすごく安い。条件は、子ども3人以上の若い夫婦。
56	60代女性	女性が社会進出するためには、男性に比べて負担が多すぎる（家事、育児、仕事プラス農作業）男性も積極的に家事、育児に参加し、仕事を持っている女性を理解して欲しい。”お互い思いやり”を持って地方では古い習慣が根強く残っているので、動きづらい。親世代と男性の意識改革が必要！

57	60代女性	男性の仕事場が多くあるとよい。できれば女性は子育てに専念して欲しい。あまりにも国や県・市が子育てに「力」を入れすぎている。誰の子か・・・自分の子供だろうと思う。（頼まれての子育てか）仕事も良いが、自分たちの子供は、自分たちで見てほしい。あまりにも頼まれ社会にしているのではないか。
58	60代男性	あらゆる機会に女性をリーダーに起用し、女性全体の意識の高揚を図ること。同時に男性の意識改革を行い、女性に対する腕力での抑え込みや蔑視をなくし、節度ある行動や考え方で接するべきで、特に10代、20代の世代からそのように教育すべきと考える。
59	60代男性	問30の様な諸問題をクリアするように、一つずつ改善していき実行に向けて進んではどうかな！！
60	60代男性	質問が特定の内容を選ぶだけでなく、一番最後に意見を記入する欄を設けた方が良いと思う。（※具体的な欄が少ない）
61	60代男性	男性の意識改革が大切（家族内の意識を変えていくことが基盤になると思います。）
62	60代男性	男女関係なく社会活動することに異論はないが、元々、男女の視野が違うと思う。何事も両者の意見を聞き入れる活動を望む。
63	60代男性	男女や世代の区別なく、お互いに人間として尊重し合うことのできる社会でありたい。働く場においても正規・非正規を問わず同一の労働に対し、同一の賃金や同一の権利（産休・育休・介護休暇等）が認められる労働環境でありたい。男女の別なく働く喜びや子育ての楽しさ、介護の大切さを共有することが男女共同参画社会を創り育てていく原動力になるのでは？誰もがかけがえのない命を持つ人間として認められ大切にされる社会こそ男女共同参画社会の向こうに見える理想社会なのでは・・・。
64	70代以上女性	男女共同参画は雇用均等法と深くかかわっており、この法の施行後、女の人の役職者が増えてきている気がします。それでもやはり、立場的にまた、周囲からの反応などは大変かと思っています。それでもそれを「やりがい」と感じるか「プレッシャー」と感じるかは人それぞれかと思っています。一世代前に比べると女性はずいぶん活躍していると思います。男性とは違う場では、むしろ女性の方が元気に輝いているということもあります。男は外、女は家という日本の古い慣習を改めるのには長い年月が必要かと思っていますし、徐々に変わりつつあると思います。政策決定などに積極的に登用する等ということより、女性が気持ちよく働ける環境づくりの方が優先だと思っています。
65	70代以上女性	80歳になると、このような文章に直？出来ません
66	70代以上女性	行政区長等の女性の方の数が少ない様に思われますが、何かルールでもあるのでしょうか。区長の定年の延長（女性が平均的に長生きだから）
67	70代以上女性	意見を集めやすい環境を作り、運営・目標とする具体的なモデルケースの確立・周知、・目標に向けたステップの構築・周知 具体的な行動がなければ形だけで終わると思います。
68	70代以上女性	改めて文章を見ると、難しいですね。
69	70代以上女性	年なのであまり理解できないけれど、自治会には参加してお話をしたい。
70	70代以上女性	二人で子どもを育てあげました。70歳を超えた老夫婦なので、よくわかりません。
71	70代以上女性	一層の広報をしてほしい

72	70代以上 女性	まず、家庭内においておじいさん、おばあさん、夫婦、子どもと仲良くすることが何よりも大事ではないでしょうか。そうすることによって、全てが良くなるような気がします。
73	70代以上 女性	特にありませんが、家族、嫁の嫌がらせに困っています。
74	70代以上 女性	栗原人は、あまりにも差別がありすぎる。貧乏人は、どこまでも貧乏。頭の悪い人はどこまでも。金があつて、頭の良い人は頭を下げる事を知らない。共同参画は、同じ人間、もう少しお互いに共同参画が県内にも知られるくらいの気持ちでいないとできませんよね。市長が下げても職員なんか頭下げる事全く知らない人がいます。小学、中学よりも職員に先に教育した方が良いと思います。
75	70代以上 女性	仕事が出来なくなったら国民年金だけでは暮らせない為不安です。年を取るたびに介護施設にも入れないですね。国民年金をもう少し上げてほしいです。国民年金から色々とひかれますね。不安です。
76	70代以上 女性	若い人が住む町づくり
77	70代以上 男性	活動の場を多く作り、「動」のきっかけを作る
78	70代以上 男性	女性を中心とする団体が存在すると思いますが、その組織の活動を率直に認め、幹部（行政の市長以下）は育成、発展に努力すべき。財政面を含めて。
79	70代以上 男性	男女共同参画社会の実現が言われてから久しいが、一朝一夕には実現は不可能。お互いに理解しあい一步一步実現に向かって歩みを進めてほしい。。日本人の思想の中に排他的な考えがある。日本人は外国人を、家族は他の家族を、男性は女性を排他するようなことが多くみられる。男尊女卑は考え方・女は家事育児をするという考え方をなくそう。女性自身の考え方改革の必要性。中高大学生は近頃、女性が中心になり部活・社会奉仕等、社会への貢献度が非常に高い。しかし、いざ就職すると受け入れてもあうことが少ないように思われる。市役所内ではどうですか。
80	70代以上 男性	もともと行政の守備範囲ではない。余計なお世話
81	70代以上 男性	雇用制度改革 例え公務員のような産前産後への改善
82	70代以上 男性	すばらしい基本計画は出来ていますが、なぜ現実には進まないのでしょうか。日々の生活から進めていかなければなりません。一朝一夕では達成できません。一人ひとりの意識が高くなっていった成果が見えてくる時代を着実に迎えたいものですね。
83	70代以上 男性	少子化について、原因は現在の社会制度、教育制度にあると思います。（国内企業、公務員等の求人条件に高い割合で四年生大学卒との学歴条件としている等）少子化解消について、現在の社会制度、教育制度の改正・見直しが必要（高校までの義務教育課を回る等）
84	70代以上 男性	意識調査の結果を公表しては？
85	70代以上 男性	スポーツの世界を見ると、今や男性のできる種目で女性が出来ないものは、ほぼ無いという状況です。このことから、男女の性差は、「全くない」と考えるべき。一人の人間としてあらゆる面で同一に扱うのが当然と考えています。そのためには、子どもの頃から「教育」の観点から考えていくといいのではないかと思います。
86	70代以上 男性	言われて久しい問題だが、社会全体の空気はまだまだ亭主や男性が優先されている。市内の各世帯でも戸主は、もっぱら男性だ。女性が社会に出て活躍することに異論は無いが、業種によっては女性に向かない仕事もある。（体力を必要とする業種）しかし、日本が地域が一定の経済成長していくには、労働としてもそうだし、もっと社会に出て活躍するべきだ。
87	70代以上 男性	昭和一桁の80歳の男性にアンケートをお願いしても…役にたつのか？無作為に選ばれても、戦前の男性の考えなんて自分本位で自己中心、他人のことなど知ったことではない